なるほど！子どもアカデミー

2017 年度活動報告書

目次

「子どもアカデミー」活動の趣旨と概要..... 1

１．土曜チャレンジ・アップ教室の概要..... 2

２．活動報告..... 4
２－１．チラシ及び企画書..... 4
２－２．活動報告..... 54
（１）スーパーボールを作ろう..... 54
（２）小さなモンスターを探そう！..... 62
（３）プラネタリウムを作ろう！..... 68
（４）小さな力持ちの秘密を解明しよう！..... 72
（５）ゴムの不思議を知って・作って・走らせよう！..... 75
（６）インドアプレーン作り..... 86
（７）砂時計を作ろう！..... 92
（８）キッチンでできる実験！..... 99
（９）不思議な板で光の世界を見よう！..... 112
（１０）スノードームのふしぎな世界..... 119
（１１）玉ねぎでオリジナルハンカチを染めてみよう！..... 125
（１２）旅するタネを使って作品を作ろう..... 132
（１３）見えない何かを映し出せ！..... 138
（１４）消える☆貯金箱！..... 145
（１５）オリジナル水族館を作ろう！..... 152
（１６）ふしぎなスノードーム..... 159

３．活動を振り返って..... 167

活動情報の公開..... 174

あとがきにかえて..... 175

「子どもアカデミー」活動の趣旨と概要

子どもアカデミー代表　高木　徹

「子どもアカデミー」は、教師をめざす現代教育学科の学生たちが、小学生に楽しく分かりやすく学習を支援する課外活動です。2013 年度から活動が始まりました。

現代教育学科では２年次秋学期に小学校で「観察実習」を行い、小学校現場の雰囲気に慣れたうえで、３年次春学期に「小学校教育実習」に臨みます。ただ「観察実習」では授業を担当することはできず、「小学校教育実習」で初めて授業を担当する学生たちにとっては、いろいろと戸惑うことも多いと思われます。そこで、「小学校教育実習」の前に、子どもたちに教える機会をつくりたい、という狙いで始められたのがこの活動です。

2017 年度は春日井市教育委員会主催の土曜チャレンジ・アップ教室を開催しました。土曜チャレンジ・アップ教室では、春日井市立小学校 8 校に出向き、小学 4 年生（一部 3 年生）から 6 年生までの子どもたちを対象に、月に 1 回土曜日にセミナーを実施しました。当日までに、学生スタッフは何週間も担当教員のもとで研修を受け、教科学習のほか、授業構成や制作物の指導などを学び、子どもたちに伝えるかにはどのような工夫が必要かを検討しました。土曜チャレンジ・アップ教室での全ての活動は活動の経緯や具体的な出来事を記録し、講座終了後には報告会を実施し、講座内容の振り返りと今後の課題を見出し、本報告書を作成しました。

この一連の活動が 2017 年度の子どもアカデミーの活動です。学生は、小学生の様々な分野の学習をきちんと支援できるよう、大学の授業以外の時間にも準備を重ねており、その準備には、現代教育学科の教科専門の教員たちが強力にバックアップしました。

最後となりましたが、2017 年度の活動は春日井市教育委員会及び春日井市立小学校の学校長をはじめとする多くの方々のご支援を得て活動できたことに感謝申し上げます。このような活動は、学生たちやそれを支える教員の地域貢献の場であると同時に、学生の教育実践力を育てる貴重な機会の場でもあります。今後も持続的に本活動を推進していきたいと考えています。

「子どもアカデミー」教員組織（2017 年度）

教授	高木　徹		
	吉田　直子	三島　浩路	
准教授	小笠原　豊	橋本　美彦	小池　嘉志
	長尾　寛子	古市　真智子	
講師	味岡　ゆい		

１．土曜チャレンジ・アップ教室の概要

(1) 活動の経緯・趣旨

本年度は、春日井市立春日井小学校・勝川小学校・北城小学校・鳥居松小学校・松原小学校・松山小学校・東野小学校・八幡小学校にて、土曜日の午前中 2 時間を用いて、活動を実施した。対象は 4～6 年生。「楽しくてちょっと学べる土曜日学習」をテーマに、児童らが小学校で学習した内容を活かした企画設定を目指し、学習内容の応用を通して、児童らの発展的発想力を養うことが活動のねらいである。本活動は、春日井市教育委員会学校教育課の支援のもとに実施した。

(2) 学生組織

学生は 65 名（1 年生 25 名（PJ1-14 名、PJ2-11 名）、2 年生 25 名、3 年生 5 名）が参加した。

参加学生を 8 チームに分け、1 チーム 8～9 名とした。1 チームで 1 つの企画を練り、小学校へ出向き企画を行った。企画リーダーは毎月異なる学生が担当し、企画を進行した。土曜チャレンジ・アップ教室の当日運営は、受付から誘導、企画担当などすべてを 1 チームのみで対応した。しかし、毎企画、別のチームから取材班 2～4 名を派遣させ、企画後、子どもアカデミーHP 用の報告書と企画に対する意見書をまとめ、お互いの企画に対しての課題を検討した。

(3) 活動スケジュール

土曜チャレンジ・アップ教室は基本的に月に 1 回、土曜日の午前中に小学校へ学生が出向き行った。企画の準備は全体会にて学生間で日程を決め、実施した。全体会及び企画の日程は表 1 である。

(4) 参加人数

土曜チャレンジ・アップ教室への児童参加は、1 企画定員 30 名と設定し、募集を行った。土曜チャレンジ・アップ教室当日関わった参加者を表 1 に示す。

表 1. 2017 年度土曜チャレンジ・アップ教室活動実績

		プログラム	学生人数	学生リーダー	児童人数			教育関係者	教員	その他
					対象学年	申し込み	参加			（保護者など）
春日井小	6月10日	スーパーボールを作ろう	9	伊藤（2年）	4年～6年	48	36	5	吉田	10
	10月7日	不思議な板で光の世界を見よう！	7	太田（1年）	4年～6年	13	13	3	味岡	5
	11月18日	玉ねぎでオリジナルハンカチを染めてみよう！	8	梶川（1年）	4年～6年	23	22	5	味岡	3
勝川小	6月3日	小さなモンスターを探そう！	9	丹羽（2年）	4年～6年	14	14	3	味岡	2
	7月8日	砂時計を作ろう！	9	松尾（2年）	4年～6年	35	33	3	味岡	2
	11月18日	スノードームのふしぎな世界	10	渡辺（1年）	4年～6年	37	25	3	吉田	3
	12月16日	オリジナル水族館を作ろう！	7	村上（1年）	4年～6年	12	13	4	長尾	2
北城小	6月3日	プラネタリウムを作ろう！	7	稲田（2年）	4年～6年	51	29	3	味岡	5
	7月1日	スーパーボールを作ろう！	12	鈴木（2年）	4年～6年	54	35	2	高木	12
	10月14日	玉ねぎでオリジナルハンカチを染めてみよう！	12	村林（1年）	4年～6年	17	17	3	吉田	0
	12月9日	不思議な板で光の世界を見よう！	6	山次（1年）	4年～6年	16	15	3	高木	1
鳥居松小	6月17日	小さな力持ち⁉の秘密を解明しよう！	11	中野（2年）	4年～6年	17	17	4	長尾	3
	7月15日	ゴムの不思議を知って・作って・走らせよう！	9	村田（2年）	4年～6年	19	19	3	古市	7
	11月4日	旅するタネを使って作品を作ろう	9	河合（1年）	4年～6年	11	10	3	味岡	1
	12月2日	見えない何かを映し出せ！	8	井口（1年）	4年～6年	20	19	2	味岡	1
松原小	6月10日	ゴムの不思議を知って・作って・走らせよう！	8	松澤（2年）	4年～6年	10	10	2	味岡	2
	7月1日	小さな力持ち⁉の秘密を解明しよう！	9	西（2年）	4年～6年	7	7	2	吉田	1
	10月14日	見えない何かを映し出せ！	10	小関（1年）	4年～6年	31	29	2	古市	0
	12月9日	旅するタネを使って作品を作ろう	7	柴田（1年）	4年～6年	11	10	3	橋本	0
松山小	6月10日	インドアプレーン作り	10	宮崎（2年）	4年～6年	15	14	4	味岡	1
	7月8日	キッチンでできる実験！	8	若林（2年）	4年～6年	18	18	2	味岡	0
	11月18日	消える☆貯金箱！	6	峪田（1年）	4年～6年	32	32	4	吉田	1
	12月16日	ふしぎなスノードーム	8	堀田（1年）	4年～6年	40	32	3	吉田	3
東野小	6月17日	砂時計を作ろう！	8	鈴木（2年）	4年～6年	18	18	4	橋本	2
	7月1日	小さなモンスターを探そう！	8	山田（2年）	4年～6年	9	9	3	高木	0
	10月14日	オリジナル水族館を作ろう！	7	青山（1年）	3年～6年	12	12	3	吉田	0
	12月9日	スノドームの不思議な世界	8	鈴木（2年）	3年～6年	19	19	2	高木	0
八幡小	6月17日	キッチンでできる実験！	8	若林（2年）	4年～6年	11	9	4	味岡	0
	7月1日	インドアプレーン作り	6	宮崎（2年）	4年～6年	20	20	3	吉田	4
	10月14日	ふしぎなスノードーム	8	關谷（1年）	3年～6年	32	32	3	古市	6
	12月9日	消える☆貯金箱！	6	岩田（1年）	3年～6年	23	18	4	橋本	0

学生人数	258
児童人数	606
教職員ほか	174
合計	1038

２．活動報告

土曜チャレンジ・アップ教室 2017 で提案した企画は 16 種類である。全体目標として、「教科横断的な学習づくりを目指して」を立て、2 教科にわたる学習内容を考慮した企画の立案を目指した。

２－１．ちらし及び企画書

（１）スーパーボールを作ろう

タイムスケジュール

学生の目標	自分の役割周りに気を配る。 跳ねる原理について理解させる。 児童と先生の立場を考えながら接する。

児童の目標	跳ねる原理について知る。 鑑賞することで友達作品の良さに気付く。 楽しくスーパーボールを作る。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30～ 9:35	あいさつ[伊藤]	・起立、礼、着席	
	導入[伊藤]	・実際に作ったスーパーボールを紹介し、興味を持ってもらう。	★自作のスーパーボール
9:35～ 9:40	スーパーボールが跳ねる理由[中野、梶川]	なぜ跳ねるのか説明する。 ・弾性力によることだと説明する。 ・わかりやすく、興味を持ってもらうために簡単な劇を行う。	★パワーポイント
9:40～ 9:45	材料確認[大倉]	1. 児童のそばへ行き不足している材料などがないか確認する。 2. 足りない材料があれば各班の学生が取りに行く。	教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておいてく。 ★PVA 選択のり・食塩の入ったペットボトル・わりばし・キッチンペーパー・手袋・絵具・持ち帰り用の袋・のりの入ったコップ、ホウ砂のコップスポイト、水槽、星のコップ、線の入ったコップ
9:45～ 9:50	説明①[村林]	パワーポイントを使って作り方の説明を行う。 1. PVA 洗濯のりをプラスチック製コップに青の線まで取る。 2. 好きな絵具を入れる 3. 星のコップに食塩水を線まで入れて１と混ぜる。 4. 割り箸でかるくかき混ぜる。 5. 魔法の水を混ぜながら、５～６回スポイトでいれる。ゼリー状になるまで行う ６．１～５までの作業を、色を変	★パワーポイント（写真で説明するため。）

		えてもう一度行う。 7．２つの色を合体させ固める。	
9：50～ 10:10	作成	・説明であった気を付ける点に注意させながら作業をさせる。 ＊使わないものはトレーに入れさせる。	★ラミネート
10:10～ 10:25	クイズ大会	・なぜできるかの説明をクイズを通して行う。 ・各班担当者が行う。 ・クイズの答え合わせでスライムを作る。	★クリアファイル
10:25～ 10:30	演示実験[加藤]	児童を前に集め、スーパーボールの性質を利用したストローロケットの実験を演示する。 1．スーパーボールに竹串を刺す。 2．竹串にストローをかぶせる。 3．スーパーボールを手で持ち、真上から落とす。 ・学生は、班の机の上を片付ける。	★スーパーボール（大、小）・ストロー・竹串・ゴーグル
10:30～ 10:45	休憩[後藤]	・休憩の注意事項を説明する。 ・WC の手洗いで児童の手を洗わせ、給水させる。	★パワーポイント
10:45～ 11:05	鑑賞[鈴木、山口] 名前と理由の時間 タイマー5分 鑑賞 タイマー10 分 （各2分）	・児童に、スーパーボールの名前付けなど紹介文を作成させる。 ・できたスーパーボールを鑑賞する。 ・椅子をしまわせる。 ・10 分が終わったところでスーパーボールを袋にしまうよう指示する。	★感想用紙
11:05～ 11:20	まとめ・感想用紙の記入・認定証配布	1．今日一日の感想を児童に聞く。 2．名札の裏に今日の感想を書いてもらう。	★認定証 （仕分け：伊藤）

	［伊藤］	3. 感想を書いた名札を学生に渡し認定証をもらうように指示する。	
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（２）小さなモンスターを探そう！

タイムスケジュール

学生の目標	1年生：分からないことは明確にし、自主的に活動できるようにする。 2年生：昨年の経験をいかし、一年生の見本となるような行動をとれるようにする。 共通：自分の役割を理解し、責任を持って行動する。 児童に対する接し方や態度を身につけ、先生としての接し方を学ぶ。
児童の目標	ちりモンを通して海の生物について興味を持つとともに、遊ぶ楽しさとともに、学ぶ楽しさを実感する。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[丹羽]	・起立、礼、着席	
9:35	導入[丹羽]	・注意事項など説明 ・授業との関連の説明	
9:40	説明(1)[山田さ]	・ちりモンとは何か説明 ・ここで一度実際のチリモンを見てもらう	・3班の学生がいなくなるため注意
9:45	クイズ[中島]	・ちりモンの画像を見てちりモン探しをしてもらう ・二問程度行う ・時間をしっかり伝える	・各テーブルにちりモン探し問題と印付けのためのペンを用意しておく。
9:50	材料確認[伊藤]	・児童のそばへ行き不足している材料などがないか確認する	・教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておいてく
9:55	説明(2)[木村]	・担当者は前に出て説明する ・その他の学生は静かにするように指導する ・道具の使い方についてもしっかり指示する ・時間をしっかり伝える	・学生も聞く
10:00	作業	・児童が道具の使い方を守りながら作業しているか見守る ・子どもがやっていて楽しくなるような声かけ	
10:15	休憩[松本]	・注意事項を連絡する ・ちりモンの扱いに注意する ・時間をしっかり伝える	・座っていない椅子はできるだけ机の中にしまう

10:20	説明(3)[渡辺]	・ちりモンカードの作り方について説明する ・1 つのカードにつき一体のちりモンということを伝える ・ラミネーターには触らないことを伝える ・時間をしっかり伝える	・ラミネーターをあたためておく[天野・中島]
10:25	制作	・ラミネーターが並んでいた場合の声かけ ・子どもの発想を大切にする ・はさみの取り扱いに注意する ・ラミネーターはあつくなっているため児童には触らせない	・ラミネーター係[天野・中島]
10:40	説明(4)[天野]	・班内での活動ということを伝える ・ルールをしっかり伝える ・ルールが理解できたか確認する	
10:45	活動	・班の中のみで行わせる ・やりたくない児童に対してもしっかりと対応する	・道具バットを机の下に入れさせてから活動する
11:10	まとめ ・感想記入と認定証配布[山田れ] ・次回予告とあいさつ[丹羽]	・名札の裏に感想を記入してもらう ・認定証と名札を交換する	・認定証[伊藤] ・5班の学生がいなくなるため注意する
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（３）プラネタリウムを作ろう！

タイムスケジュール

学生の目標	企画を理解したうえで活動へ臨み、児童に星座･立体について興味を持てるようにする。
児童の目標	プラネタリウムを作ることを通して、星･星座について興味を持つ。

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
9:30	①あいさつ[稲田]	･起立、礼、着席 ･注意事項	
9:35	②導入[稲田]	･担当学生は一人1班で待機	予備は前で保管しておく。

	・材料確認 ・立体について	・児童のそばへ行き不足している材料などがないか確認する。 ・これから作る立体についてどのようなものか考えさせる。 ・その他の学生は静かにするように指導する	机の上に人数分の材料が入ったバットを置く。
9:45	③星座ドームを作る［山田］	・班担当学生は一人1班で待機 ・印と印を合わせるよう指導する ・その他の学生は静かにするように指導する ・きれいに折るようにする。	・児童が間違えて違うところどうしを付けないよう注意する 使用するもの：のり、星座の紙×3
10:10	④星座台を作る[小田]	・班担当学生は一人1班で待機 ・小田の班には赤堀が入る ・印と印を合わせるよう指導する ・きれいに折り目を付けさせる。	・児童が間違えて違うところどうしを付けないよう注意する 使用するもの：のり、星座台
10:20	⑤台座に時刻盤を付ける［小田］	・班担当学生は一人1班で待機 ・張山の班には赤堀が入る ・印と印、穴と穴を合わせるよう指導する ・その他の学生は静かにするように指導する	・児童が間違えて違うところどうしを付けないよう注意する ・穴と穴がしっかりあっているか注意して確認する。 使用するもの：のり、星座台、台座
10:25	⑥休憩[赤堀]	・班担当学生は一人1班で待機 ・西垣の班には山田が入る ・その他の学生は静かにするように指導する	休憩中の水分補給、騒がないようにすること、危険のないようにするよう注意する。 時間通りに始められるよう声掛けをする。
10:35	⑦豆電球を菜箸につける［太田］	・班担当学生は一人1班で待機 ・太田の班には山田が入る	使用するもの：豆電球、ソケット、星座台、台座、小さい紙、菜箸、テープ

10:40	菜箸をセットする。 ［太田］	・その他の学生は静かにするように指導する ・菜箸の先に注意させる。	
10:45	⑧星座を付ける[赤堀]	・班担当学生は一人1班で待機 ・その他の学生は静かにするように指導する ・印と印を合わせるようにさせる。	・印が間違っていないか確認をしっかりすること。 使用するもの：のり、③、⑦で作ったもの
10:55	⑨電池ボックスを付ける ［山次］	・班担当学生は一人1班で待機 ・山次の班には松尾が入る ・その他の学生は静かにするように指導する	使用するもの：⑧で作ったもの、電池ボックス、電池、テープ
11:00	⑩鑑賞[松尾]	・電池がつくか確認する。 ・班担当学生は一人1班で待機	
11:15	⑪感想記入・次回予告 ［稲田］	・名札の裏に感想の記入 引き換えに認定証の配布 ・次回予告、伊藤班「スーパーボールを作ろう！」 ・起立、礼	
11:20	⑫見送り、片付け	・班担当学生、山田は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（４）小さな力持ち⁉の秘密を解明しよう！

タイムスケジュール

学生の目標	適切に説明を行う。 活動の雰囲気を理解する。
児童の目標	時間を意識する。 圧力、図形についての理解を深める。

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[中野]	・開始のあいさつ、諸連絡	→先生の話をよく聞くこと、 立ち入り禁止場所の説明な

			ど安全に企画を行なえるように細かく説明する。
9:35	材料確認[松井]	・バットの中身を確認する	教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておく。 →確認時にないものがあれば中野が随時補充する。
9:40	理科・導入[泊]	・何個の紙コップがあれば人間の体重を支えられるのか予想し、実践する。	紙コップ 20 個、透明なアクリル板 →乗るときは安全に注意して乗る。 →潰れる個数もある
9:50	理科・追及、考察①[倉地]	・紙コップ1個でどれほどの重さを支えられるのかを計算させる。	黒板、チョーク、ホワイトボード →班ごとに計算式を立てさせ発表させる。
10:05	理科・追及、考察②[小関]	・卵の上に乗る。	卵6個、透明なアクリル板、スチロールレンガ →誰かの手を取って安全に乗る。
10:10	理科・まとめ[泊]	・まとめとして圧力が生活にどのように活用されているのか確認させる。	スキー板、気泡緩衝材 →実物を見て納得させる。
10:15	休憩[石黒]	・休憩時の注意事項を伝える。	→水分補給、立ち入り禁止場所の再確認、走り回らないなどの注意事項の徹底。
10:25	算数・導入[井口]	・身の回りの物にどのような図形、立体が含まれているか確認する。	→休憩以降の時間がずれるかもしれないので注意 空き缶、お菓子の空き箱、サイコロ →写真などを写してそこから図形を発見させる
10:35	算数・追及、考察①[西]	・導入で発見した図形、立体から特に角柱についての理解を深めさせる。	
10:45	算数・追及、考察②[西]	・牛乳パックの短冊を使って立体を作らせ、確認する。	牛乳パックを切ったもの →次の活動につなげるため

			牛乳パックを三角形に折って使う。
10:55	算数･まとめ[竹内]	･これから椅子を作るために六角柱の作り方を確認する	牛乳パックを切ったもの →六角形の作り方を説明する。わかりやすく。
11:00	制作[松井]	椅子の作り方を説明する。	ホッチキス、牛乳パック、クラフトテープ、プラダン →工程を細かく分けて行う。
11:20	感想記入[石黒]	名札を回収し、認定証を配布する。	認定証 →時間の都合上長い時間はとれない。
11:25	あいさつ[中野]	次回の企画の説明を行い、挨拶をする。	大きい六角柱 →大きい六角柱を展開すると次回予告が出てくる。
11:30	見送り、片付け[全員]	･班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ･班の担当がない学生は片付けする。	→ゴミ、汚れがないようにきっちりと片付けを行う。 →現状復帰
12:00	完全撤収		→小学校を出るまで油断しない。 →時間厳守。

（５）ゴムの不思議を知って・作って・走らせよう！

タイムスケジュール

学生の目標	・児童に怪我等なく安全に活動を終わらせる。 ・実験の際、薬品の扱いには厳重注意する。 ・ゴムが何故あんな風に伸び縮みができるのか、仕組みについて教える。〔理科〕 ・ゴムがどのように製造されているのかゴム工場の写真を通して理解させる。〔社会〕
児童の目標	・ゴムというどこにでもあり、何でもないような物でも工夫することで物を動かす力があることを感じる。〔理科〕

	・紙コップにペンや折り紙などでデコレーションをしてもらい世界で一つだけのおもちゃを表現させる。〔図工〕

時間	学生の役割 【担当】	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ 【松澤】	・起立、礼、着席	各班についている児童の名前のプリントを配布する。学生は、自分の担当の班に座っている児童に丸を付け全体補助【松澤】に渡す。 児童に聞いてほしい内容 ・名前 ・利き手（左手用はさみの準備のため） ・ラテックス（ゴム）アレルギーの有無
9:30 ～ 9:35 ＜5＞	注意事項連絡 【松澤】	・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかり聞く体制を取れるようにし、理解したかを確認する。 →薬品を使う実験を行うため、「テープ線より前には入らない」ということは、怪我防止のため厳しく言う。	
9:35 ～ 9:40 ＜5＞	導入 【石谷】	・身近にある輪ゴムは何から作られているか児童から意見を聞く。 ・意見を聞いた後、ラテックスを見せる。 →その後、時計回りにラテックスを見せていく。（説明は続ける） ・次の実験での注意事項の確認 →学生は児童を前に向かせるように促す。	ラテックスを入れたビーカー パワーポイントを見ながら進める

	導入	・実験を始める前に、安全眼鏡の着用の確認。 ・ラッテクス（ゴム）アレルギーの有無の確認 →ある場合は、少し離れた所から見せるようにし、近くに学生がそばにいること。	
9:40 ～ 9:55 ＜15＞	ゴム製作実験 【鈴木】 補助 【平川・岡島】	＜手順＞ ①ラッテクスに、ギ酸や酢酸などの有機酸を加えて凝固させ乾燥させる。 ②完成させると天然ゴムが完成する。 ・②が完成したとき一回全体に見せる。 実験で使用する道具の確認をしながら ☆テープ線より前に入ってきた場合、厳しく対処する。	酢酸 ラテックス ビーカー 安全眼鏡 ガラス棒
9:55～ 10:00 ＜5＞	ゴム工場の紹介 【石谷】	・ゴムの実験を通して身近にあるゴムはどのように作られているだろうか？（児童に問いかける） →児童に理解させるため、写真1枚1枚を丁寧に説明する。 →実際の様子を写真で児童に見せる。 ☆児童がパワーポイントの方に注目するように声掛け。	
10:00 ～	試作品を走らせる 【平川】	・これから製作するものがどのような物かを紹介する。	・ここからは、少し楽しい雰囲気を作れると良い。（やり

10:03 ＜3＞			すぎ注意） 試作品
10:03 ～ 10:10 ＜7＞	何故紙コップが動くのか 【村田】	・少し時間を取り、児童に想像させる。 →児童が「ゴムがあるから」と発言した場合、「具体的に？」等、内容を深く取れるように工夫する。	試作品
10:10 ～ 10:30 ＜20＞	答え合わせ・弾性の説明 【村田】 補【鈴木】 【平川】 【岡島】	・ゴムがねじった形から元に戻ろうとしている力を利用しているから。 ・ゴムは引っ張っても元に戻る →これはさっきの天然ゴムではダメ 加硫させる必要がある。 ・加硫することで、ゴムの分子が鎖状になり伸ばしても元に戻るようになる	・軽い劇をしながら説明する・ ＜劇担当＞ 天然ゴム【　鈴木　・　岡島　】 硫黄【　平川　】 →段ボールに担当名が書かれたものを首からかける。
10:30 ～ 10:40 ＜10 ＞	休憩 【河合】	・休憩時の注意事項の説明 ・水分補給は必ず取るように指示	この間に各班にバットを配布 学生は子どもの安全に注意しておく。
10:40 ～ 10:42 ＜2＞	材料確認 【柴田】	・バットの中身がきちんと準備されているか。 ・全体の様子を把握しながら確認を行う。 ＜無かった場合＞ →材料が無い班についている学生が手をあげ全体補助【松澤】が配りに行く。	バット　1班分 ・ パワポの材料名を指で指しながら説明する。 素早く正確に
10:42 ～ 10:55	製作 【河合】	・針金を使うので注意 ・針金をフック状の形にする。 ・左側の短い割りばしの通し、そこからビーズまで釣り上げる。	子どもの状況を確認しながら次の手順へと進行していく。

＜13＞ 10:55 ～ 11:00 ＜5＞		・出てきた輪ゴムの輪に長い割りばしを通す。 ・右側の短い割りばしをセロハンで固定する。	 短い割りばしをしっかり固定するようにすることを言い、学生も確認できるようにする。
11:00 ～ 11:10 ＜10＞	デコレーション 【岡島】	・はさみを使用するときは注意するように ・時間を考えながら製作するように ・折り紙はバットの中のだけなので仲良く分け合うように	企画が予定していた時間より早く進行していった場合、デコレーションで時間調節を行う。
11:10 ～ 11:15 ＜5＞	鑑賞 【平川】	・レースを行う ・新聞紙の下にゴール等を用意してあるので、児童に製作で出たゴミを中央に集め新聞紙で包ませるように指示する。 ・班についている学生はバットの回収をする。	盛り上がりから次のまとめに向けての聞く体制への切り替え意識
11:15 ～ 11:20 ＜5＞	まとめ 【松澤】	・ゴムがどのように作られていたか、何故伸び縮みするかが理解できているか ・感想記入 ・認定証配布 ・あいさつ ・帰宅時の注意点	認定証 名札回収
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方にご挨拶をする。	

（６）インドアプレーン作り

タイムスケジュール

学生の目標	視野を広げ子ども１人１人に目を配れるようにする。
児童の目標	作品作りを通じて達成感を得て、飛行機が飛ぶ仕組みを知る。

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[宮﨑]	話が聞ける状況を作る	子どもに号令を言ってもらう。
9:35	導入[宮﨑]	活動に関わる教科、分野の紹介 注意事項を伝える。インドアプレーンの紹介。	

9:40	材料確認[菅沼]	話が聞ける状況を作る 各班に材料不足がないか確認 足りない材料は菅沼へ報告	教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておいてく。
9:45	羽根(大＆小)の骨組み作り[河邉]	話が聞ける状況を作る 担当者は前に出て説明(実演) ・それぞれのバルサにある穴に檜を刺してくっつける(木工ボンド)。	大羽根バルサ×2、18㎝バルサ×2、9 ㎝バルサ、7，5㎝檜×6、木工ボンドを使う。 前に集める。
9:50	製作時間 15分	分かっていない児童へのサポートを各班の学生はする。	
10:05	尾翼作り[星野]	話が聞ける状況を作る 担当者は前に出て説明(実演) ・印がある位置に4㎝バルサをくっつける(木工ボンド)	4㎝バルサ、木工ボンドを使う。
10:10	製作時間 5分	分かっていない児童へのサポートを各班の学生はする。	
10:15	休憩[岩田]	話が聞ける状況を作る 注意事項を伝える ・作品の近くで遊ばせない ・水分を取る＆取らせる ・活動している子の付き添い	休憩を使ってボンドを乾かす 乾かない時や折れた時はグルーガンを使う(学生が使う)
10:20	羽根にシートを貼る [峪田]	話が聞ける状況を作る 担当者は前に出て説明(実演) グライダーシートを切って貼る のり、木工ボンドどちらでも可。	グライダーシート、はさみ、のり、木工ボンドを使う。
10:25	製作時間 10分	分かっていない児童へのサポートを各班の学生はする。	
10:35	組み立てる[河邉]	話が聞ける状況を作る 担当者は前に出て説明(実演) ・所定の位置にくっつける(木工ボンド) ・くっつかない場合はグルーガンを使う(学生が使う	
10:40	製作時間 5分	分かっていない児童へのサポートを各班の学生はする。	
10:45	飛ぶ仕組み説明 [山田]	話が聞ける状況を作る	

11:00	飛ばす	廊下で飛行機を飛ばす（宮崎）	速やかに児童を廊下が見える所まで移動させる。
11:10	感想記入＆賞状渡し＆まとめ［宮﨑］	書き終わった子から賞状を渡していく。	名前を呼びながら渡す。
11:20	児童見送り、家庭科室片付け	学生(各班1人)は昇降口へ。確実に児童を保護者に引き渡す。 ・以外の学生は片付けする。	呼ばれた班から外へ出る。 荷物を持ち昇降口へ
12:00	完全撤収		宮﨑が忘れ物確認

（７）砂時計を作ろう！

タイムスケジュール

学生の目標	自分の役割を理解し、責任をもって役割を果たす。 児童に対する話し方や態度を身に着けるとともに、先生としての立場を意識する。
児童の目標	砂時計の特徴に興味を持つとともに、オリジナルの砂時計を作成する。

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[鈴木]	・起立、礼、着席	
9:35	導入[鈴木]	・ルールを説明する。	
9:40	材料確認 [土屋]	・グループごと不足している材料などがないか確認する ・教壇に材料を一式バットに準備しておく	・教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておいてく
9:45	クイズ[木股]	・社会科などと関連させたクイズを出す。 ・班での話し合いがスムーズになるよう援助する。 ・グルーガンのコードを入れる	・グルーガンを温める説明 ↳コードに注意しておいておく ・温め始めるとグルースッティックが溶け始めるかもだから、班の学生は注意しておく。 ・ホワイトボード使用
9:55	説明を聞く① [増田]	・木の板とペットボトルの接着 ・グルーガンを使う児童をサポートする、やけどに注意させる	＊演示
10:00	制作① 木の板とペットボトルの接着	・グルーガンに注意させる ・隙間が空かないように接着する	・板がなるべく中央になるよう接着する。
10:10	説明を聞く② [清水]	・砂を入れる ↳1分間の設定方法の説明 ・隙間が無いように反対側の木を接着する。	＊演示
10:15	制作② 砂を入れる 反対側の木を接着	・隙間が空かないように接着する	
10:25	休憩[村上]	・グルーガンのコードに注意する ・時間を 10:35 までと明確に伝える	・認定証の振り分け

10:35	説明を聞く③ [大塚]	・3本の柱を接着する ↳極力まっすぐになるようサポート	＊演示 穴のあいていない方の板にはと完全に、棒を接着する。
10:40	制作③	・木の棒が穴に入るよう、学生がサポートする。	
10:50	装飾（説明＆制作） [青山]	・子どもの発想を活かし、自由に色づけさせる。	・各班にあるグルーガンを回収する。（鈴木）
11:00	鑑賞[大塚]	・自分の作品と他の人との作品を比べて、違いや魅力に気づく。 ・椅子をしまってから鑑賞をする。	
11:10	まとめ[鈴木] ・感想記入と次回予告 ・認定証配布 ・あいさつ	・名札の裏に感想を記入させる ・認定証と名札を交換	認定証 ↳休憩時に振り分けておく
11:20	見送り、片付け	・班の担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は素早く片付けをする。	・2班ずつなどにまとめて徐々に昇降口へ誘導する。
12:00	完全撤収		

（８）キッチンでできる実験！

タイムスケジュール

学生の目標	一人一人が自分が自分の役割を果たし子どもも学生も学べる企画にする
児童の目標	家庭の台所にある物で様々な実験ができることを知る

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
9:30～ 9:35	あいさつ[若林]	・起立、礼、着席（児童がやりたいと言ったらやってもらう） ・今回ブースに別れて実験を紹介していくことを説明する	

9:35～ 9:40	導入[關谷]	・ブース内容の紹介 ・ブース移動の仕方について説明 ・今日のルール説明	※ブースの移動は別紙確認
	移動	・真ん中に座っている児童を廊下側の机に移動させる	
9:40～ 10:00	不思議な液体 [片岡、加藤、關谷]	※別紙確認	
10:20～ 10:40	魔法の風船 [田中、堀田]	※別紙確認	
10:00～ 10:10	休憩[志野]	・注意事項、時間、について説明する ・次がどこのブースになるのか説明する	
9:40～ 10:10	ぴかぴかの10円玉[船橋、志野]	※別紙確認	
11:00～ 11:05	まとめ[堀田]	・今回のまとめ	
11:05～ 11:15	マジックのキットの使用についての注意事項 [加藤]	・今回作ったマジックの材料(魔法の風船)の配布及び中身の確認、使用する際の注意事項を書いた紙の配布。 ・材料、紙ともに配布は加藤が行う。 ・少し読み上げる程度だが「魔法の風船」の作り方を説明する ※注意事項の紙は簡単に読むだけにする	◆ 注意事項のプリント ◆ 魔法の風船の材料セット ◆ 予備の材料
11:15～	次回予告[宮崎]	次回予告をする	
11:20	あいさつ、感想、認定証配布[若林] 見送り、片付け	・児童の名札の裏に今日の感想を書いてもらい、書いた児童から若林へ渡してもらう ・1年生3人は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・余った学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

ブース①船橋　10 円汚れを落とす

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
3 分	導入	・10 円玉の酸化の説明 →酸化している10円玉を汚れていると表現する。	・きれいな 10 円玉 ・汚い 10 円玉
3 分	実験①	・水と洗剤で汚れを落とす →導入で汚れと表現したので、児童が思いつく汚れの落とし方を聞く。 →この方法では汚れは落ちないことを示す。	・バット ・汚い 10 円玉 ・洗剤 ・水 ・綿棒
5分	実験②	・様々な液体で汚れを落とす。 →様々な液体を提示し、見た目や匂いを手がかりに名称を当ててもらう。 →汚れを落とした 10 円玉に使用した液体のシールを貼る。	・バット ・汚い 10 円玉 ・液体の名称のシール ・綿棒 ・ソース ・お酢 ・マヨネーズ ・牛乳 ・みりん ・しょうゆ
4分	発表	実験の結果発表 →机の周りに児童を集める。 →汚れを落とした 10 円玉を見せながら発表させる。 →様々な液体の成分を示す。 →酢が汚れを落としていることを示す。 →綺麗に汚れが落ちる順番に並べる。	・スケッチブック（まとめ）

ブース②　田中　魔法の風船

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
3分	導入［田中］	・ただふくらました風船と、仕掛けをした風船を使用し児童の興味を誘う →今からの説明で種明かしをする事を伝える	・風船 ・仕掛け付き風船 ・画鋲 ・ゴミ袋
3分	材料確認	・マジックに使う材料を先に見せどのようにして使用するのか予想してもらう →その場で口々に言ってもらう 　児童の発言を数個拾い（反応する） 実験に移る	・重曹 ・クエン酸 ・画鋲 ・スプーン ・バット ・水
5分	材料でできることの紹介	・今回使用している重曹クエン酸は食用だが掃除用の重曹クエン酸が存在することを説明する ・重曹とクエン酸と水を反応させるとシュワシュワする様子を見せる ・シュワシュワして発生している物の説明→気体の発生 ・これが仕掛けのヒントだと伝える ・「風船はどうやってふくらますんだっけ？今発生している物は何だっけ？」など答えにつながるような問いかけを行う	・水 ・重曹 ・クエン酸 ・スプーン ・コップ ・
4分	種明かし	・図説などで種明かしを行う ・実際に目の前で仕掛け有りの風船をつくりマジックを行う（時間によってはカットする） ・今見せた実験の材料を最後に配布することを伝え終了	・フリップ ・風船 ・水風船・重曹・クエン酸・スプーン・画鋲

ブース③　片岡　★いろんな色になる液体！？

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
１分	導入	演示実験　「水が一瞬で黒くなる！？」 ① ヨウ素デンプン反応によってできた黒い液体をペットボトルに作っておく。 ここでは色が変わる液体の実験をする事を教える。	マジックのように行う。ネタはばらさない。 ペットボトル【280ml】、小麦粉、ヨウ素入りうがい薬、
１０分	実験	① プラカップに水を取り小麦粉【小さじ１】を入れて混ぜ合わせ、ペットボトルに入れる。 ② このペットボトルに、ヨウ素入りのうがい薬【１０ｍｌ】を少しずつ加える →黒くなる ③ 水と小麦粉【小さじ１】をよく混ぜ合わせた液体に、ビタミンｃ入りの清涼飲料水【２０ｍｌ】を加え、ペットボトルに入れます。そこにヨウ素入りのうがい薬【１０ｍｌ】を静かに加える ④ ③にオキシドール【30ｍｌ】を静かに加える。 ⑤ しばらくするとペットボトル内の液体が黒くなる。 ⑥ 更に⑤で黒くなった液体にカルキ抜きを加えるとあっという間に色がなくなる。	・ペットボトルに液体を入れる時は割りばしに沿って入れる。 ペットボトル【280ml】、小麦粉、ヨウ素入りうがい薬、ビタミンｃ入り清涼飲料水、オキシドール、水、カルキ抜き、プラカップ、割りばし
まとめ ４分		・導入の演示実験のネタばらし 小麦粉…デンプンを含む うがい薬…ヨウ素が含まれている オキシドール…再びヨウ素デンプン反応 液体カルキ抜き…色をぬく ・ヨウ素デンプン反応の説明	

（９）不思議な板で光の世界を見よう！

タイムスケジュール

学生の目標	この企画を理解したうえで、児童に興味を持たせる。 一人一人の児童に目を向けて臨機応変に対応する。
児童の目標	光について関心を持ってもらう

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[太田]	・起立、礼、着席	
	導入[太田]	・今日やること、注意事項の説明	パワーポイント

9:35～ 9:45	万華鏡と光の説明 [小田]	・実際の万華鏡と今回作る万華鏡の比較を児童に分かりやすいように説明する。 ・クイズで興味を引き付ける。	パワーポイント 二つの万華鏡 ホワイトボード ペン 茶色ビン
9:45～ 9:50	材料確認[伊藤]	・机の上に児童分あるか各班の学生が確認する。 ・不足の場合は前の机まで各班の学生が取りに行く。 「材料」 ・四角形のプラバン・丸いプラバン ・はさみ・セロハンテープ ・両面テープ・マスキングテープ ・紙コップ2個・偏光板2枚 ・形の見本用紙・	机の上に材料が入ったバッドを置いておく。
9:50～ 10:10	説明①[山次] プラバンを使った実験	・パワーポイントを使って、不思議な板の実験を進める。 「注意事項」はさみは各班の学生が使う直前に配る。十分に注意して児童に扱わせること。 1. 形が3つ書かれた見本用紙から一つの形を選んでもらい名前ペンで形をプラ板に写してはさみで切り抜く。 2. そのプラ板にセロハンテープを好きなように貼ってもらう。 3. できたプラ板を偏光板2枚で挟みどう見えるかを確認する。 ＊ここで使った偏光板は次の万華鏡でも使うので注意する。	パワーポイント ・形の見本用紙 ・四角形のプラ板 ・はさみ（直前に渡す） 管理の場所は直前までテーブルでその後各班の学生が班の人数分とりにくること。 ・セロハンテープ ・偏光板2枚 ・名前ペン（各班一つ）
10:10～ 10:30	説明②[山次] 万華鏡作成	・パワーポイントを使いながら作業を進めていく。	パワーポイント ・丸いプラ板

		・最初に作り方を一通り説明して、作業を開始。そのあとの対応は各班の学生が責任をもつ。 1．丸いプラ板に好きなようにセロハンテープを貼る。 2．紙コップの底の外側に偏光板、内側にプラ板を両面テープで貼る。 3．もう一つの紙コップの外側に偏光板を両面テープで貼る。 4．クラフト用紙で両方の紙コップの外側に装飾を付ける。 5．できた紙コップを重ねる ＊この時どちらを上に重ねるか確認すること。	・紙コップ2個 ・偏光板2枚 ・はさみ ・セロハンテープ ・両面テープ ・マスキングテープ
10:30～ 10:40	休憩[鈴木]	・休憩中の注意事項を説明する。 ・立ち入り禁止場所には入らないように見張る。 ・この時間内に学生は机周りの整理、不必要なものの処分を行う。 ・この間に次の鑑賞に必要な鑑賞シートを各班に配っておく。	
10:40～ 10:50	鑑賞[中野]	・自分で作った万華鏡を鑑賞用紙に記入する。 記入した用紙は本人が持ち帰る。 ・時間が早く進んだら、前に何人か出てきてもらって発表してもらう。	鑑賞シート
10:50～ 11:00	[石谷]	・班ごとにマジカルボックスを使って鉛筆などを通し、児童に興味を持ってもらう。	マジカルボックス （各班に一つずつ）
11:00～	まとめ・次回予告	・名前の裏に感想の記入	パワーポイント

11:15	･感想用紙記入･認定証配布 [太田]	引き換えに認定証の配布 ･次回予告、村林班 ･起立，礼	認定証
11:20	見送り、片付け	･1班から順に担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ･児童の見送りが終わった学生からすぐに片づけ･清掃を行う。 ･忘れ物がないか確認する。 ･班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（１０）スノドームのふしぎな世界

タイムスケジュール

学生の目標	時間内に終わらせ、自分の役割に責任を持つ。 グルーガン、はさみの使用があるので、安全に配慮する。
児童の目標	密度や浮力の存在を知り、興味をもってもらう。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 （ 5 ）	あいさつ[渡辺]	起立、礼、着席	
9:35 （ 5 ）	導入[増田]	注意事項	
9:40 （ 5 ）	説明1[石黒]	スノードームの元 今のスノードーム	
9:45 （ 10 ）	クイズ[伊藤]	水と油が二層になる仕組み、	ホワイトボード ホワイボードマーカー
9:55 （ 5 ）	材料確認[井口]	過不足がないかの確認を児童とともに行う	濃い色水はおいておかない
10:00 （ 5 ）	説明2[井口]	プラスチックの板に絵を描くことを説明する。 作業時間を伝える	予備は各班の先生が持っておく
10:05 （ 10 ）	作業1	児童へ声掛けを行う	書き終わった絵はパットに入れるよう指示
10:15 （ 10 ）	休憩[丹羽]	注意事項の伝達 時間を伝える 紙コップは各班の先生のどちらか一人が取りに来る グルーガンを温める	椅子をしまうよう指示
10:25 （ 10 ）	説明3[天野]	やり方を伝える 水の色の濃さが自分で調整できることを伝える。	蓋を閉めるのが難しかったら先生に閉めてもらうようにする
10:35 （ 15 ）	作業2	水、油を使うためこぼさないようになどの注意 できた児童から各班の学生がグルーガンで蓋をとめる	グルーガンの火傷に注意する
10:50	鑑賞[竹内]	鑑賞カードを各班の一人が取りに	班で見た後、時間があれば全

（ 15 ）		来る	体
11:05 （ 15 ）	まとめ･感想記入･認定書配付[中島]	児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証と交換する	認定証分担 [渡辺が分担し、各班に渡す]
11:20	次回予告、あいさつ [渡辺] 見送り、片付け	･班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す ･班の担当がない学生は片付けする	1，2班から順番に退出させる
12:00	完全撤収		

（１１）玉ねぎでオリジナルハンカチを染めてみよう！

タイムスケジュール

学生の目標	自分の役割、周りに気を配り、臨機応変に対応する。 児童と先生の立場を考えながら接する。
児童の目標	鑑賞することで友達の作品の良さに気づく。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9：30	あいさつ［村林］	・起立、礼、着席、約束	☆パワーポイント
9：35	導入［村林］	実際に作った草木染を紹介し、興味を持ってもらう。	☆染めたハンカチ、ボード
9：40 ～9：45	材料確認［後藤］	１、班員は児童のそばへ行き不足している材料などがないか確認。 ２、足りない材料などがあれば各班の学生が取りに行く。	
9：45 ～9：50	絞り方の説明［大倉］	パワーポイントを使って説明。 １、絞り方プリントを見て絞る。 ２、洗濯ネットに班の分をまとめて入れる。	
9：50 ～10：00	作成 〈絞る〉 ☆作成時間 15 分	・絞り方プリントを見ながら絞る。 ・使わないものはトレーに入れさせる。	☆ハンカチ、輪ゴム、割りばし、作り方プリント
10：00 ～10：15	染め方の説明［大倉］	３、染色液（玉ねぎ）の中に入れて 15 分煮る。 ４、媒染液（ミョウバン）に入れ、5 分間煮る。 ・絞り終わったら班ごとに鍋に入れる。(1 班から順番に行動)	
10：15 ～10：30	染色＆定着 ［稲田、柴田］ 〈クイズ大会〉［梶川］ 予想図説明［梶川］	・班ごとの洗濯ネットを鍋に入れ、15 分煮る。 ・染め終わったら媒染液に入れ煮る。(5 分) ・感想用紙に絞り予想図を描いてもらう。(5 分間) ・全体でクイズ 3 問（15 分）	☆鑑賞用紙
10：30 ～10：40	休憩［山口］ トイレ見張り［後藤］	・休憩の注意点を説明する。 ＊鍋に近づかせない。	☆パワーポイント

ハンカチ、輪ゴム、絞り方プリント、割りばし、クリップ、洗濯ネット、持ち帰り用袋、ペン
（鍋、重曹、水、水槽）

		＊教室内で走らない。 洗濯ネットを班ごとのバットに移す。 →染物配布と同時に水槽に水を入れ班ごとに設置。	
10：40 ～10：45	解く＆とめる説明 ［柴田］(5 分)	・輪ゴムをほどき水槽で洗う。 ・クリップで割りばしにとめる。	☆水槽、割りばし、クリップ
10：45 ～10：50	作成	・解く、とめる 水槽回収する	
10：50 ～11：10	鑑賞［大倉］	・班員と鑑賞し、鑑賞用紙に書く名前つける 2 分。1 人 1 分半で二班で回す。ハンカチを袋に入れる。	☆鑑賞用紙
11：10 ～11：20	感想用紙記入＆認定書配布［村林］	・今日一日の感想を児童に聞く。 ・名札の裏に今日の感想を書いてもらう。(5 分) ・認定書を渡す ・帰り方の説明 ・次回予告、太田班 ・起立、礼	☆パワーポイント
11：２０	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 →子供が保護者に引き渡すまで対応する。保護者に確実に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付け、清掃をする。 ・忘れ物がないか確認する。 ・施錠をする。	
12：00	完全撤収		

（１２）旅するタネを使って作品を作ろう

タイムスケジュール

学生の目標	・児童に怪我等なく安全に活動を終わらせる。 ・児童と積極的に関わる。 ・児童にわかりやすい言葉で説明をする。
児童の目標	・種子の散布の仕方についてゲームをしたりしながら楽しく学ぶ。 ・散布の仕方以外にも種子の秘密について学ぶ。

時間	学生の役割 【担当】	学生の活動	備品、その他

9:30	あいさつ 【河合】	・起立、礼、着席	学生に聞いてほしい内容 ・名前
9:30 ～ 9:33 ＜3＞	注意事項連絡 【河合】	・どんな活動をするのかのちょっとした説明。 ・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかり聞く体制を取れるようにし、理解したかを確認	
9:33～ 9:43 ＜10＞	理科・導入 ＜付着散布＞ 【小関】	・なぜこの様に散布するのか →くっつき虫 ・なぜくっつくのか ・この原理は何に使われているのか →マジックテープ	・明るくはっきりと ・全体補助は、ゲームで使う道具を準備してすぐ分けられるようにする →各班に的とボール
9:38 ～ 9:48 ＜10＞	理科・追及 【村田】	・どの布が一番くっつくのか →マジックテープのついたボールをいろんな布で作った的に投げ、どの布がくっつきやすいか	・全体補助がゲームで使ったものを回収
9:48 ～ 9:58 ＜10＞	理科・考察 ＜風での散布＞ 【岡島】	・どうやって種が飛んでいくか。 ・なぜ、風に飛ばされて広がるのか。 ・この飛び方の原理を利用したものの紹介 →身近で興味をそそられる何かないかな…	
9:58 ～ 10:03 ＜5＞	理科・追及① 【柴田】	・風に飛ばされる種子の代表としてカエデ、フタバガキを見せる ・模型を作る →カエデ、フタバガキ	・カエデとフタバガキの飛び方が異なるのを見せる。 ・バット配布 →折り紙、ホチキス、はさみ ・名前を記入させる。
10:03 ～ 10:18 ＜15＞	理科・追及② 【船橋】	・模型を使った陣取りゲーム	・児童の人数や周りの状況を見て、早くきり上げたり、時間を調整する。 ・ゲーム終了後、各班についてる全体補助が模型とバット

			を回収。
10:18 ～ 10:28 ＜10＞	理科･まとめ 【岡島】	･広がり方についてのまとめ	･考察、追及①②でやったことをまとめる。 ･児童主体でやれると◎
10:28 ～ 10:38 ＜10＞	休憩 【宮崎】	･休憩時の注意事項の説明 ･水分補給は必ず取るように指示 ･何時何分までか指示	･この間に各班にバットを配布 →落ち葉、グルーガン、壁掛け ･学生は子どもの安全に注意しておく。 →廊下やトイレをみる。
10:38 ～ 11:00 ＜22＞	製作 【村上】 種子の秘密②	･グルーガンの説明 ･作品を作る上でのアドバイス等	･グルーガンの先と胴体部分が熱くなっているので子どもたちが、触ってやけどしないように注意する。 児童にしっかりと聞かせる。
11:00 ～ 11:05 ＜5＞	図工 【鈴木】	･できた作品をみんなで鑑賞する。	
11:05 ～ 11:15 ＜＞	まとめ 【河合】	･種子がどのように散布していくのかが理解できているか ･感想記入 ･認定証配布 ･あいさつ ･帰宅時の注意点	･認定証と模型配布 ･名札回収 ･忘れ物がないか
11:20	見送り、片付け	･班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ･班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収	･片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生･なかよし教室の方にご挨拶をする。	

（１３）見えない何かを映し出せ！

タイムスケジュール

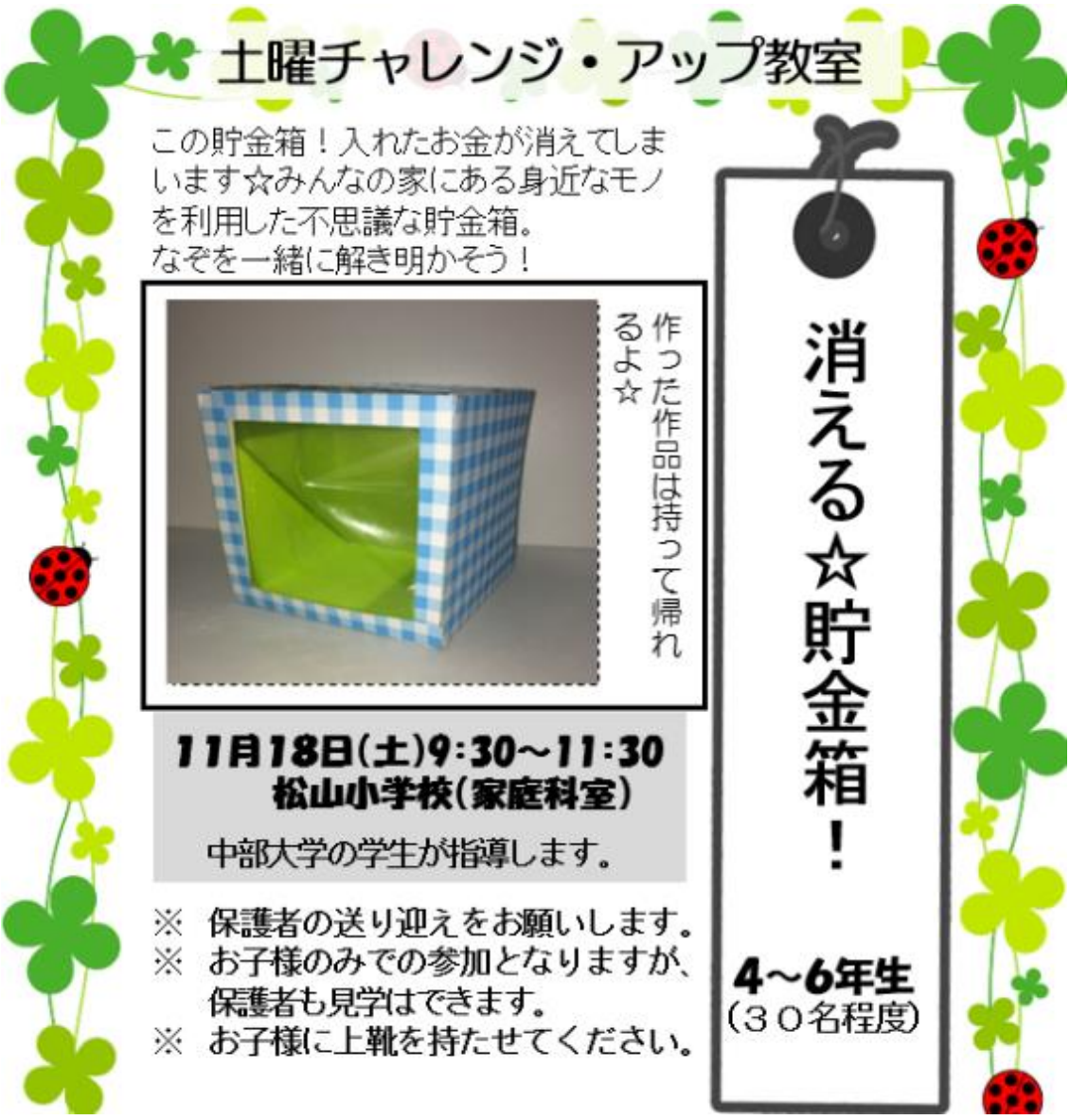
学生の目標	・ブラックライトを直接見せることのないように気を付ける。 ・適切に説明を行う。
児童の目標	・時間の意識をする。 ・紫外線の性質、環境問題について理解する。

時間	学生の役割 【担当】	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ 【小関】	・起立、礼、着席	学生に聞いてほしい内容 ・名前 ・日光アレルギーの有無

			・レジンアレルギーの有無
9:30 ～ 9:33 ＜3＞	注意事項連絡 【小関】	・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかり聞く体制を取れるようにし、理解したかを確認	
9:33 ～ 9:43 ＜10＞	社会・導入 【星野】	・バナナの皮と紫外線の関係 ・日焼け止め、アルミ箔、布、セロハン、ラップによって紫外線は遮られるのかどうかを観察。	前日までに日焼けしたバナナ
9:43 ～ 9:53 ＜10＞	社会・追及① 【河合】	・紫外線の悪い印象を示す。 ・なぜ紫外線は環境問題として取り上げられているのか。	紫外線と環境問題の関係について、パワーポイントを中心にして話す。 →明るく、はっきりと話す。
9:53 ～ 10:00 ＜7＞	社会・追及② 【中野】	・紫外線の良い影響を示す →オーロラの実験を映像で見せる	
10:00 ～ 10:15 ＜15＞	社会・追及③ 【松井】	・UV レジンについて理解させる ・キーホルダーの作り方を説明し、制作する。	レジン、ラメ、コンタクトケース、UV ライト
10:15 ～ 10:25 ＜10 ＞	休憩 【倉地】	・休憩時の注意事項を伝える。 ・休憩終了の時間をしっかり伝える	→水分補給、立ち入り禁止場所の再確認、走り回らないなどの注意事項の徹底。 →時間が変わるかもしれないので注意。 →休憩終わりの時間までしっかりと伝える。
10:25	理科・導入	・紫外線を特定のものにあてた際	ホワイトボード、ホワイトボー

～ 10:35 <10 >	【西】	に 光る理由を説明。 ・クイズで理解を深める。	ドマーカー
10:35 ～ 10:50 <15 >	理科・追及① 【竹内】	・導入で学んだ性質を、洗剤塗料で確認するために、洗剤塗料で絵を書く。	洗剤塗料、少し厚めの画用紙
10:50 ～ 11:05 <15>	理科・追及② 【井口・竹内】	・洗剤塗料で書いた絵が乾くまで、身の回りにあるブラックライトに反応するものを見てみる。 ・乾いた洗剤塗料をブラックライトで確認する。	パインアメ、お札、蛍光ペン、エナジードリンク ・ブラックライトを直接見せないように注意。
11:05 ～ 11:15 <10 >	感想記入 【菅沼】	名札を回収し、認定証とキーホルダーを配布する。	認定証 →時間の都合上長い時間はとれない。 キーホルダーは感想記入の間に数名で完成させる。
11:15	あいさつ 【小関】	次回の企画の説明を行い、挨拶をする。	ブラックライトで照らして次回予告
12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方にご挨拶をする。	→小学校を出るまで油断しない。 →時間厳守。

（１４）消える☆貯金箱！



タイムスケジュール

学生の目標	児童1人1人を観察し、児童に何をすれば楽しめて貰えるかを考え、臨機応変に対応する。
児童の目標	普段見ている鏡や光の性質を、作品を通じて知る。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30～9:32	あいさつ[峪田]	・起立、礼、着席を行う。	必要な材料はバットに入れて配置。

			最初に家庭科室に到着した児童にやらせてあげる。最初に到着した児童が「やりたくない」等、否定的発言をした場合、号令は[峪田]が担当する。
9:32～ 9:35	注意事項の連絡[鈴木]	・本日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。	なし。
9:35～	導入[若林]	児童を教卓の前に来させて、当日作る箱について、小銭を使用して演示をする。	担当者が使用。 ・小銭(10 円)
			「導入」が終わっても児童は席に返さず、そのまま「鏡について」を行う事。
9:55	鏡を使用した実験[星野]	鏡を使用した実験行う。 実験が行われている最中に、今回使用する材料を各机に配置する。残りの人は児童の見張りとして教卓に並ぶ児童のすぐ後ろに居る事。	なし
9:55～ 10:00	・材料確認 ・方眼紙を実線に沿って切るのをパワーポイントを使って説明する[菅沼]	最初に材料がしっかりと揃っているか、材料の確認をする。児童が「材料が足りない」と言った班には、その班を担当する学生が、菅沼さんから材料を受け取りに行き、足りない材料を補充する。 次に、パワーポイントを使用して、方眼紙に書いてある実線に沿って切る事を説明する。	担当者が使用。 ・ハサミ
10:00 ～ 10:06	児童が方眼紙を実線に沿って切る。	児童がハサミを使って危険行為を行った場合、即座に注意を行うこと 点線を切ろうとしている児童に、学生は「実線を切るように」と教える。	ハサミを使用。
10:06	覗き窓を作るのを教卓	児童が椅子に座った状態で、担	担当者が使用。

～ 10:09	で実演する[松井]	当者が、あらかじめ覗き窓と同じ寸法に切ったセロハンを、テープを使用し、覗き窓の外側に貼るのを実演する。	・覗き窓と同じ寸法のセロハン ・テープ
10:09 ～ 10:13	児童が覗き窓を作る。	児童が、覗き窓の内側にセロハンを間違えて貼っていないかを、各班の学生が注意し、もし間違えて貼っていたのなら教えてあげる事	児童が使用。 ・覗き窓と同じ寸法のセロハン ・テープを使用。
10:13 ～ 10:18	折り紙を切り、貼るのを教卓で実演する[菅沼]	児童が椅子に座った状態で、担当者が、折り紙を切り、折り紙を貼る箇所を教えながら、実際に折り紙を方眼紙の外側に貼っていくのを実演する。	担当者が使用。 ・ハサミ ・折り紙　・テープ
10:18 ～ 10:28	児童が方眼紙に、折り紙を切って貼り付ける。	各班に居る学生は、児童が、説明された箇所とは違う箇所に折り紙を貼ろうといていた場合、声掛けをする事。	児童が使用。 ・ハサミ　・折り紙　・のり ※作業が終わったらハサミを回収[峪田]
10:28 ～ 10:33	方眼紙をテープでくっつけるのを教卓で実演する[岩田]	児童を前に集めて、担当者が、方眼紙にテープを塗る箇所があるので、そこにテープを塗りくっつけるのを実演する	担当者が使用。 ・テープ コインを入れる所をカッターで切る[星野・鈴木・若林]
10:33 ～ 10:39	児童が方眼紙をテープでくっつける	児童が、方眼紙の指定した箇所にのりを塗っているか、学生が注意し、違う箇所にのりを塗っている場合、声掛けをする事。	児童が使用。 ・テープ
10:39 ～ 10:49	休憩[峪田]	休憩時の注意事項を児童に言う。 ・作品に触れない ・騒がしくしない	なし
10:49 ～ 10:52	マスキングテープを箱の角に貼り、ミラーペーパーを中に入れるのを教卓の前に出て実演する[松井]	児童が椅子に座った状態で、担当者が出来上がった箱の角にマスキングテープを貼り、ミラーペーパーを中に入れるのを実演する。	担当者が使用。 ・ミラーペーパー
10:52	児童がマスキングテー	出来上がった箱の角にマスキン	児童が使用。

～ 10:57	プを箱の角に貼り、ミラーペーパーを中に入れる	グテープをしっかり貼っているか、学生が観察し、違う所にマスキングテープを貼ろうとしている場合、声掛けをする事	・マスキングテープ ・ミラーペーパー
10:57 ～ 11:03	貯金箱の外側を装飾の説明[岩田]	児童を教卓の前に集める。 担当者は貯金箱の装飾について説明する。 実演している最中に装飾を担当者が各机に配置する	担当者が使用。 ・あらかじめクラフトパンチで抜き取った折り紙 ・色ペン　・のり
11:03 ～ 11:13	児童が貯金箱の外側を装飾する	こだわりを持った児童が「何々の色が欲しい」と言った時、班に指定の折り紙がなければ、教卓に余りがあるのでそれを渡す事	児童が使用。 ・あらかじめクラフトパンチで抜き取った折り紙 ・色ペン　・のり 注：通常の折り紙は、欲しいと言った児童に対してあげる
11:13 ～ 11:17	感想記入、各班の担当者が認定書配布[峪田]	感想を記入し終わった子から、各班で認定書を渡していく	記入し終わった感想文は、各班で回収し、後で峪田に渡す。 認定書配布は、あらかじめ[峪田]が児童の場所を調べる
11:17 ～ 11:19	次回予告[峪田]	次の企画は何なのかを予告しておく。	なし
11:19 ～ 11:20	あいさつ[峪田]	起立・礼・着席を行う。	なし
11：20	見送り、片付け 廊下に児童を並ばせる ・1．2班[菅沼] ・3，4班[岩田] ・5，6班[松井]	班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 班の担当がない学生は片付けする。	児童に忘れ物を確認させる。 最初に1，2班を廊下に並ばせ、昇降口へ案内する。廊下が空いたら、次は3，4班を廊下に並ばせ昇降口に案内する。廊下が空いたら、最後に 5，6 班を並ばせ昇降口に案内する。 1，2班が昇降口まで案内し

			終わったら、家庭科室に戻り、片付けに協力する。3，4班、5，6班も同様、昇降口まで案内し終わったら、家庭科室に戻り、片付けに協力する。
12:00	完全撤収		

（１５）オリジナル水族館を作ろう！

タイムスケジュール

学生の目標	自分自身の仕事を理解し、子供たちに勉強の楽しさと、大切さを実感してもらえるような授業作りを目指す。
児童の目標	浮沈子を通して、アルキメデスの原理を知るとともに、装飾による想像力の向上を図る。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[青山]	・起立、礼、着席	
9:30	導入[青山]	ルール説明	
9:35	材料確認[木股]	材料を確認、不足していれば渡しに行く。	教卓に一つ見本を置く。
9:40	クイズ＆原理の説明[土屋]	原理に関連したクイズを出し、説明しやすくする。	
9:50	作成時の説明①[村上]	1その中に装飾品を入れる 2ペットボトルに着色した水を入れる	演示 水は8割入れる。
9:55	作成①＆装飾		
10:15	休憩[木村]	ペットボトルの水がこぼれないようキャップを閉める	
10:25	作成時の説明②[大塚]	魚に装飾する ペットボトルに装飾	
10:35	作成②装飾		
10:45	作成時の説明③	魚に水を入れ、ペットボトルに入れる。	グループごとで演示 見えるところに集めさせる
10:50	作成③		
10:55	鑑賞[清水]	自分のグループ以外の作品を鑑賞し、グループで誰か一人発表してもらう。	
11:10	まとめ[青山]	感想記入：名前の裏に書かせる 認定証配布：名札と交換 挨拶	
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	二班ずつ昇降口で解散する。

12:00	完全撤収		

（１６）ふしぎなスノードーム

タイムスケジュール

学生の目標	自分たちで考えて行動する 最後までやりきる
児童の目標	みずと油の密度の違いをしる 密度についてしり、理科への興味を持ってもらう

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他

9:30	あいさつ[關谷]	・起立、礼、着席 ・児童の班編成の確認	
9:35	導入・注意事項 [堀田]	・企画の説明 ・スノードーム作成の注意事項	
9:40	材料確認[赤堀]	・教卓の上に置いてある材料を一つずつ確認していく	材料 教卓横に予備材料
9:45	作り方① ストローでオブジェ作り [中島]	・かにさん、お花などお手本を作って起き、児童に好きなものを作ってもらう ・手を切らないように気を付ける	ストロー はさみ
10:00	作り方② ビンに水と油、ストローとビーズをいれる タイマー[中島]	・水と油一緒に入れたらどうなるかな？ ・ストローとビーズはどこにうくかな？ ・水⇒油の順で入れる ・紙コップに水と油とストロー、ビーズをビンに入れてもらう	水 油 紙コップ ビン ビーズ ぷよぷよビーズ ビーズ入れ
10:10	休憩[松尾]	・注意事項、時間について説明する	
10:20	副実験の導入・材料確認 [渡辺]	・班を作り班で一つやってもらう ・教卓の上に置いてある材料を一つずつ確認していく ・水、はちみつ、油の順でいれる ・そっとする	水 油 ペットボトル スポンジ 発泡スチロール 消しゴム 割りばし
	副実験の説明・予想 [志野]	・水、はちみつ、油の順でいれる ・そっとする ・沈ませるものの説明も	
10:25	児童が予想	・なにがどこの層まで沈むのか各班で予想してもらう	ホワイトボード ペン
10:30	児童が副実験	・順番を守れているか、児童のたてた予想とどう違っているかなど班の担当の学生が児童とコミュニケーションをとる	
10:40	答え合わせ、仕組みの	・層ができることの説明	

	説明[加藤]	・沈む場所についての説明	
10:50	鑑賞	・ほかの人の作品を鑑賞する	
11:00	スーパーボールキット配布・使用についての注意事項説明[松澤]	・スーパーボールキットを家で使う際に注意してもらう事の説明	スーパーボールキット 作り方のプリント
11:10	まとめ 感想記入・認定証配布[關谷]	・今回のまとめ ・児童から名札に感想をかいてもらい認定証と交換する	認定証
11:20	あいさつ[關谷] 見送り、片付け	・班担当学生(1 名)は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

２－２．活動報告

（１）スーパーボールを作ろう

A. 春日井小学校 6 月 10 日

1）取材報告（報告者：赤堀亜弓）

1．参加者

小学 4～6 年生 36 名、大学 1・2 年生 9 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 10 名

2．活動報告

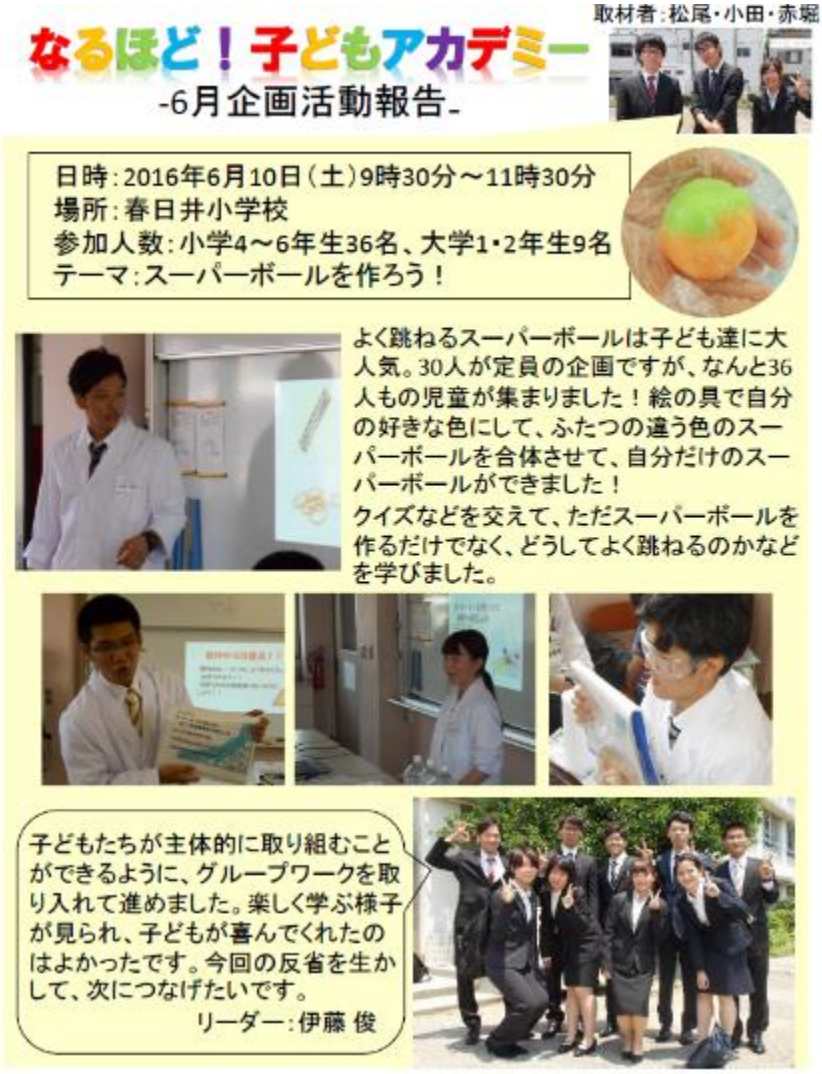
2－1．活動の様子

児童はスーパーボールへの興味・関心が高く、どのような過程で作品が出来ていくのかワクワクしながら活動していた。また、導入のスローモーションの映像や制作時に行われたクイズにも興味を示し楽しんでいた。

学生は各班について指導しているときは、丁寧に説明し児童と共に楽しんで活動に取り組んでいた。しかし、作業が遅れている児童への配慮をもう少しする必要があると思った。

2－2．企画の内容

児童が企画により興味が持てるように導入でボールのはねる瞬間のスローモーション動画を用意したり制作時に児童がより楽しめるようにクイズを用意したりするなどの工夫がみられた。また、導入時にはねるものの例を児童に考えさせ発表させることで児童が活躍できる場が設けられていた。一方で、準備に時間がかかり児童が来始めてもまだ準備が終わっておらず誘導する学生がいなかったのでバットに用意できるものはあらかじめ班ごと分けて用意していくとよいと思った。製作途中で、手がかゆくなってしまう児童が多くみられ、また班に一人も学生がついていない時が多々みられた。



2）児童感想文

学年	感想
4	よくはねておもしろい。
4	すごくて、もう一回つくりたいと思った
4	スーパーボールを作るのはたいへんだったけどたのしかったです。だんせい力という言葉もおぼえました。
4	とてもいろいろなことが分かったのでとてもよかったです。
4	スーパーボールを作るのにくちょくちょできもちよかった
4	さいしょはしっぱいするかなぁと思ってたけどやってみたらおもいどおりにできたのでうれしかったです。
4	あんまりうまくつくれなかったけど楽しかった！☆♡
4	楽しかった　家でも作ってみたい
4	おもってたよりむずかしかったです。
4	びみょう
4	はじめは、ほんとうにできるのかなとおもったけど、きれいにできてよかったです。
4	スーパーボール作りをはじめてやってみて、さいしょはうまくできるかしんぱいだったけど、先生がいろいろおしえてくれたのですごくうまくつくれました。♡ありがとう♡
4	とてもむずかしかったどけ、じょうずにできてとてもうれしかったです。
4	さいしょはできるのかなーと思っていたけどクイズもあっていろんなことがあってとても楽しかったです。また何かを作ってみたいです。家でも作ってみたいです。
4	すごくおもしろくて楽しかったです。
4	今日楽しくできるスーパーボールがつくれてうれしくてよかったです。せんせいたちもやさしくおしえてくれてうれしかったです。
4	楽しかったし、べんきょうになりました。
4	今日、はじめてつくったけど楽しくつくれました。
4	はじめてつくれてよかったです。
4	きみどりは、こいけど、みどりは、うすくて、とってもきれいだから。
4	すごく楽しくてずっと、この日をまっていてよかったです。はじめてなのでわくわくしました。
4	とても楽しかったです。スーパーボールが作ったことなかったので、つくれてよかったです。またつくりたいです。
4	スーパーボールを作るのがこんなに楽しいとは思いませんでした。はじめて

	作れたのでよかったです。
5	作ってるとき、スーパーボールがつぶれちゃったりひっついちゃったりして大変だったけどたのしかったです。先生のペーパー係がおもしろかったです。
5	とても面白くてゆかいだった。
5	おもしろかった。家でも作ってみたいと思った。なぞのえきたいとしりたい。
5	チャレンジアップ教室は初めてだったから、すこしきんちょうしました。スーパーボールも初めてつくったので、とても楽しかったです。またやってみたいです。
5	楽しかった。スライムもつくってみたい。とてもおもしろかった。
6	今日、じぶんのがぜんぜんすいぶんがぬけなくていやだなとおもったけどたのしかったまたいえでつくってみたいです。
6	楽しくスーパーボールが作れて良かったです！
6	とっても楽しかったです。次回も来たいです。
6	スーパーボール作りとっても、とっても楽しかったです！
6	楽しかったです。来てよかったです。白衣の人がやさしく教えてくれた分かりやすかった。
6	楽しかった。またやりたい！

3）活動まとめ

運営指導者からの意見・評価

企画は子どもたちも楽しむことができ流れがスムーズで良かった。
伝達が上手く伝わっておらず、施錠を忘れてしまうことがあった。
なぜ家庭科室の水道を使ってはいけないのかを考えて、理解してほしかった。

伊藤代理書き　（サイン　　）

○活動を終えて

①準備過程　本番2月前に企画書を変更することになってしまった。もっと教材研究を行い、理科の講師の方に聞き込みをする必要があった。またそれが原因で企画の内容が全員に伝わる前に当日を迎えてしまった。もっと前もって準備したい。

②企画の流れ・企画内容　企画中、予想をしていない事がひんぱんに起ってしまった。もっとイメージを膨らませて望む必要があった。また、作成時間がおしてしまい、省いてしまった部分もあったのでスーパーボールを小さくするなど工夫をして次回に望みたい。

③学生の活動　最初の準備の段階であわただしくなってしまい、打ち子どもだけにしてしまった。また、伝達しなければならないことが上手く伝わらないこともあり、子どもたちの危険にも繋ると思う。情報共有や伝達は早く正しくしていきたい。

④テーマに対する指導の工夫　話しを聞くだけの時間をなるべく使うないように工夫した。子どもたちが主体的に取り組むことができるように、グループワークを取り入れて進めていった。そのかいがあって子どもたちが楽しく学ぶ様子が見られた。

⑤目標達成度　児童に学んでもらいたいことは伝えることができたと思う。なにより、児童が楽しんでくれたことは良かった。しかし、全員が企画内容を頭に入れて望む事ができず、打ち子を完全にまかせることができなかったので改善したい

⑥総合評価　児童が楽しく活動できた事はとてもよかった。しかし、準備不足から打ち全員が何をやるかを理解することなく企画が始まってしまったため研究・頭が多くなってしまった。全員が流れを把握し、スムーズに企画を進められるようにしていきたい。

教員からの意見・評価

私から見ると、よく準備され、スムーズに進行していると言えます。自分たちも、良かった点をしっかり見つめて評価していいと思います。時間内に製作できるとも熱心にとり組んでくれたことなど。またしっかり準備（プリントなど）したことなど。
今後の課題としては、極力、計画を変えないこと。やむを得ない場合は、変更の事実を確実に共有し、その後で、理由等を振り返ること。次回に生かして下さい。

（サイン　吉田直子

B. 北城小学校 7 月 1 日

1）取材報告（報告者：稲田・船橋・中島・吉岡）

1. 参加者

小学 4～6 年生３５名、大学１・２年生１２名

大学教員１名、運営指導者１名、観覧保護者１２名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

児童はスーパーボールの制作を楽しんでいた。制作だけでなく、スローモーション映像によるボールが跳ねる理由や、クイズ、スライムの演示実験にも興味を示し楽しく活動していた。緊張から始めは児童とのコミュニケーションが少ない学生も見られたが、徐々に児童とのコミュニケーションも増やすことができていた。

2－2. 企画の内容

児童が企画に興味が持てるよう、導入では「はねる」ものをグループで考えしっかり発表することができていた。班で考えることで学生と児童の距離が近くなっていったように感じた。スローモーション映像を使い分かりやすく「弾性力」説明する工夫がされていた。また、各班で作業の進度の差がみられることがあったが、時間調整や児童のサポートをするなど、臨機応変に対応することができていた。

一方で、演示実験で薬品を使っているのにもかかわらず、集まった児童と演示実験をする学生との距離が近く、薬品が誤ってとんでしまうのではと心配な場面もあった。立ち入り禁止の場所を制作したほうがよかったと思う。

2）児童感想文

学年	感想
4	スーパーボールをはじめて作っておもしろかった
4	じっけんがおもしろかった。
4	スーパーボールを作るのはむずかしかったけどたのしかった。
4	スーパーボールの作り方やスライムとか作り方をしれて楽しかった。おもしろかったw
5	いろいろな実験がみれてよかったです。また土曜チャレンジアップ教室に入きたいです。
5	とてもおもしろかったww つぎはなんですか？また行きたいでーす。
6	いろいろな実験や班の子のスーパーボールもみれて楽しかったです。
6	スーパーボールの作り方がよく知れておもしろかった。
6	ねんどあそびが昔からすきだったから、こねるあそびができて、うれしかったです。
4	スーパーボールをはじめて作ったけどたのしかった。
4	スーパーボールをつくるところがおもしろかった。Wwwwww
4	スーパーボールを作って楽しかったです。
4	スーパーボールはこんなふうにできるとははじめてした。でも丸めるときは「ちょっといい」と思った。
4	スーパーボールとスライムのつくり方はにといるなと思いました。またつくりたいです。
4	おもしろかった（笑）
4	スーパーボールを作るのがはじめてなので作る前「どんな感じなんだろう」と思った・
4	すごくつかれたけど、上手にしどうをしてくれて分かりやすかった！また土曜チャレンジアップ教室に行ってみたいです。ありがとうございました。
4	すごい体験ありがとうございます。家でも作ってみたいと思います。
4	楽しかった（たんじゅんに）
4	スーパーボールを作ることがはじめてだったのでとてもおもしろかったです。しかもスライムを作るところをみせてもらい、こんど作ってみよう津思いました。しかもな・な・なんと、スライムにレモンじるをいれるとみずにもどってしまうというじっけんがおもしろかったです。またいえでも作ろうと思いました。
4	さいごにしぼりすぎてしまってあまりくっつかなかった。
5	スーパーボールをつくるのが楽しかったです
5	先生がおもしろくて、ちょっとしっぱいしたかもしれないけど、とても楽しかったです。次の土曜チャレンジアップ教室に参加したいと思いました。とても楽しかったです。

5	スーパーボール作り楽しかったです。またきかいがあればまた来たいです。
5	なんかとてもスーパーボールぽくて、スライム実験とかもすごかったです。またやりたいです。
5	楽しかったです ww
5	作り方がかんたんで楽しかったです。また土曜チャレンジアップにきたいと思いました。
5	スーパーボールの作り方がとてもかんたんでとてもわかりやすかったです。
6	自分が思っているのとは少し違うけど楽しかった
6	とてもたのしかったので、またやりたいと思いました。
6	スーパーボールのつくり方とスライムのつくり方が分かりました。楽しかったです。
6	楽しかった！！！
6	スーパーボールは遊んだことはあるけど、作ったことはないから、楽しかったです。大切にしたいと思いました。
6	スーパーボールの作り方をつわしく分かりやすく教えてくださったのでわかりやすかったです。自分の好きな色で作れたのでうれしかったです。
6	欠席
6	めったにできないスーパーボールづくりができてよかったです。スライム実験もとてもおもしろくてたのしかったです。また、土曜チャレンジアップ教室にいきたいと思いました。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

準備、受付から、かたづけまで、2年生(リーダー)を中心に きちんと活動されていたと思います。
回を重ねるごとに 皆さん成長されています。ースースの子どもに向き合ってみえます。子どももいきいましてました。
ひとつだけ気になったことがあります。グループごとに クイズをする場面がありましたが、
手を動かしながら 耳を傾けるのは 集中できてない子がいましたので、スーパーボールが完成
してから 全体に向けてクイズをした方がいいように思います。楽しい企画をありがとうございました。
(サイン 山田)

子どもたちはもちろん 保護者の方も大変 ようこんでみえました。

○活動を終えて また 前回 指摘させて頂いた休憩時間の廊下の見守りも きちんとしていただきありがとうございました。

①準備過程

自分の情報伝達が少なくて困らせたこともあった。1年生企画を見通して、1年生に準備をまかせたが上手にいかず、逆によくなかったのかなと反省点は多い。しかし、みんなで協力してできた点は良かったと考える。

②企画の流れ・企画内容

企画の流れは良かったと思う。スムーズに進んでいたので良かった。しかし反省点は多い。演示実験では児童が前に来すぎて危ない点が多かった。前に集めるときは最善の注意を払った方が良いことが最大の反省点である。

③学生の活動

前回より楽しく活動をしていた。前回の反省も活かされていて良かったと感じる。しかし、前回も気になっていたが、準備をするときに手が止まって動いていないときがあることや、自分の体を把握していない点が多くみられたので次に活かしていきたい。

④テーマに対する指導の工夫

前回につづき、クイズ大会やスローモーションを使った視覚的に分かる授業をしたという点と児童が好きなスライムを使った実験をみせることで、ゴムという性質のおもしろさを理解させる指導ができたという点が工夫した点である。

⑤目標達成度

児童に学んでもらいたいことは伝わったのではないかと考える。楽しく指導することを目標にしていたので よかったのではないかと思う。反省会でも多くの学生が目標達成できたという声が多かったので良かった。

⑥総合評価

全体目標に対しては学生のみんなが意識していたので良かった。しかし、新たな反省点も増えたのでこれからの企画に活かしてほしい。1年生企画では失敗することも増えると思うが今回の経験を活かしてほしい。

教員からの意見・評価

おおむね 順調にできていたと思います。
人数が多いので、児童が先生役の実験を見るために周りに
集まった時、近すぎる児童がいて、コップの内容物が飛び出したら、
児童にかかってしまうのでは、と少し心配でした。(サイン 高木徹)

（２）小さなモンスターを探そう！

A. 勝川小学校 6 月 3 日

1）取材報告（報告者；土屋　健昂）

1．参加者

小学４～６年生１４名、大学１，２年生８名、

大学教員１名、小学校関係者２名、観覧保護者２名、

２．活動報告

２－１．活動の様子

活動時間前にきた児童が退屈しないように、進んで話をしていた。その時に１年生に比べ２年生は話の内容や流れなどが全く違っていて、児童も楽しそうに見えた。緊張感も感じられず、本当に先生の授業を聞いているかのようだった。

２－２．企画の内容

チリモンを探すときの説明で、児童が退屈しないように教卓に集めたり、質問をたくさんしていて、常に児童が楽しくいれるようにしていた。ただ、説明の時に、タメ語だったり、聞き取りにくい方言などがつかわれていたので、丁寧語で標準語で話したほうがいいと思った。また、説明の時にもっと間をあけないと、児童が説明についていけないと思ったので、説明はゆっくりと、間を大事にしたほうがいいと思った。

2）児童感想文

学年	感想
4	いろいろな魚がまぎれていたなんて始めて知りました
4	はじめて見た魚しかいなかったです。
4	おしえてくれたりじゃんけんをたってくれて楽しかったです。魚がすきになりました。ありがとうございました。
4	いろんな生き物があって、ビックリしました。カードもオリジナルで作れてよかったです。またやりたいです♡
4	いろんなチリメンがあってかわいいのもあったし、こわいのもあって、とてもたのしかったです、またいきたいです。
5	小さなモンスターをさがそう！をやってみて、チリメンの中には５４個あるなんてしりませんでした。またやってみたいです。
5	オキアミやかにや魚がいっぱいいたのでおもしろかったです。
5	わたしが行ってたときは探すのがなくて作るのが多かったけど、今日は作るのと探すのがあったので楽しかったです。
5	みつけるのは、かんたんだったけどちりモンの分別をするのが、大変でした。
5	レアなさかながたくさんいてさがすのがたのしかった。
5	いろいろめずらしいのがでてうれしかったです。また土曜チャレンジにきたいです。
5	タツノオトシゴをみるのは初めてだったので、すごくこうふんしました。またできたらやりたいです。
6	小さくてかわいいいきものばかりですごくおもしろかったです。さいごのゲームもたのしかったのでよかったです。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

今後の活躍，成長に期待しています。
これからもよろしくお願いします。がんばってください。

代筆 円羽　　（サイン　　）

○活動を終えて

①準備過程 今回の企画はあまり製作におもきをおいていなかったため，準備としては，チリモンカードの作成や，そのカードにするためのチリモン探し，またゲームのルールぎめなどが主な活動となった。準備過程の日程には全員出席してくれ，大部分の班員が積極的に作業に取りくんでいた。

②企画の流れ・企画内容 当日，時間が始めのうは少し予定より早くすすんでいたが，チリモンカード作成のところで当初の予定よりもだいぶ多くの時間をつかったため，最終的にはちょうどいい時間におわらせることができた。次回にむけてつめていきたいと思う。チリモンの企画じたいは子どもたちは楽しんでいるようにみえた。

③学生の活動 2年生は2年目ということもあってか子どもとの会話や対応にはなれているようにみえた。しかし，1年生への指示や全体把握などにはまだまだ気をくばれずできていないことが多かった。1年生は初の活動だったため，できていないことも多々あったが，前で話す，子どもと会話をするというところではしっかりできていたと思う。

④テーマに対する指導の工夫 今回の企画テーマが「小さなモンスターを探そう」ということで子どもにチリモンを探してもらう，チリモンカードをデザインしてもらう，チリモンカードでゲームをしてもらうといった児童が自主的に行うものが多かったため，学生は活動を通して，チリモン等に興味をすこしでももってもらうための声かけを工夫したのではないかと思う。

⑤目標達成度 今回の2年生の目標が「昨年の経験をいかし，一年生の見本となるような行動をとれるようにする。」となっていたが，できていないと思われる場面が多々あった。1年生の目標は「分からないことは明確にし，自主的に活動できるようにする。」だった。1年生はしっかりとこの目標をほぼ達成することができたのではないかと思う。

⑥総合評価 初めての企画で忘れ物や不なれな点は多々あげられたが，特におおきな事故などがでなかったためよかったと思う。だがやはり初めての企画ということで問題点や反省的がたくさんあげられた。初歩的な部分もたくさんあげられたため，今回の反省をふまえ次回の活動をよりよいものにしていこうと思う。

教員からの意見・評価

・導入 → クイズ → 持ち物確認 → 演示説明 → チリモン探し → テミネート加工 → 加工物でゲーム
テミネート加工するだけでなく，制作物でゲームまで行うのは面白い企画だと思いました。児童も楽しそうでした。
・1年生へ，最初の活動でしたが，声の大きさ良し，スピード良し，分かりやすさ良しと児童に伝えようという気持ちがよく分かる発表でした。物を使っての説明など，今後のパワーアップに期待したいと思います。
・まものの持ち帰りは，衛生上問題ありです。他の方法に変更して下さい。　（サイン　来岡かい　）

B. 東野小学校 7 月 1 日

1）**取材報告**（報告者：木股和希）

1．参加者

小学 4～6 年生 9 名、大学 1・2 年生 8 名、

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名

2．活動報告

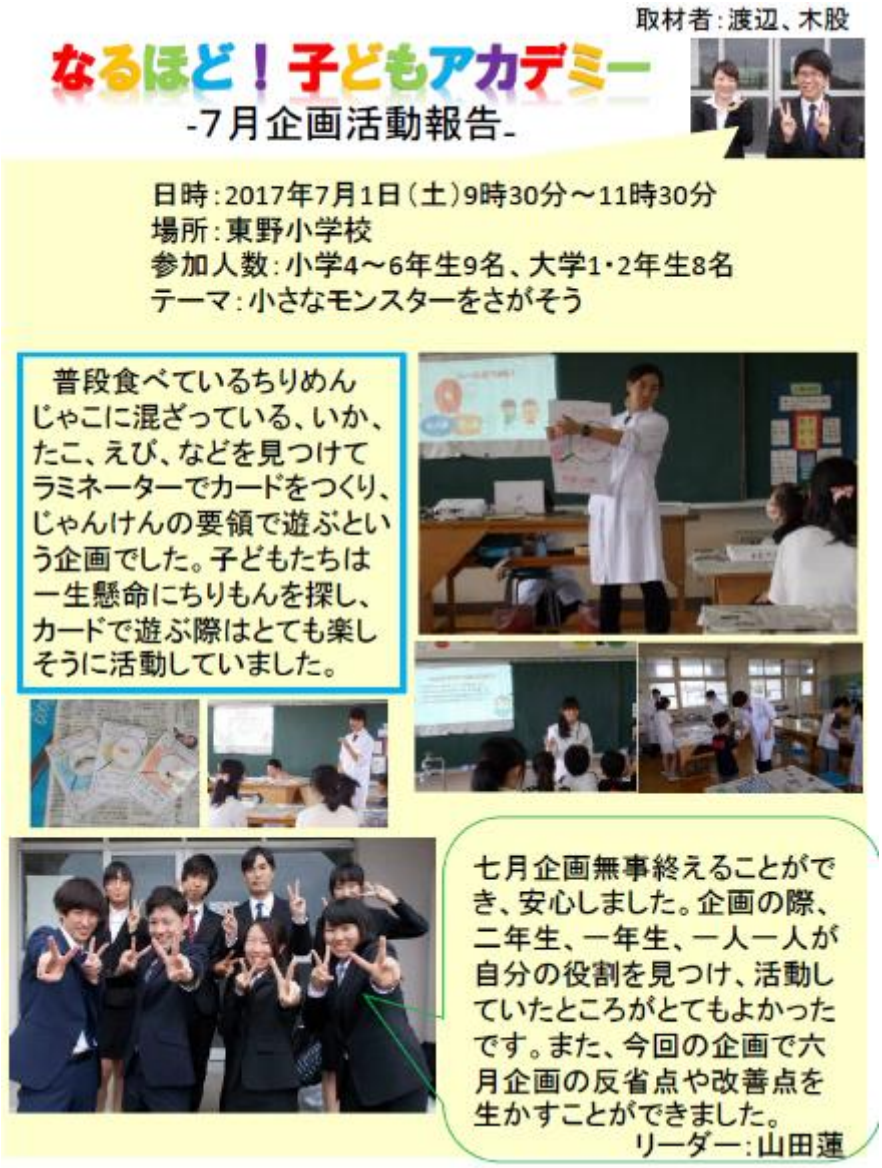
2－1．活動の様子

企画開始前、子どもたちが退屈しないように先生（学生）が、それぞれ対応していて、子どもたちは楽しそうに話をしていた。また、活動中も子どもたちそれぞれのニーズへ臨機応変に対応していて、全体的にはスムーズに企画が進んでいた。また、タイムライン通りに企画が概ね進んでいた。

2－2．企画の内容

チリモンに関する面白いクイズを出しその上でチリモンを探すという流れが、子どもたちが興味を引く自然な思考の流れになっていて工夫されていると感じた。また、全体的にジェスチャーなどを使って説明をしていたので、子どもたちへ伝わりやすいなと思った。

改善した方良い点として、話す内容はあらかじめ決まっているので、まとまりをもって、どのように話すのかを事前にきちんと考えておくべきということ。そして 7 月初旬とは言え、むしむししていたので、子どもたちには休憩以前にも体調に配慮するべきだと思った。



2）児童感想文

学年	感想
4	自分でももっと探してみたいと思った。ずかんでじゃんけんをするのがとても楽しかった。またやりたい。
4	ちりめんたべれたらなーと思ったりカードが作れるとは、おもってなかった。
4	いろいろな魚のしゅるいがあってとてもたのしかったです。これからも魚を見つけていきたいと思います。
5	チリモンさがしはたのしかったです。タツノオトシゴはみつけてうれしかったです。またやってください。
5	ぼくは今日、チリモンに少し興味がわいてきたと思います。いろいろさがしたり、とても楽しくまたやりたいと思いました。チリモンカードも作れて、とてもたのしかったです。
6	「ホネ」をみつけてよかったです！豆ちしきをしったので、これから友だちにおしえていきたいです。ちょーたのしかったです。
6	レアなものが見つけられた。しらなかったことがわかった！たのしかったです♪

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

今回は、人数が少なくさみしい様に思われましたが、参加した児童が明るく興味を持って取り組んでいましたので、良かったです。むし暑く、児童の体調が気になりましたが、水分を取るように指示を出して頂いたため、無事に終えられたので安心しました。（サイン 河原　）

○活動を終えて

①準備過程 今回の7月企画では、限られた期間しかなく、一つ一つの準備をきちんと行い、準備をしていった。また今回は、企画会議、予備実験、最終リハーサル（準備）の計三回ほどしかアカデミー活動を行うことができず、当日どうなるか不安だったが、無事終えることができた。

②企画の流れ・企画内容 今回は6月企画に引き続き「小さなモンスターを探そう！」というテーマで活動を行っていった。今回の企画で新たに導入したクイズでは、児童がどのような反応をするのかが不安だったが、私たち学生の不安を吹き飛ばすように児童が楽しそうに取り組んでいて、嬉しかった。

③学生の活動 二年生が四人、一年生が四人の計八人と小規模の活動となったが、一人一人が自分の役割をしっかりと達成し、全体で声をかけ合い伝達できたことはとてもよかった。細かなミス等はいくつか見られたが、6月企画の反省点、改善点は生かされただろう。

④テーマに対する指導の工夫 テーマが「小さなモンスターを探そう！」というテーマとなったが、もう少し一目見て、児童に伝わるようなテーマの方がわかりやすく疑問を払拭することができたような気がした。また、ナルモンカードでじゃんけんをする活動の際、学生間でルールが曖昧になってしまったため、話し合いをもう少し取るべきだった。

⑤目標達成度 目標である前回の6月企画の反省点、改善点を生かして、7月企画をより良い活動をするというのが、今回の目標であったが、この目標に関しては、二年生も一年生も比較的、頑張っていたように思える。学生、一人一人が伸び伸びと活動していた部分もとても良かった。

⑥総合評価 今回の活動は、忘れ物がなく、時間をかけて準備を行った甲斐があった。学生、一人一人反省点など思う部分はあると思うが、無事二年生、一年生が協力して企画を終えることができたことが一番安心した。このような貴重な機会を与えられたことが学生、一人一人の経験となっていくような気がした。

教員からの意見・評価

節足動物の説明が適切ではなかったように思う。
暑い時期なので、上着着用でなくてもいいかもしれない。
例えば、男性は半袖シャツにネクタイくらいでどうか。
（サイン 高木徹）

（３）プラネタリウムを作ろう！

A. 北城小学校 6 月 3 日

1）取材報告（報告者：宮部成矢）

1．参加者

小学 4～6 年生 30 名、大学 1・2 年生 7 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名、観覧保護者 5 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

児童は星に興味がある子が多く、どのような作品ができるかワクワクしながら活動していた。難しい工程も教師に質問しながら最後までやり遂げようとしていた。

学生は各班について指導しているときは、丁寧な説明と臨機応変な態度で指導していた。前で全体に説明する学生は、児童の注意を引く話術をもう少し身に付けるべきだと思った。

2－2．企画の内容

企画がスムーズに進むように、星座台の一部を学生側で作っておく、台紙を全て切ってある状態から始めるなどの工夫は見られたが、それでも児童には難しい工程が多い。企画の始めが多面体の説明から入った時点で子どもに難しい活動だと思わせてしまっていた。スティックのりでは子どもが貼ったと思っても剥がれることが多かったため、水のりやボンドなどの用意をすべきである。鑑賞用の段ボールを用意して、子どもたちに自分の作った作品を鑑賞する時間を与えると良い。

2）児童感想文

学年	感想
4	チャレンジアップ教室は今回がはじめてで、すごく勉強になったので、またいってみたいです。それでも、みんなのなかで？？を言っていたので、そんなことをいっていたら注意してください。
4	はじめて土曜チャレンジアップ教室にきてたのしかった。
4	のりでくっつけるのがたいへんだったけど、とてもおもしろかった。わたしは、星が大好きなので、とてもうれしかったです。
4	いろいろなしくみをまなんでたのしいです。
4	今日のプラネタリウムを作ろう！をやってみて作る事のむずかしさが分かりました。そして星がすきになりました。これからもチャレンジアップきょうしつをしていきたいです。
4	おもったよりむずかしかった。
4	私は星が大好きなので、うれしいきかくでした。キレイにできたのでうれしかったです。のりがあまりひっつかなかったので、うれしかったです。
4	作るのがむずかしかったけど、楽しかった。夜のときお家で見たいです。友達に「がんばって作ったんだぞー」とじまんしたい。またやりたい。
4	むずかしくてまちがえる所もあったけど、とても楽しかったです。またやりたいです。
4	むずかしかったけど、いいのが作れたと思います。
4	すごくたのしくて、どのようにしたらじょうずにできるよとおしえてもらいやりやすかったです。
4	むずかしかったけど、楽しかった。
5	とても楽しかったです。プラネタリウムが作れてうれしいです、。これでべんきょうとかできるのでまた作ってみたいです。調べられるので大事に作っていこうと思いました。またやりたいです。
5	今日、初めてきたけれどとってもたのしかったです！ありがとうございました！
5	組み立てるのが、むずかしかったです。家でも光らせてみたいと思いました。
5	難しい場面もあったけど、楽しかったです。
5	とっても楽しかったです！次回のスーパーボール作りも絶対来ます！！
5	むずかしいと思ったけど、けっこうかんたんでした。本当のプラネタリウムみたいでビックリしました。早くプラネタリウムの星を見てみたいです。
5	作るのが難しかった。でも楽しかったです！家で作ってみたいです。
5	とれちゃったり失敗したけどやさしくおしえてくれたので楽しかったです。

	次回もきたいと思いました。
6	楽しかった。でものりがつきにくい。またスポーツ系のがいい
6	すごくたのしかったです。また行きたいです。
6	プラネタリウムが家でもみれてうれしい。ところどころむずかしいところがあったけどたのしかった。
6	楽しかった。いがいとむずかしかった。こわれたのでざんねんだった。
6	4 年生がんばってた。
6	つくるのは、むずかしかったけたのしかったです。オリオンざとさそりざのこともわかりました。
6	いがいにたんじゅんな作りだった。
6	豆でんきゅうがひからなかった
6	まだできていないけど、きれいにできた。さいばとは道具かなと思っていたけど使って完成はびっくりした。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

リーダーの指示のもと、準備から片付けまで、みんなで協力して、活動ができていたと思います。ひとつだけ、注意してただきたいことがありました。
休憩タイムに部下で4年男子が消火器にぶつかり頭をうちました。幸いケガはありませんでしたが、これから、トイレの見守りもしていただけたらと思います。

（サイン　山田ひと美）

○活動を終えて

①準備過程

作るものの難易度が高いため、学生が作って準備するものが多くなってしまった。また準備期間も短く、全体のリハーサルで、全体の流れや指導のしかたなどもっとこまかい所まで詰める必要があると感じた。

②企画の流れ・企画内容

当日は始めの方から時間がおしてしまった。時間配分をもっと考える必要があった。
企画のブレインストーミングで星について考えようとした点はよかったと思うが、作るものが難しくもっと児童にとって作りやすいものをえらぶ必要があったと思う。作ることが目的になってしまった。

③学生の活動

準備は学生全員で協力して行うことができた。当日は各自割り当てられた仕事をすることができた。児童とたくさん話しコミュニケーションをとることができていた。しかし休憩中、目の行きとどいてない所があったので今後はそのようなことがないようにしたい。

④テーマに対する指導の工夫

星座についての神話や、今見える星についての話や紹介をすることで生活の中に星を見る時間ができるように企画の中に入れた。時間がなくなってしまったために、話の内容がうすくなってしまったのはよくなかった。

⑤目標達成度

児童の感想から、星や星座をブレインストーミングを通して興味を持ってもらえた点はよかった。一方、説明が不十分であったりするときの対応が遅れてしまったり、時間に臨機に対応することができていなかったときがある。

⑥総合評価

企画の準備・本番と協力して活動をすることができた。しかし、本番では、つめのあまさから、想定しておかなければいけなかったことにもかかわらずうまく対応できない所があった。もっと本番に近い目線で考える必要があった。

教員からの意見・評価

・大きな事故もなく、終了できてよかったと思います。経験初となる企画だからだと思いますが、全体的に学生の表情が暗かったです。明るく笑顔で対応していきましょう。また、工作手順を学生が理解していない点が目に付きました。例）学生→児童「たぶんあってるよ」

・児童の感想文を読むと、野球のつかない児童もいたようです。原因が分かりませんが、事前の確認が必要だったと思います。

（サイン　木岡ゆい）

（４）小さな力持ち!?の秘密を解明しよう！

A. 鳥居松小学校 6 月 17 日

1）取材報告（報告者：平川　裕也）

1．参加者

小学 4～6 年生１７名、大学１・２年生９名

大学教員１名、小学校関係者１名、教育委員会１名、運営指導者１名、観覧保護者３名

2．活動報告

2－1．活動の様子

児童は元気な子と静かな子が同じくらいいたように感じた。学生の発問に対して積極的に答えようとする児童の姿が見受けられた。大学生は自分の役割をしっかりとこなせているように感じた。始めは緊張からか児童と上手く関わることができなかった学生も徐々に積極的に関わろうとすることができていた。

2－2．企画の内容

全員が児童と積極的に関われており、何か足りないなどの事態にも素早く対応ができていた。児童との関わり方を二年生が見せ、一年生はそれを見て覚え、実践するという姿があり良かった。企画に対して学生が考えていることのすりあわせをした方が良いと思う。緊張からか早口になり、言葉が足りてないように感じる場面がいくつかあった。前に出る学生が児童の意識がこちらに向くように全員が声をかけるようにすると良いと思う。

2）児童感想文

学年	感想
4	クイズのようなのもあり、楽しかったです。紙コップが１０こで人が乗れたのでおどろきました。
4	いすが作れたし小さなちからもちがわかったよかった。
4	すごくたのしかったです。またこれたらきたいです。
4	かみコップやたまごのじっけんたのしかったです。
4	作ったり、たまごの上にのったりかみコップの上にのったりして楽しかった。
4	作ったり、じっけんしたり、おもしろかったです。またつくりたい。
4	たまごのじけんでわれてしまうと思っていたけど、たてていたのですごいと思いました。すごく楽しかったです。
4	今日はとても楽しくて､新はっけんもできてうれしかったです｡ありがとうございました。
5	お兄さんたちが伝ってくれたからきれいにできました。とても楽しかったです。さっそく家でつかってみたいです。
5	さいしょのかみコップとたまごのじっけんでかみコップ 10 個で 60 kgをささえられるのにびっくりしました。
5	紙コップに乗るのもたのしかったけどイスづくりが一番楽しかったです｡紙コップに乗れるなんてとてもびっくりしました。楽しかったです。
5	物のおもさはささえる物のかずが多いほど１つの物にかかるおもさがへることをあらためてしりました。
5	今日この教室に参加して思ったことは､生たまごの上にのってもわれないとかコップの上にのってもこわれないとか初めて知りました。
6	僕は､「小さな力持ち」にとても興味がありました。中部大学のみなさんと学習できてうれしかったです。僕が困っているときに助けてくれた先生を忘れません。
6	紙コップは何個もあれば､おもい人でも支えられることが分かりました｡いすも楽しく作れて良かったです。いろいろなことが分かって楽しかったです。
6	よくじょうずにできた。
6	紙コップやたまごの上に人が乗ってもたくさんあればのっていられると分かってびっくりしました。新しいことがたくさん分かって楽しかったです。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

説明の仕方・サポート（各班の）が楽しく（?）できるよう頑張っていたと思う。子どもたちがあきず、意欲的に取り組んでいた。
思いがけない物（紙コップ・卵）の上に乗る!? という企画がよかった言うまでもないですが!!

（サイン　豊沢　）

○活動を終えて

①準備過程 イスの材料となる牛乳パックやダンボールを班全員で切り、企画内容を練りパワーポイントや話す内容を考え、企画を円滑に進められるような準備を行い、余裕をもって企画に臨むことができた

②企画の流れ・企画内容 流れという面では休憩を挟んで二つの企画に分かれてしまった感じがあるのでそこを改善し、流れを作りたい。内容は「おお」という声も多く卵にのるところは最大の盛り上がりを見せた。内容はよくできたと思う。

③学生の活動 最初の準備の段階から積極的に活動できていたと思う。前に出て説明する部分では声が小さかったり顔が固まっていたりと緊張が見える部分が多かった。企画をしっかり運営しようという意志があって良かったと思う。

④テーマに対する指導の工夫 紙コップに乗るという実験を行い、式を立て計算する活動から紙コップの数を増やすと1個にかかる力を減らすことができ紙コップのような柔らかいものでも乗ることが可能になるということをわかりやすくする。

60/100点

⑤目標達成度 企画が始まってすぐは学生、児童ともに緊張が見えたが時間とともに少しずつ距離を計れるようになり雰囲気を知ることができたと思う。時間通りに終えイスを完成させることができたのでよかった。深めるべきところを深められるような説明を行うことができなかった。

⑥総合評価 企画をおもしろくする、楽しくするというところに重点を置きすぎたところがある各々課題があったが、次回企画で改善できると良いと思う。今回は無事終えることが最大の目標だったので学生が真剣に考えうまく進められたところは評価できる点である。

教員からの意見・評価

グループで力を合わせて企画や準備に取り組んでいたと思います。その成果が本授業でかたちになったのではないでしょうか。特に児童に興味を持ってもらうために、わかりやすく楽しい実験を組み入れるなど工夫していました。この経験を次に活かして下さい。

（サイン　長尾　）

B. 松原小学校 7 月 1 日

1）**取材報告**（報告者：村田・小関）

１．参加者

小学４～６年生７名、大学１・２年生８名

大学教員１名、運営指導者１名、観覧保護者１名

２．活動報告

２－１．活動の様子

児童は話し合うような場面では班のメンバーとしっかりと話し合っているような場面が見られ、卵に乗るときなど盛り上がる場面では声を上げて盛り上がる様子が伺えた。ハプニングは何度かあったが、その度に学生がうまく立ち回り企画を上手く回していた。

１年生にとっては２回目ということもあり、小学生と積極的に関わっている姿が多く見られた。また、前に出て話をするところでは緊張することなく落ち着いて児童に話をするような姿を見ることができ、良かった。少人数ということもあり学生が児童一人一人のサポートを上手く行うことができていたのではないかと感じた。

２－２．企画の内容

紙コップや卵など、普通に考えたら壊れやすいものを工夫して乗ろうという企画が児童の興味を引いていたと思う。乗れないと思っていたものに乗ることができていたので、児童自身も実験を行っていてとても楽しそうな雰囲気を出していた。また、６月企画では紙コップ一個あたりにかかる重さの計算をさせることが上手くいかなかった反省から、今回は時間をかけて、学生がなぜそのような計算で求められるのかをうまく誘導して教えることができていた。

2）児童感想文

学年	感想
不明	たのしかった！！
不明	いすをつくるのがたのしかった。
不明	紙コップがこんなにつよいとは思わなかったです。
不明	担当してくれた先生がやさしくて楽しかったです。また来たいと思いました。
不明	むずかしいとろこもあったけど楽しかったです。
不明	たまごの上には人が乗れるとは思いませんでした。おもしろかったです。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

子どもが積極的に参加できる講座内容だと思いました。
子どもの参加人数が少ないことが残念でした。
説明は、子どもたちを引き付ける工夫もあり、分かりやすく、よかったと思いました。

（サイン 篠山奇）

○活動を終えて

①準備過程 前回の反省を生かし牛乳パックで三角形を作る過程を学生が行った。ダンボール等は、先月のあまりを使ったので切ったりする作業はなかった。各自が話す所のセリフなどを考えさせた。時間のない中計画的に物事を進ませる事が出来た。

②企画の流れ・企画内容 企画の流れは前回、「二つに分かれている」という意見が出ていたので、学生が言葉で牛乳パックも紙コップと同じという事を言うようにした。企画の内容では卵に乗る所が一番盛り上がりたでいきおいに乗れた。流れも内容も上手くいったと思う。

③学生の活動 6月企画が終わってから2週間しかない中で、やらなければいけない事をしっかりこなすことが出来ていた。企画当日では前に出て話す場面ではしっかりと児童の反応を見ながら、うけ答えをすることが出来ていたので良かったと思う。

④テーマに対する指導の工夫 児童に計算をさせるという場面で、マーティン君を活用し、計算式の視覚化をはかり、児童にわかってもらえるようにした。1個にかかる力が小さくなると卵や紙コップ、牛乳パックの三角形にも乗ることが出来るということをつなげる努力をした。

⑤目標達成度 6月企画よりも2年生は説明がわかりやすくなっていたし、1年生にも2年生が丁寧に教える事が出来ていたので、よりよい企画にはなったと思う。時間通りとまではいかなかったが、誤差の範囲で早く終わったので、良かったと思った。

⑥総合評価 6月企画が終わってから2週間という短い準備期間でしっかりとした企画をすることが出来たと思う。各向細かい課題が残ったが次回で改善できれば良いと思う。全員が真剣に取り組んで良いものを作り上げることが出来たと思う。

教員からの意見・評価

（前半の活動を見ての感想ですが）
自信をもってきまきまとプレゼンしていて好感がもてた。
子どもの驚き反応、楽しそうな様子から、うまくいっていることがわかる。チームワークもよく、準備の周到さが伺えた。
参加の数について検討すべし！ 7/5

（サイン 吉田直子）

（少なかったことに）

（５）ゴムの不思議を知って・作って・走らせよう！

A. 松原小学校 6 月 10 日

1）取材報告（報告者：倉地真歩）

1．参加者

小学 4～6 年生１０名、大学１・２年生８名

運営指導者１名、観覧保護者２名、

2．活動報告

2－1．活動の様子

児童は静かな子が多いように感じた。発問に対しては、手を上げて答えられる子が数人いた。大学生は自分の役割をしっかりやっていた。児童と楽しく話せる人と話せない人の差がある感じがした。安全めがねの忘れ物があった。休憩前、前に集まる場面で、集まらない児童が二人いた。休憩がどのくらいなのか伝えて忘れていたなど曖昧なところがいくつかあった。

2－2．企画の内容

企画書に準備の役割分担を記載した方が良い。何をしたら良いか 1 年生が戸惑っていた。実際にゴムの臭いを嗅がせるのは良いと思った。しかし、臭いの嗅ぎ方の注意をした方が良い。臭いがきついためマスクを用意しているのは、とても気配りができていると思う。マスクがいらなくなったら回収した方がいいと思った。たくさんの事を学べるのはいいが、話が多くて飽きている児童がいたので改善するべきだと思う。おもちゃが動かなかった児童に対応ができている人もいたが、できてない人もいたので全員が対応できると良いと思う。

2）児童感想文

学年	感想
4	作るの楽しかった　またやりたい　つぎはもっとすごいものをつくりたい
4	わたしはC-1グランプリで1位1位2位とゆうけっかをのこしてすごくともだちといっしょにかててよかったです。
4	たのしく作くれてよかった。
4	ごむの木からごむができるなんで、はじめてしりました。
4	土曜チャレンジのみなさんへ　ごむになるまえのことをおしえてもらいありがとうございました！
4	工作できてたのしかったです　あととてもおもしろかったです。
4	あんまり動かなかったけど楽しかったです。
5	ゴムの性質がたくさん分かってとても楽しかったです♡
5	クリーパーとってやったぞwww
5	ゴムのことが分かった。初めてだったのでどんなのか分からなかったけれどおもってたのより、つくるのやせつめいがわかりやすかった。クリーパーとられた！

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

始めに臭いをかいだり、触ったりしたのは、これから楽しい実験が始まるのではないかという導入になり、いいと思いました。
劇は面白く分かり易い説明になったので盛り上がりよかったと思いました。

（サイン 篠崎）

○活動を終えて

①準備過程

今回は制作するものが簡単なので荷物準備はスムーズに終えることができた。そのためリハーサルに沢山の時間を使い、企画の流れの確認や自分の役割についてしっかり理解して当日に望めるようにした。

②企画の流れ・企画内容

企画内容はゴムの弾性についてとその性質を使った簡単なおもちゃ作りとなっている。前半に弾性の説明、後半に制作としていたが、30分巻いてしまったり、前半に子どもの活動を多くいれていなかったので飽きてしまう子もいた。次回までに直せるようにしたい。

③学生の活動

今年の1年生はレベルが高いと感じた。少し緊張もある様子だったが、子どもとの接し方、企画理解はしっかりしていた。2年生も全体的に活動できていた。しかし全体が見えていないときがあった。理に適わない状態が発生したことから、次回は班構成などを見直したい。

④テーマに対する指導の工夫

今回の企画で扱う内容が高校の範囲もあるので、子どもたちに楽しく分かりやすく理解してもらえるようにした。ゴムの原料であるラテックスに酢酸を入れゴムの製作実験をしたり、加硫をすることで何故弾性が起こるのか劇にたして説明した。

⑤目標達成度

ゴムの性質については、子どもの感想から少し理解してもらえたのではないかと思っている。だが、子どもに楽しんでもらえるような工夫などが足りないために盛り上がりに欠けるところがあったと思っている。学生の動きは良かったので、企画の改善をし、盛り上がりたい。

⑥総合評価

一年生や新二年生の動きはとても良く助けられた場面もあった。また、児童に怪我なく安全に企画が終えたので良かったと思っている。しかし、反省点は沢山出た。一番大きな問題は時間だと思っている。次回までにこういった反省点を改善し、より良い企画にしたい。

教員からの意見・評価

3年生

ゴムの伸びの比較、ゴムを使った工作、説明レベルと手ぶり良く運行し、楽しく学べる企画だったと思います。前半の説明が少し多かった印象があります。隣同士で作業したり、競争する活動があるともっと良い企画になると思います。次回に期待いたします。

（作業：米岡）

（サイン　　）

B. 鳥居松小学校 7 月 15 日

1）取材報告（報告者：泊　拓人）

1．参加者

小学 4～6 年生 19 名、大学 1・2 年生 9 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 7 名、

2．活動報告

2－1．活動の様子

児童は全体的に学生と積極的に話そうとしているように見え、学生も児童と笑顔で会話できていた。また、会話の中にも企画中の注意事項やアレルギーの確認をしていて、児童全体への注意喚起ができているように感じた。また、企画中は児童がしっかりと集中できる環境になっていたと思う。

2－2．企画の内容

今回の企画では「グルーガン」を扱うこともあり、非常に企画中での注意喚起がよくなされていたと感じた。ただ、グルーガンの準備中には箱で覆うなど、誤って触れてしまわないような工夫がなされていなかったので課題。授業者の声が後ろの班まで届いて居らず、実験内容を近くの学生に尋ねていた児童が見受けられたので、授業者は声を張るようにしてほしい。また、授業者が班についている学生に甘えているところが多々あり、説明が雑になっていることがあったので、「自分が説明する」という責任感をしっかりともっていると良かった。学生側での準備を十分に行えていることが最低限必要。

難しい説明や作業が多くあった企画ではあったが、しっかりと対応できているところもあって、経験を積んできているのがはっきりと分かって良かった。

2）児童感想文

学年	感想
4	ゴムをつかった車をつくるのはむずかしかったどけど「だんせい」という言葉をしれてよかったです
4	ゴムのことがしれてたのしかった。
4	やけどがいたかったけど楽しかった！
4	ゴムが木からできているのがずこくおどろいて、カーはとても速くはしっていました。とてもたのしかったです☆
4	楽しかったし、工作がむずかしかった。またやりたい。ゴムのふしぎがしれて勉強になった。
4	はじめて土曜チャレンジアップきょう室にきたけどいろいろな先生におしえてもらいながらゴムの車をつくってみんなともゴムの車をつくってみて楽しかったです。
5	わからないところがあったら、白衣の先生が教えてくれたから完成で来た。初めてグルーガンをつかったけど上手にできた。楽しかった。
5	きょうはゴムのことをよくしれてたのしかったです。てんねんごむはすぐはなされてしなうのははじめてしりました。前のじっけんのほうがじゃっかんたのしかったです。またぜひやってくださいまたきます。
5	楽しかったです
5	楽しかった。
5	わたしは、初めて土曜チャレンジアップにいってとても楽しかったです。グルーガンでじょうずにできなかったときやさしくてつだってくれました。来年もこれたらきたいです。ありがとうございました。
5	グルーガンが初めて使えて楽しかったしおもしろかったです。ゴムの原料も初めて知りました。知れてよかったです。楽しかったです。
5	きょうは、くるまをつくるじっけんはたのしかったです。今日は本とうにありがとうございました。
5	グルーガンはテレビで見るよりむずかしかったですさくさんはにおいがきつすぎたので鼻のびんかんな人へのちゅういもしてほしいです。
6	ぼくは土曜チャレンジアップをしてゴムはどのようにできているのかとかいろいろな性質の言葉をしることができました。とっても勉強になりました。楽しかったです。
6	チャレンジアップ教室で車を走らせる実験をしましたが、チャレンジアップ教室のみなさんのおかげで速く走る車をつくれました。ゴムの木があるなんてすごいと思いました。ゴムの木からゴムができると分かりました。今日作った車で家に帰ったら走らせたいです。

6	しんけんにできてよかったです。
6	ゴムがどのようにできるのかが分かった。
6	ゴムは初めどういう所からできているのかなど、初めて知ったことがたくさんありました。ゴムを使ったらいろんな物がつくけるし、他にどんなものがゴムで作られているのかが知りたいですこの前も今日も楽しかったです。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

クイズ形式あり、演劇ありでわかりやすく説明ができていたと思う
少し難しい単語があったかなとは思う（混練・成形など）
車作りはとても楽しそうだった!! 最後にみんなで競争できたり
最後盛り上がったかなと思う！とても楽しく過ごせたと思います。
（サイン 豊沢）

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
準備過程においては4週間と あったのにもかかわらず自分の何の 計画性もないまま進めていったので 最終リハーサルで大きな変更をすることに なってしまった。自分の見通しの甘さの結 果、直前まで企画を変えるということになり	企画の流れは6月企画のものでも ほぼ改善点でもある前半部分に関わ ることはあまりなかったと思う。 4週間のやりとりで企画を練りなおす 時間をつくり、つねにかかわり 変えるのではなくまとまった文章にする

③学生の活動	④テーマに対する指導の工夫
自分が直前まで説明の際の 変更などをしていた為、どうしてもはじめ ての授業であり日本語で説明 できる分かもっと説明していいかわから ないという状況を作ってしまった。自分の準 備不足で迷惑をかけてしまった。	社会科の要素である輪ゴムが出来 るまでのところでは写真の差し替えなど したが内容が難しかったかなと思った。理科 の要素として天然ゴムでつくる実験も 行ったが前後のにおいた対応 対策をもっと練る必要があった。

⑤目標達成度	⑥総合評価
企画リーダーとして自分の準備不足により子 どもたちを混乱させてしまったので目標達成が できたとはまったく達成できていないと思う。 製作したクルマのデコレーションができたり、 実験の内容をもっとわかりやすく理解 させられなかったり全体的に上手くできなかった。	総合評価として今までのアカデミー の企画の中で一番出来の悪い企画 であったと文章にする。自分の準備不足 見通しの甘さのせいで学生たちだけで なく子ども達にも多大な迷惑をかけ てしまった。本当に申し訳なく思う。

教員からの意見・評価

学生達の意欲・態度はすばらしいレベルで何も言うことはありませんなど。
あとで講座の内容や流れで気になったところを書きます。
① 子どもの席、ふり向かないと前を見られない子が半分いますので手のかかる子は前回の席に、説明のときは、作業と前を向かせてからと気を配るとよい。
② 弾性の発表より図工に長い時間がかかった。遅れ子を気に時間配分をつかめさせて。グループをことを考えている点をつかってもよかった。（サイン ）
③ あまない意見は右手にくんでうまく手で操作しているかカウントが必要。
④ 1日はよかったが、両サイドの人が力を出していたので つなぎ役がひっぱった方が楽かあっているのではと思った。

（６）インドアプレーン作り

A. 松山小学校 6 月 10 日

1）取材報告（報告者：堀田千夏）

1．参加者

小学 4～6 年生１３名、大学１・２年生１０名

大学教員１名、小学校関係者１名、教育委員会１名、運営指導者１名、その他（テレビ関係者１名）

2．活動報告

2－1．活動の様子

少人数なのもあってか、時間がおすこともなくスムーズに進行できていた。子供たちも和やかな様子で、楽しそうだった。友達同士や兄弟で来ていた子は同じ班だったので、緊張や気まずさは感じられなかった。一人を希望した子も、同じ学生がずっとついていたので、緊張も少なく活動しやすかったように感じた。

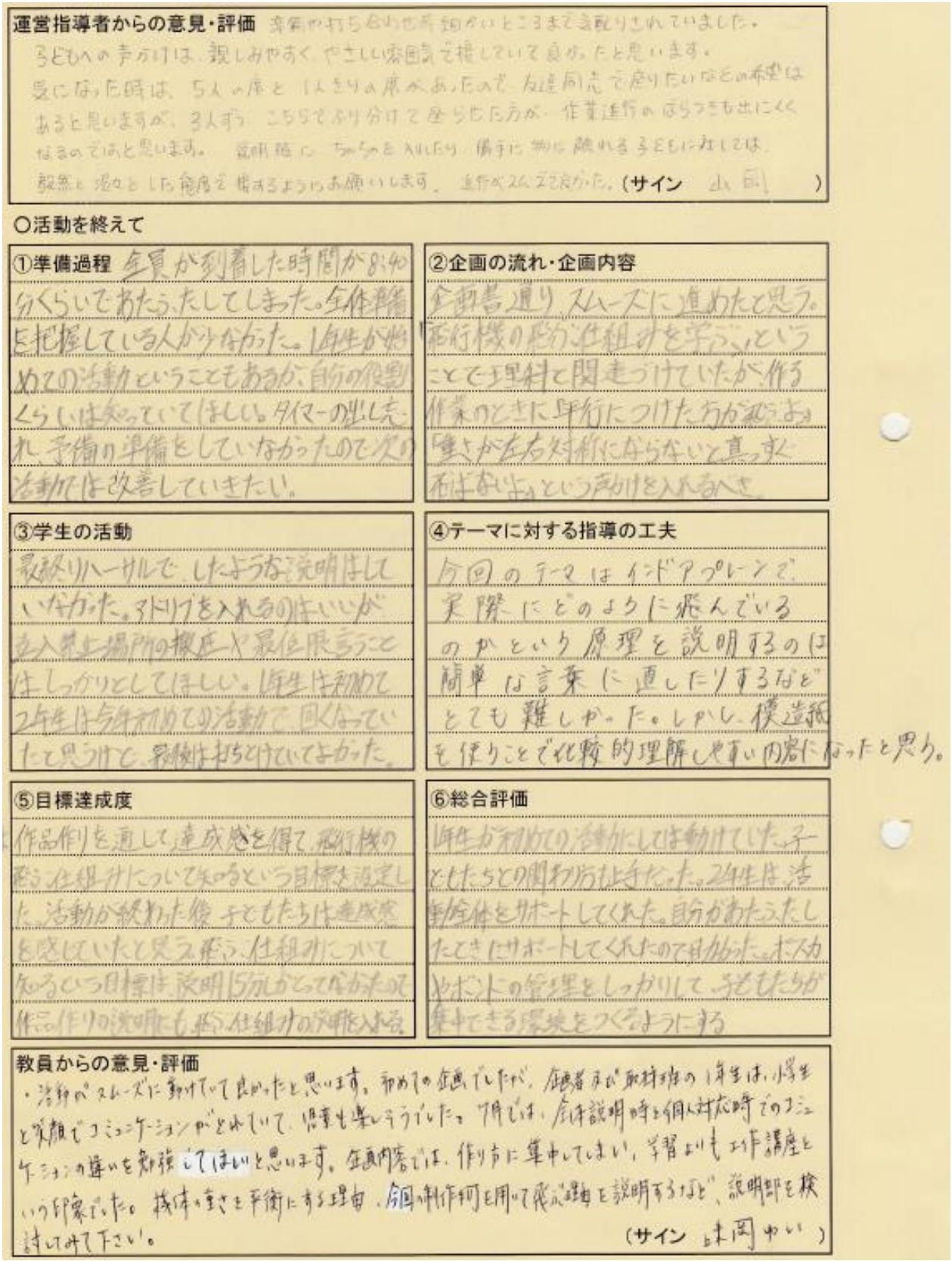
2－2．企画の内容

制作手順を小分けに説明し、その都度実際に見せる、工程の終了したものを見せることで、子供たちの理解がスムーズだった。休憩中に、控室である準備室に入っていた子がいたが、入らせないように注意する必要があると思う。勝手に次の工程に進もうとするのを止めていた。早めに終わった子は歩き回る傾向があり、他の班の所に行く子もいた。ハサミを使用する際、直前に配布し、使い終わった子からすぐに回収していた。班の人数にばらつきがあったが、班員とそこにつく学生の人数が比例しなかった。

2）児童感想文

学年	感想
4	今日は、とても楽しい体験ができてとてもうれしかったです。次もやりたいです。むずかしかったことはぼうをななめにさすところです。さいごの色ぬりがとてもたのしかったです。
4	木にシートをつけるところが楽しかったです。
4	今日はひこうきをつくりました。つくるのはむずかしかったです。かんせいしてよかったです。
4	ぼくは、このたいけんをしてとても楽しいきもちになりました。またこのようなたいけんができたらいきたいです☆
4	はじめてつくってたのしかったです。
4	今日の土曜チャレンジのインドアップレーンでひこうきみたいなのをつくって、たのしかったことは、かみをあることです。けっこうしっぱいかないので、たのしかったです。
5	木や画用紙や紙やテープでこんなものを作れるなんてすごいと思った。先生はすごくおもしろくてしゃべりやすかったです。
5	ちょっとむずかしかったです。とても楽しかったです。色ぬりをもう少しやりたかったです。
5	木と木をはりつけるのがとてもむずかしかったです。けど先生たちに教えてもらって完成できました。
5	今日のチャレンジアップは、すこしむずかしかったけど、とても楽しかったです。次のチャレンジアップも、これたらいいと思います。
5	色ぬりするのが楽しかったです。木の色は、みず色で空をとぶから、みず色にしました。ひこうきのしくみのおもしろかったです。
5	4 年生のときにたくさんいっていて、5 年生になって初の土チャでした。インドアプレーンを作ってみてたのしかったです。また土チヤでいろいろ作りたいです。
6	今日はとてもたのしかったです。また来ます。「キミの努力は必ず報われます”」
6	6 年生初めてのど用チャレンジ。これで松山チャレンジでうまくいきそう

3）活動のまとめ



運営指導者からの意見・評価

子どもへの声かけは、親しみやすく、やさしい雰囲気で接していて良かったと思います。
受になった時は、5人の席と1人ずつの席があったので友達同士で座りたいなどの希望はあると思いますが、3人ずつこちらでふり分けて座らせた方が、作業進行のばらつきも出にくくなるのではと思います。説明時に、ちらっとを入れたり、積手に物に触れさせるなどもみんなの関心と注力とした態度を得るようお願いします。進行がスムーズだった。（サイン　山田　）

○活動を終えて

①準備過程

全員が到着した時間が8:40分くらいであたふたしてしまった。全体準備を把握している人が少なかった。1年生が初めての活動ということもあるが、自分の役割くらいは知っていてほしい。タイマーの出し忘れ、予備の準備をしていなかったので次の活動では改善していきたい。

②企画の流れ・企画内容

企画書通りスムーズに進めたと思う。飛行機の飛ぶ仕組みを学ぶ、ということで理科と関連づけていたが作業のときに年行につけた方がよい。「重さが左右対称にならないと真っ直ぐ飛ばない」という声かけを入れるべき。

③学生の活動

最終リハーサルでしたような説明はしていなかった。マトリクを入れるのはいいが、各人数と場所の役割×最低限うることはしっかりとしてほしい。1年生初めて2年生は今年初めての活動で同じなっていたと思うけど、予備は持ちとけていてよかった。

④テーマに対する指導の工夫

今回のテーマはインドアプレーンで実際にどのように飛んでいるのかという原理を説明するのは簡単な言葉に直したりするなどとても難しかった。しかし、模造紙を使うことで比較的理解しやすい内容になったと思う。

⑤目標達成度

作品作りを通して達成感を得て、飛行機の飛ぶ仕組みについて知るという目標を設定した。活動が終わった後子どもたちは達成感を感じていたと見え、仕組みについて知るという目標は説明に欠けてなかったが作品の作りの説明にも飛ぶ仕組みの説明入れる。

⑥総合評価

1年生が初めての活動にしては動けていた。子どもたちとの関わり方は上手だった。2年生は活動全体をサポートしてくれた。自分があたふたしたときにサポートしてくれたので助かった。ボランティアの管理をしっかりして、子どもたちが集中できる環境をつくるようにする。

教員からの意見・評価

・活動がスムーズに動けていて良かったと思います。初めての企画でしたが、企画書が教材研の1年生は、小学生と笑顔でコミュニケーションがとれていて、保護も楽しそうでした。今後は、作成説明時と個人対応時でのコミュニケーションの違いを勉強してほしいと思います。企画内容では、作り方に集中してしまい、学習よりも工作講座という印象でした。機体の重さを平衡にする理由、飛行機の仕組みを用いて飛ぶ理由を説明するなど、説明部を検討してみて下さい。

（サイン　上岡やい　）

B. 八幡小学校 7 月 1 日

1）取材報告（報告者：片岡、若林）

1．参加者

小学３～6 年生 20 名、大学１・2 年生６名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名、観覧保護者４名、

2．活動報告

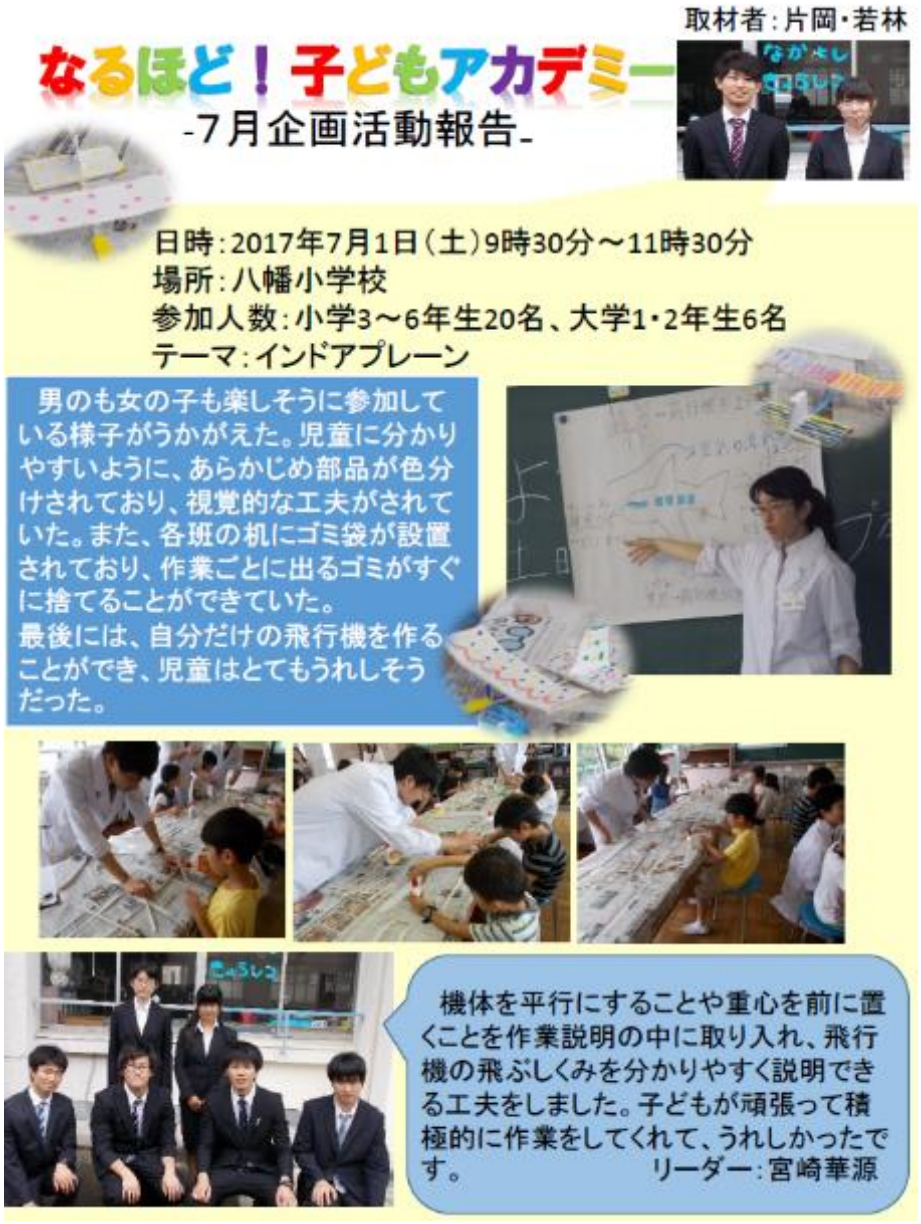
2－1．活動の様子

チラシが手違いで他の小学校への企画内容となっていたが、上手く対応することができていた。始め子どもたちは企画が変わったことに戸惑っていたがすぐにインドアプレーンを作ることに夢中になっていた。帰り際も楽しそうにインドアプレーンを持って帰って行く様子がうかがえた。

2－2．企画の内容

あらかじめ部品が色分けされており視覚的にされていたりなど作業が行いやすいように工夫されていた。各班の机にゴミ袋が設置されており作業するごとに出るゴミがすぐに捨てることができた。

バットを持って行くのを忘れていたため材料や道具が机の上に散乱している状態が起きていた。前日の時点で荷物リストを見ながら準備をする必要があると感じた。

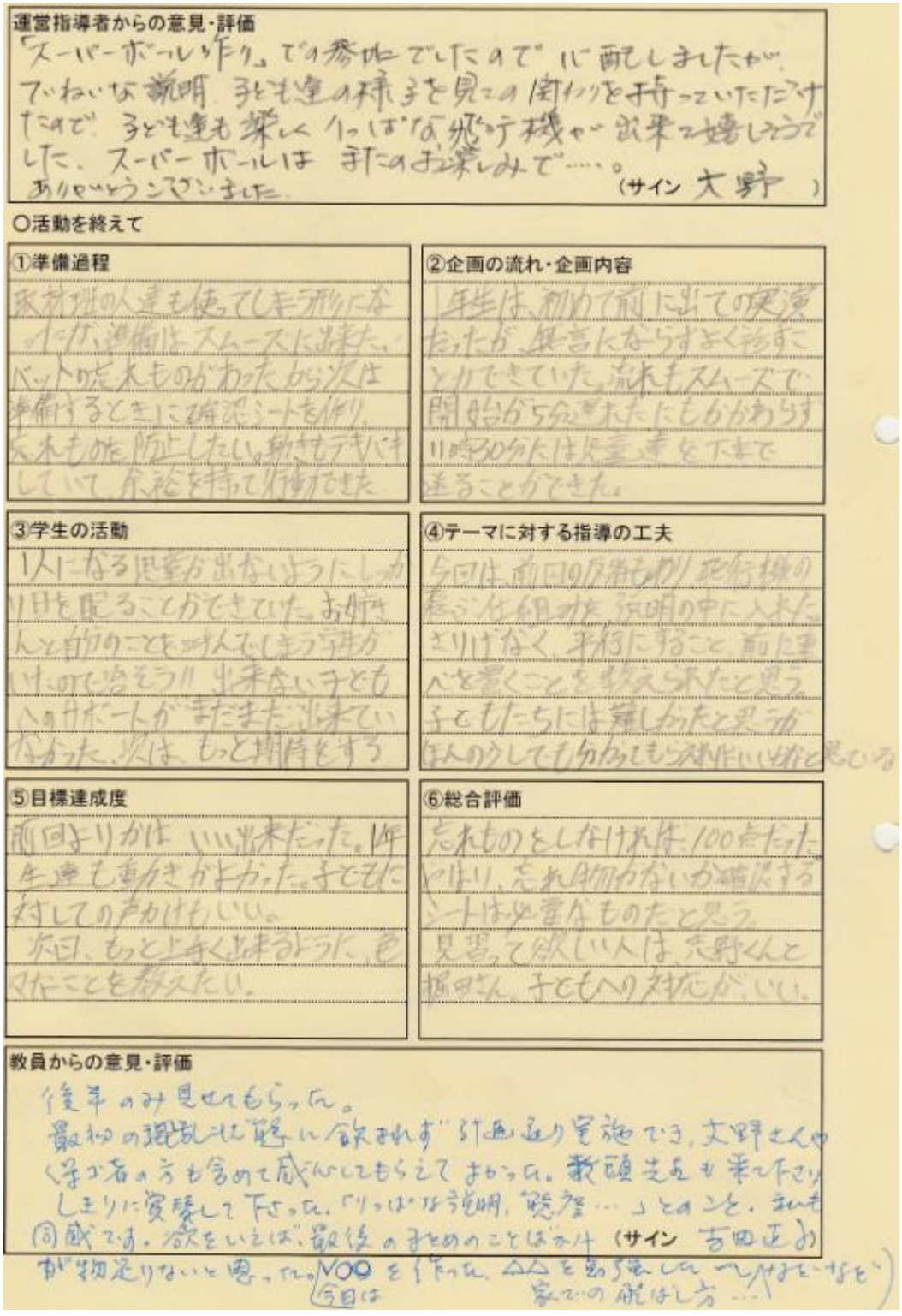


2）児童感想文

学年	感想
3	作るまでは、たいへんだったけどぶじにできてよかったです。ひこうきのしくみのしれたからよかったです。
3	むずかしい所もあったけど楽しかったです。ボンドがかわいた後、おうちでとばすのが楽しみです。ひこうきのしくみが知れたのでよかったです。
3	前にあるおもりとおもりの前にある大きなものをつくるのがたいへんでした。どんなふうにとばすのかがたのしみです。
3	ぼうをさすのがむずかしかったです。色つけとかとばすのが楽しみです。色つけが楽しかったです。ボンドで木をつけるのも楽しかったです。
3	作るのがむずかしかったけど、家でとばすの楽しみです。
3	とぶのを見てあんなにとぶからはやく家でとばしていたい。もういっかいひこうきを作りたい。
3	家でとばすのが楽しみです。また次の土曜チャレンジアップ教室も楽しみにしています。
3	家でとばしたい。
3	これからもよろしくおねがいします
3	ひこうきがとべるひみつを知れてよかったです。家でとばすのが楽しみです。次のチャレンジアアップ教室もあたってほしいです。
3	いえでとばしてみたいしつくるのがとっても楽しかった。またいろいろなことやりたいと思いました。
3	家でとばすのがたのしみだしたのしそうだからはやくとばしたいです。じぶんでつくったのもとばすのは、はじめてなのですごくわくわくしています。いえにかえったら、すぐにとばしたいです。
3	ひこうきをとばすのが楽しみです。また楽ものをお願いします。
3	ふつうのひこうきと同じだと思ってたけど、同じ早さじゃなかったからびっくりした。ままがいいよといったからかってみたい。
4	とっても楽しかったです。ひこうきがこんなにも、すごいひこうきがつくれるなんてすごかったです。じかいも作れるとうれしいです。
5	ひこうきをつくるで楽しかったです。いい思い出になりました。１０月もいってみたいです。
5	始めの一番大きいやつは手まどったけど、おもりを作ったり色をつけたりするのは楽しかったです。グライダーシートをはるのはうまくできたと思いました。ボンドが手やうでについたので、少しいやでした。いつかやるスーパーボールもきたいと思います。
5	今、みんなでひこうきがつくれてとてもうれしかったです。ボンドがかわいたら、さっ

	そくとばして遊びたいです。はじめて土曜チャレンジアップをやったから、とてもたのしかったです。
5	家でもつくってみたいです。夏休みにしんせきがくるから見せたいです。チャレンジアップにまたいきたいです。

3）活動のまとめ



運営指導者からの意見・評価

「スーパーボール作り」での参加でしたので心配しましたが、ていねいな説明、子ども達の様子を見ての声かけをしていただけたので、子ども達も楽しく、りっぱな飛行機が出来て嬉しそうでした。スーパーボールはまたのお楽しみで…。

ありがとうございました。

（サイン 大野）

○活動を終えて

①準備過程

家族の人達も使ってしまうほどになったが、準備はスムーズに出来た。バットなど大きなものがあったから次は準備するときに確認シートを作り、忘れものを防止したい。動きもテキパキしていて、介助を特にしなくてよかった。

②企画の流れ・企画内容

1年生は、初めて前に出ての発表だったが、緊張にならずすらすらと出来ていた。流れもスムーズで開始から5分遅れたにもかかわらず11時20分には全ての工程を終えることができた。

③学生の活動

1人になる児童が出ないようにしかり目を配ることができていた。お姉さんと前のことを考えてしまう時があったので、もう少し、出来ない子どもへのサポートがあればよかった。次はもっと期待をする。

④テーマに対する指導の工夫

今回は前回の反省もあり、飛行機の色ぬりや説明の中に入れたりせず、平行にすること、前に進べる工夫を考えることを教えられたと思う。子どもたちには難しかったと思うが、ほんの少しでも勉強にもなったと思う。

⑤目標達成度

前回よりかは、いい出来だった。1年生も集中力が上がった。子どもに対しての声かけもいい。

次回、もっと上手くなるように、色々なことを教えたい。

⑥総合評価

忘れものをしなければ100点だった。やはり、忘れ物がないか確認するシートは必要なものだと思う。

見習って欲しい人は、志野くんと福田さん。子どもへの対応がいい。

教員からの意見・評価

後半のみ見せてもらった。

最初の現況は聞き取れず、計画通り実施でき、大野さんや学生の方も含めて感心してもらえてよかった。教頭先生も来てくださりしまりに突撃して下さった。「りっぱな説明、態度…」とのこと、まさに同感です。欲をいえば、最後のまとめのことばが（サイン 吉田正）

が物足りないと思った。NOOを作った。今日は 公公を多く出したい 家での服はし方…

（７）砂時計を作ろう！

A. 東野小学校 6 月 17 日

1）取材報告（報告者：中島　千尋）

1．参加者

小学 4～6 年生１８名、大学１・２年生８名

大学教員１名、小学校関係者２名、運営指導者１名、観覧保護者２名、その他（子ども１名）

2．活動報告

2－1．活動の様子

子どもが笑顔で砂時計の制作を楽しんでいた。グルーガンを使う際に、子どもと大学生との距離がいっきに近づいていき、子どもとのコミュニケーションを上手くとれていたので自分が行う際に参考にしていきたい。また、装飾できた作品を大学生に見せている姿は嬉しそうで見ている私も嬉しくなった。

2－2．企画の内容

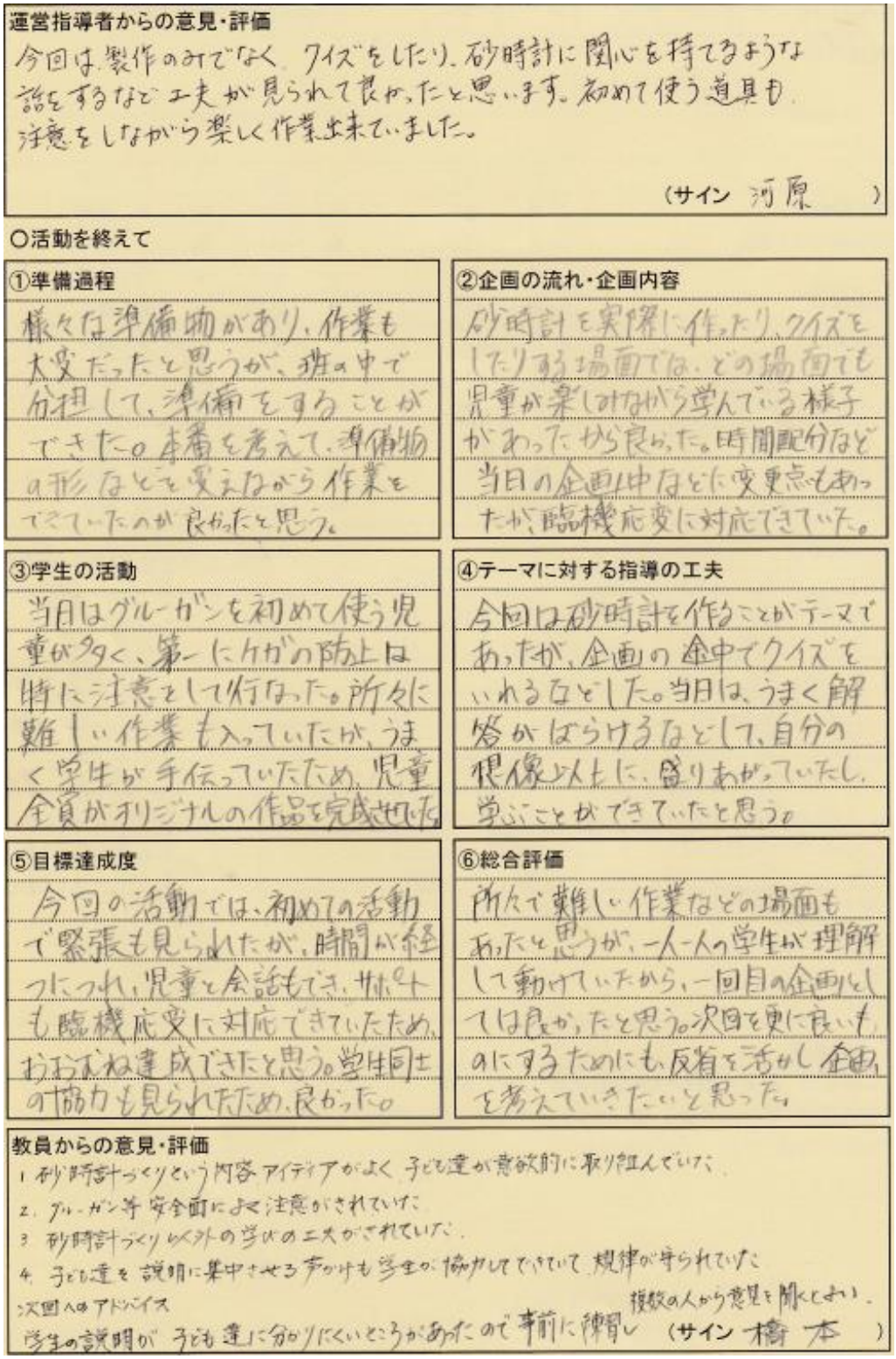
グルーガンの使い方を実演した後、グルーガンを子どもが使う際に大学生がしっかりついていた。また、砂時計に個性をだすため装飾に工夫していた。例えば、砂時計を支える棒にポスカで色をつけたり、砂の色の種類が多く使ったりしていた。全体的に聞き取りやすい声だったうえ、指示が明確だった。改善した方がいい点は、机にしく新聞の数がぎりぎりに感じたので余裕をもって準備しておくことだと感じた。

2）児童感想文

学年	感想
4	とても楽しかった。グルーガンは初めてだったけど思ったより上手にできて、また作ってみたい。
4	すなを入れるのがむずかしい。青が出すぎて、こまったけど、クジラみたいになったからよかった。色ぬりが楽しかった。グルーガンで、水玉を作った　ちがう色でぬったことがくふう。
4	作業では、グルーガンが一番むずかしくて、一番楽しかったのは色をつける所でした。楽しかったです！！
4	いっしょうけんめいさくひんのせつめいをして二人ともとてもじょうずでした。
4	すごくおもしろくて、楽しかったです。はじめてつくったすなどけいも、出きばえがいいです。これからも大切にします！
4	先生におしえてもらったこと！！たのしかったこと！！上手にできたこと！！グルーガンがうまくいったこと！！
4	砂時計作りは楽しかったです。1番楽しかったことは、1分かんはかってペットボトルをたおす所がおもしろかったです。むずかしい所はたすけてくださいありがとうございました。
4	楽しくてこんどは3分のやつがつくりたいです
4	すなドケイがこんなみじかなもの物でつくれるなんて、思っていませんでした。また作りたいです。
5	カラフルな砂時計ができ、4年生の子と6年生の子とで、仲よくできて、楽しかったです！！
5	すな時計は、作り方がたいへんだけど、とてもおもしろく、また作りたいと思いました。お兄さんといっしょにやってたのしくできたので、もう1こつくりたいと思いました。今日は、すごくたのしかったです。
5	すな時計を作り方などが知れたり、家でも作れそうだなと思いました。楽しかったです。
5	楽しく、すな時計が作れました。自分でも作ってみたいです！
5	友達のはしらに、いろいろないろがあってきれいだなぁーと思いました。
6	グルーガンを使うのが難しかったです。
6	いろんなことにチャレンジできたのでよかったです。とても楽しい時間をありがとうございました。白衣のお姉さんやお兄さんとも仲よくできたのでとてもうれしかったです。とてもはでな砂時計ができてよかった。
6	いろんな事をたいけんできてとてもよかったです！とてもいいけいけんができました　とてもたのしかったです♪

6	色々な事にちょうせんできて、たのしかったです。グルーガンなど、つかったことのない物が体験できて、うれしかったです。自分だけの砂時計ができて、とてもうれしかったです。

3）活動のまとめ



運営指導者からの意見・評価

今回は、製作のみでなく、クイズをしたり、砂時計に関心を持てるような話をするなど工夫が見られて良かったと思います。初めて使う道具も注意をしながら楽しく作業出来ていました。

（サイン 河原 ）

○活動を終えて

①準備過程

様々な準備物があり、作業も大変だったと思うが、班の中で分担して、準備をすることができた。本番を考えて、準備物の形などを変えながら作業をできていたのが良かったと思う。

②企画の流れ・企画内容

砂時計を実際に作ったり、クイズをしたりする場面でな、どの場面でも児童が楽しみながら学んでいる様子があったから良かった。時間配分など当日の企画中などに変更点もあったが、臨機応変に対応できていた。

③学生の活動

当日はグルーガンを初めて使う児童が多く、第一にケガの防止は特に注意をして行なった。所々に難しい作業も入っていたが、うまく学生が手伝っていたため、児童全員がオリジナルの作品を完成出来た

④テーマに対する指導の工夫

今回は砂時計を作ることがテーマであったが、企画の途中でクイズをいれるなどした。当日は、うまく解答がばらけるなどして、自分の想像以上に、盛りあがっていたし、学ぶことができていたと思う。

⑤目標達成度

今回の活動では、初めての活動で緊張も見られたが、時間が経つにつれ、児童と会話もでき、サポートも臨機応変に対応できていたため、おおむね達成できたと思う。学生同士の協力も見られたため、良かった。

⑥総合評価

所々で難しい作業などの場面もあったと思うが、一人一人の学生が理解して動けていたから、一回目の企画としては良かったと思う。次回を更に良いものにするためにも反省を活かし企画を考えていきたいと思った。

教員からの意見・評価

1 砂時計づくりという内容アイディアがよく子ども達が意欲的に取り組んでいた

2 グルーガン等安全面によく注意がされていた

3 砂時計づくり以外の学びの工夫がされていた

4 子ども達を説明に集中させる声かけも学生の協力もあって規律が守られていた

次回へのアドバイス

学生の説明が子ども達に分かりにくいところがあったので事前に練習し複数の人から意見を聞くとよい。（サイン 橋本 ）

B. 勝川小学校 7 月 8 日

1）**取材**報告（報告者：山田、村上）

１．参加者

小学４～６年生３３名、大学 1･２年生９名

大学教員１名、小学校関係者：２名、観覧保護者２名

２．活動報告

２－１．活動の様子

児童達はみんな楽しそうに砂時計を作っていた。つくった砂時計に色をつけたり、絵をかいたりしてオリジナルの砂時計を作ることができた。学生は各班で指導しているときは丁寧な説明で指導していた。砂時計ができたときの児童達の笑顔とそれを見たときの学生の笑顔がとても素敵だった。

２－２．企画の内容

児童が理解しやすいように学生は前に児童を集めて作業の説明をしていた。学生全員が児童と積極的に関われており、いい砂時計が作れるようにサポートしていた。ただ班に学生がついていないときがあり、グルーガンを使っているとき児童がやけどをしないか心配になるときがあった。また、もう少し声がはれると良かったと思う。

2）児童感想文

学年	感想
4	すなどけいに名前をかくやつはおれさまだけだ。名前をかいたからもう大じょうぶ。
4	すなどけいをはじめてつくったのでとても楽しかったです。家でもつかいたいです。
4	とてもかんたんで、楽しかったです。
4	楽しかった
4	初めて作ったので楽しかったです。また作りたいです。
4	今日、すな時計を作ったのは、はじめてだったので、いい思い出になりました。すな時計のこともいろいろ分かったので、来てよかったです。
4	すな時計がたのしかったです。またきます。じかんがあっておもしろい。
4	おもしろくて、たのしかったので、また作ってみたいです。
4	みんな、いろいろな色の砂でカラフルでよかった。
4	色をぬるだけかんたんだった。
4	楽しかった　すなの色がいっぱいあった
4	楽しかった。
4	思ったよりむずかしかった。すごくたのしかったです。次も、いきたいです。
4	すな（こな）の色が、いっぱいあってよかった。せんせいたちも、新せつでやさしくてよかった！
4	かんたんで、わかりやすかった。
4	すなの色がきれいなピンク色でした。
5	楽しかった。
5	すな時計のしくみや作りがわかっておもしろかった。
5	すなの色をえらべて、楽しかった。ぬるのも楽しい。
5	とても楽しかったです。いい体験ができたと思います。またいけたらやりたいです。ありがとうございました。
5	楽しかった。Ww
5	楽しかった。
5	いつも土曜チャレンジをやっているけど、こんなたのしいのは、はじめてでした。
5	欠席
5	色ぬりはすこししかできなかったけど、とてもたのしかった（４回目です）
5	すな時計をつくるのは、たのしかったです。またすな時計の土曜チャレンジアップをやってほしいです。

5	思ったより作るのがかんたんだったから、家でもやりたいです！
5	めんどくさかった。楽しかった。
6	砂の色（青と黄）を組み合わせたけど、青の方が強くなってしまったので、ざんねんだった。
6	きょうはクイズや砂時計のつくりかたを教えてくれてありがとうございました。
6	時間はあっというまだが時間とむきあうことのできるもとをつくることができてとてもよかったです。
6	砂時計を作って、すごくおもしろかったし、すこしむずかしいこともあったけどたのしかったです。
6	砂時計づくり、楽しかったです。砂を入れる時、グルーガンでつけるときがむずかしかったです。
6	とても楽しかった。この砂時計は、家でもつかおうと思います。ありがとうございました。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

先生が前に出て話し始めても、となりの子としゃべったり、ほか事をしていたりして、ザワザワしている時があったので、そういう時は、静かになって全員が前を向くまでは話さない方がいいと思いました。「貴重な体験をさせてもらってい」と親御さんたちも喜んでいらっしゃいました。

（サイン　川端　）

○活動を終えて

①準備過程

時間が少なかったのもあるが、企画で~~件~~使うものの準備が充分でなく、本番にごたごたしてしまった。

②企画の流れ・企画内容

企画の子どもうけはまあまあよかった。保護者の方もよろこんでいた。
しかし、スムーズに進んだとは言い難く、時間がギリギリだった。

③学生の活動

自分の仕事や企画の流れを理解している子とそうでない子の差が大きく、特に理解できていない学生の対応は…。という感じになっていた。

④テーマに対する指導の工夫

今回は少し細かい作業が多かったため、指導（過程の説明）をする時は児童を前に集めて演示した。その際、安全にも配慮した。

⑤目標達成度

目標を達成できている人はしっかり目標を意識してできていたと思うが、全体として時間が遅れていたため、しっかり達成できたとは言えない。

⑥総合評価

ケガもなく、子どもも喜んでいたので、その点はよかったが、やはり準備不足感がいなめなかった。

教員からの意見・評価

3学生　[illegible]は、とてもおもしろく、しっかり練られた内容だった。
活動中に、棒と点トボールの長さが合わず、調整作業を行かり、作業工程が分かっていない学生が見られた。事前準備とリハーサルは、自身で理解しながら、活動した方がいいと思う。
また、遅刻者がいたのが残念だった。

（代表・[illegible]）　（サイン　　）

（８）キッチンでできる実験！

A. 八幡小学校 6 月 17 日

1）取材報告（報告者：倉地真歩）

1．参加者

小学 3～6 年生９名、大学１・２年生８名

大学教員１名、小学校関係者１名、教育委員会１名、運営指導者１名

2．活動報告

2－1．活動の様子

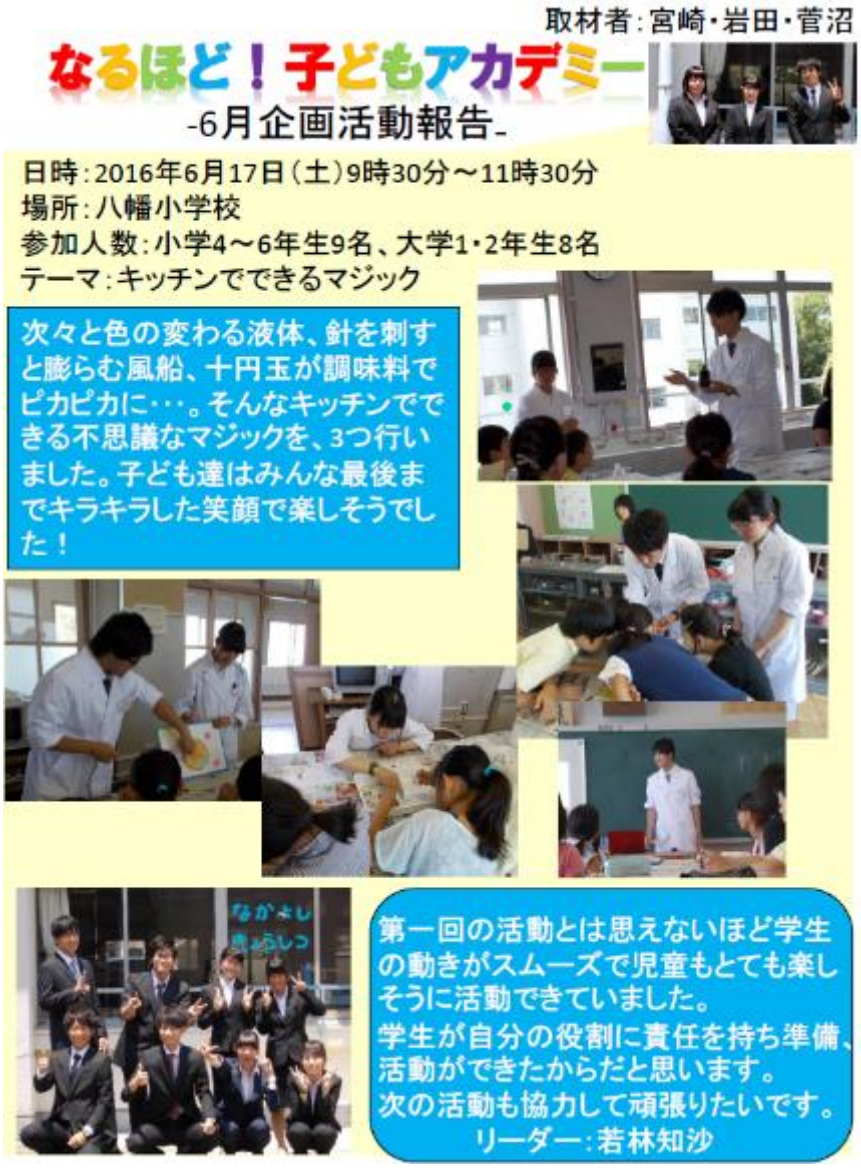
大学生が「静かにして。」とお願いすれば静かになるような真面目な児童が多かった。活動はスムーズに流れて、時間通りに児童を見送ることもでき１番最初の活動にしては成功と言える。「不思議な液体」と「風船」の活動は１年生２年生共に次に何をすれば良いのか分かっていて素早く行動できていた。「１０円玉」の活動は前日まで企画が定まらなかった影響もあり戸惑っている人がいた

2－2．企画の内容

今回の企画はブースにして多く学び、帰ってもらうという新しい発想だった。３ブース用意されていてそれぞれ「不思議な液体」「風船」「１０円玉」を使った台所にある物で出来る科学の実験をした。台所という児童にとって身近な所に目を付けたのはすごくいいと思った。

子ども達は身近な実験に興味津々で感想には「１０円玉」が楽しかったという感想が多く上がった。

次回からは大学生全員が企画の内容や当日の動きなどを把握しておく必要があるように感じる。



2）児童感想文

学年	感想
3	1つ目にやったふしぎなえきたいはいろんな色にかわっておもしろかったです。二つ目にやったまほうのふうせんは中でしゅわしゅわっていう音がなってびっくりしました。三つ目にやったぴかぴかになる10円玉は「しょうゆ」がいちばんきれいになりました。
3	ぼくは3番のじっけんがおもしろかったです。お金もらいたかったです。よそうは当たっていました。
3	10円玉のじっけんのおしえてくれたせんせいがおしえかたがとてもわかりやすかったです。まほうのふうせんを家でもやってみたくなったのでやってよかったなぁとおもいました。次のちゃれんじあっぷもやりたいとおもいました。
3	せいんせつめいが上手でじっけんがすごくたのしかったのでまたやってください。
3	ふしぎのえきたいのじっけんが楽しかったしおもしろかった。2番目に楽しかったのはぴかぴかになる十円だまです。いちばんきえたのはソースでした。
4	3番目にやったぴかぴかになる10円玉が一番楽しかったです。さんそを酒、しおがもっていくという話をきいてよくわかったからです。
4	みんなおもしろかったけど、さいしょのペットボトルにいれてつくるふしぎな液体がすごくおもしろかったです。
5	始めにやった実験で小麦粉と水を混ぜると白くなって、ビタミンCをまぜたらレモン色になって、ペットボトルをふったり入れたりするのがたのしかったです。2つ目も3つ目もおもしろかくてためになりました。プレゼントもいえでやりたいです。十円玉や百円玉がよごれていたら、私はソースでよごれを消したいと思いました。今日はありがとうございました。
5	3番目にやったぴかぴかな10円玉で色々な調味料を使って、10円玉をぴかぴかにする調味料の共通しているのは塩とすが入っているものだと知りました。家にある10円玉を使って、他の調味料でもやってみたいと思いました。

3）活動のまとめ

運営指導者からの意見・評価

子ども達への指導、興味、感心がむくように導入などが細やかでていねいだと思いました。子ども達の笑顔が多く見られ嬉しかったです

（サイン 大野 ）

○活動を終えて

①準備過程

企画内容が当初予定していたものと大幅にかわってしまったり、今まで誰もやったことがないであろうブース型だったりで大変だった。2年生にはりし忙しい仕事だったし、1年生にとってはりハもあまり出来ず不安の残ったまま当日を向かえることになってしまった。りハ不足、計画不足だった。

②企画の流れ・企画内容

3つの「台所や家庭にある材料でできる実験」を演示実験や児童と一緒に行う。今回はヨウ素デンプン反応を利用した色が変わっていく液体と重曹クエン酸水の反応を利用し勝手にふくらんでいく風船、様々な調味料で10円玉をぴかぴかにする実験を行った。

③学生の活動

準備の段階で班員を3つに分け準備等を行った。当日も3つの班ごとに動くようにした。だが準備段階から3つに分けた事により、情報共有がうまくできず当日の動きがバタバタしたものとなってしまった。だが全員臨機応変に動いてくれたおかげで全て時間通りに進めることができた。

④テーマに対する指導の工夫

今回、台所にある物を使用するということで子ども達にとって身近で真似のできる物を中心にした。音段見ているなにげない材料でおどろくような実験になるように導入に力を入れた。家庭にある物を使用するので安全面に注意して演示などを行うようにした。

⑤目標達成度

今回の目標の達成度は90%だと感じる。与えられた仕事を最後まで責任をもってこなしている様子がよく見られた。残りの10%がダメだった理由は、目標の内容が悪いからだ。全員でやるべき事さえも1人1人で行ってしまった。次は情報共有をしっかりとしたい。

⑥総合評価

今回の企画はお世辞にも良いといえるものではなかった。準備、りハ、予備実験全てにおいて準備不足であった。前日まで準備をしていたり当日忘れ物に気がついたりなど、万全の体勢で挑む事ができなかった。個々の評価はとても高いが全体で見ると評価は低い。

教員からの意見・評価

学生

・企画はおもしろい。7月は、細かいところをつめると、もっと良くなると思う。

不思議な液体 → 学生演示が未熟しないように。

魔法の風せん → 風せんを割った後に、膨らむ風せんを見せては？

ぴかぴかになる10円玉 → ゴミ処理の問題、耕ぼうの印は要検討。

（代筆 味岡）

（サイン ）

B. 松山小学校 7 月 8 日

1）**取材報告**（報告者：境田貴斗）

1．参加者

小学 4～6 年生１８名、大学１・２年生８名、大学教員１名、運営指導者１名

2．活動報告

2－1．活動の様子

児童たちは楽しそうに実験をしていた。十円玉を磨いて綺麗になったりならなかったりする所を積極的に観察していた。色の変化を観察する場面ではみんな楽しそうに行っていた。しおりを作る場面では真剣に溶液垂らして、オリジナルのしおりを作ることができた。しおりができた時の児童達の笑顔とそれを見たときの学生の笑顔がとてもすてきだった。

2－2．企画の内容

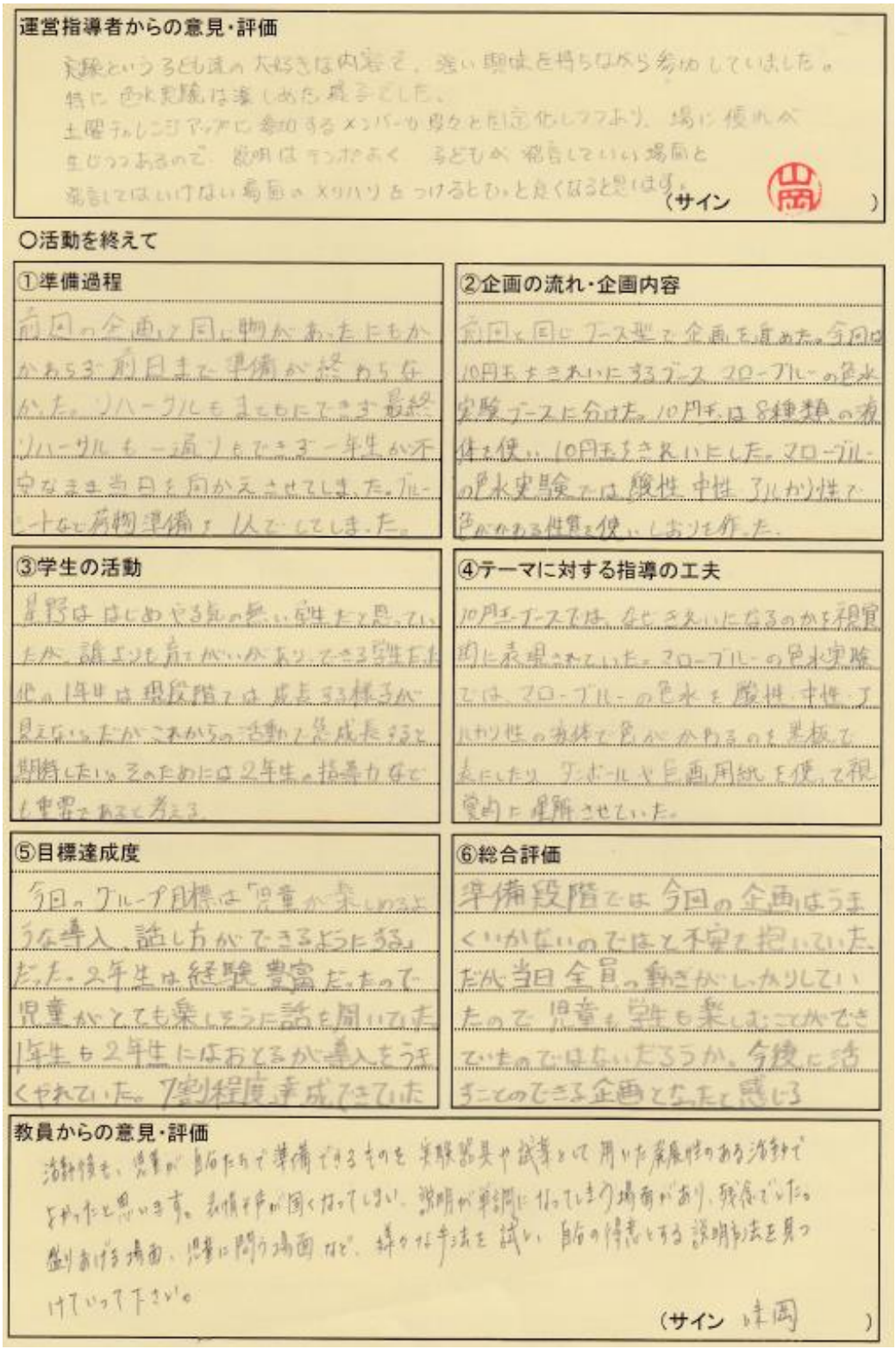
十円玉の化学反応の説明でボードと紙を多種多様な使い方をしていて大変分かりやすかった。色の変化を観察する実験では子供たちに実験・観察させる方式をとり、子供たちが行うことにより興味を引き付けることできた。体験型学習ができていた。そして、紙に色をつける実験では、自分のオリジナリティー溢れるしおりをつくり、楽しそうに行っていた。持ち帰れる“もの”を使うという発想は子供に興味をもたらす点でよかったと思う。

2）児童感想文

学年	感想
4	いろいろなじっけんができてとても楽しかったです。
4	楽しかったから、まだやりたいです。
4	今日で 2 回目のチャレンジアップ教室だったけれど十円玉を始めてピカピカにしたのでうれしかったです。またきたいです。
4	しおりがつくられたり、じっけんがたのしかった。みんなとたのしくできてうれしかった。
4	今日のチャレンジアップは最初の 10 円玉がきれいになる物ではじゅうそうはきれいになりそうなのにならなかったり、レモンじるはきれいになったり、おもしろいことがいっぱいあり、びっくりしました。またチャレンジアップにきて、いろいろなことをやりたいです！！
5	今日はとても楽しかったです。10 円玉をみがくのは、たいへんだったけど、ぴかぴかになるととても気持ちよかったです。今度もさんかしたいです。
5	家庭で使う物でかんたんな実験ができてとても楽しかったです。また行きたいです。しおりを作って、身近で使えるものをつくれてよかったです。ありがとうございました。またチャレンジします。
5	キッチンにあるものだけで 10 円玉をピカピカにしたことがびっくりしたけど、たのしかった。
5	今日はじめてクエン酸やじゅうそうが色が色が変わるのがはじめて知りました。
5	今日はキレイになった 10 円玉を見てびっくりしました。しおりも作れてうれしかったです。
5	しおりを作るのがとてもおもしろかった。それとレモンかじゅうとかとまぜる実験がおもしろかった。しおりは本に使うのにたくさんつかいたいと思います。青や赤やうすむらさきとか色が変わるのがおもしとかった。家で 10 円玉をみがきたいと思った。
5	今日のチャレンジアップで十円玉は、しおろすが入っているもでみがくと、きれいになるとわかりました。楽しかったです。
5	さん性で 10 円玉がきれいになったり、しおりをつくれたりするのは、すごいです。マロ―ブルーがきれいでした。じゅうそうが青になったのには、びっくりしました。
5	マロ―ブルーといろんなえきたいをまぜていろんな色にして、すごくおもしろかった。しおりもおもしろい色になった。いろいろ強たのしかった！
5	今日は初めて知ったことがいっぱいあって、とてもよかったです。10 円玉の実験は、マヨネーズとおすがキレイにできていました。しおり作りは少ししっぱいしたけど、いがいとキレイにできました。うれしかったです。もし予定があいていたらまた行きたいです。
5	楽しかった。

6	たのしかった。
6	めっちゃ楽しかった。次回も絶たい来る！

3）活動のまとめ



運営指導者からの意見・評価

実験というどの子の大好きな内容で、強い興味を持ちながら参加していました。
特に色水実験は楽しめた様子でした。
土曜子ども教室スタッフに参加するメンバーも固定化してきており、場に慣れが生じてきているので、説明はテンポよく、子どもが発言していい場面と発言してはいけない場面のメリハリをつけるともっと良くなると思います。

（サイン 岡 ）

○活動を終えて

①準備過程

前回の企画と同じ物があったにもかかわらず前日まで準備が終わらなかった。ソーダブルもまともにできず最終ソーダブルも一通りもできず一年生が不安なまま当日を向かえさせてしまった。ルーティンな物品準備を以てしてしまった。

②企画の流れ・企画内容

前回と同じブース型で企画を進めた。今回は10円玉きれいにするブースでフローブルーの色水実験ブースと分けた。10円玉は8種類の液体を使い10円玉をきれいにした。フローブルーの色水実験では酸性・中性・アルカリ性で色がかわる性質を使いしおりを作った。

③学生の活動

星野はほとんやる気の無い学生だと思っていたが話しかけに行くと答えてくれる学生だった。1年生は現段階では成長する様子が見えないためこれからの活動で成長すると期待したい。そのためには2年生の指導力も重要であると考える。

④テーマに対する指導の工夫

10円ブースでは、なぜきれいになるのかを視覚的に表現されていた。フローブルーの色水実験では、フローブルーの色水を酸性・中性・アルカリ性の液体で色がかわるのを実感できたり、ヨウ素ヨウ化カリウム溶液や白画用紙を使って視覚的に理解させていた。

⑤目標達成度

今回のグループ目標は「児童が楽しめるような導入、話し方ができるどうか」だった。2年生は経験豊富だったので児童がとても楽しそうに話を聞いていた。1年生も2年生になおとるが導入をうまくやれていた。7割程度達成できていた

⑥総合評価

準備段階では今回の企画はうまくいかないのではと不安を抱いていたが当日全員の動きがしっかりしていたので児童も学生も楽しむことができていたのではないだろうか。今後に活かすことのできる企画となったと感じる

教員からの意見・評価

活動後も、授業が自分たちで準備できるものを実験器具や試薬として用いた発展性のある活動でよかったと思います。表情や声が固くなっていない、説明が単調に陥ってしまう場面があり、残念でした。盛り上げる場面、悩ませる場面など、様々な手法を試し、自分の得意とする説明手法を見つけていって下さい。

（サイン 岡 ）

（９）不思議な板で光の世界を見よう！

A. 春日井小学校 10 月 7 日

1）取材報告（報告者：後藤・梶川・山口）

1．参加者

小学 4～6 年生１３名、大学１・２年生７名

大学教員１名、教育委員会１名、運営指導者１名、観覧保護者５名、

2．活動報告

2－1．活動の様子

・児童たちが主体的に活動に参加し、最初から最後まで楽しく活動していた。

・身振り手振りを使い、生徒にわかりやすく説明をしていたので、生徒が理解していた。

・こまめに時間を気にし、その場に応じた時間配分を適切に行っていた。

2－2．企画の内容

・前日までに必要なものと不必要なものをしっかり分けておくと、開始前の準備をスムーズに行える。

・ごみが思っていたよりも多く出ていて、こまめに回収に行っていたので、ゴミ袋を各班に設置していた方がいいと思う。

・クイズの際、机間巡視をし、児童の発言に耳を傾けていた。

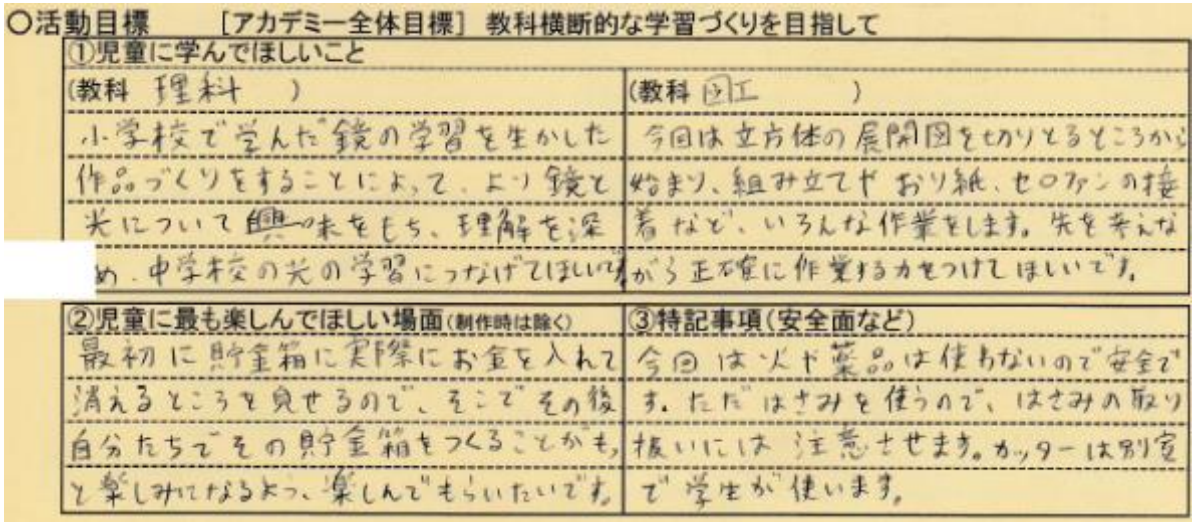
・最後の方に行った、マジカルボックスは、生徒と先生の距離を更に縮めるきっかけとなった。

2）児童感想文

学年	感想
4	万げ鏡を回して色が変わってとてもきれいでした。プラスチックにセロハンテープをはっただけなのに、こんなにきれいになるとは、思ってみなかったです。それもカラフルだったのできれいでした。家でも作れそうです。黒いへんこう板みたいなやつがあれば・・・
4	テープをはることによって、いっぱいはった人とすこしはった人では、ちがう色が見えて、おもしろかった。びっくりしたことは、かがみをつかわず、万華鏡ができることがびっくりした。家でも材料があったら、できるので、家でも、ママとかといっしょにつくりたい！！
4	テープをはって、いれて回してみたら、テープをはったところに、すごいきれいな色が出てきて、まわすと、色がかわってたのしかったです。にじ色に光っていてきれいで、家でも、つくりたいと思いました。へんこう板とテープとプラ板だけど、できるのは、びっくりしました。
4	きれいだった。スパンコールを使わずに万華鏡ができたからびっくりした。最初、前で見せてもらった万華鏡より自分で作った万華鏡の方が色が多かった。
4	万華鏡の中に星の形に切ったプラ板をいれてみたらすごくきれいで、びっくりした！！作り方は、すごくかんたんでした。
4	とってもきれいで万華鏡を作れてよかったです。楽しかったです。みんなと一しょに作ったあとは、回りにシールをはって作った万華鏡の中を見てみると、とってもきれいでした。回すと色が変っていってきれいでした。星をいれると、もっときれいで作れてよかったです。ありがとうございました。
4	色がかわった。にじの色のように感じたけど、色があるものとないものがありました。こんな万華鏡を回っているのはしっていたけど、色がよりによってちがうのだと思いました。
4	回してみたら青になったり、黄色になったりして、きれいでした。ちょっと両面テープがじゃまだったからもっと小さくしたらよかったです。あいだにほしをはさんでみたらすごいきれいでした。かがみなしでできたのですごいなと思いました。かみコップなどでつくれるので、家でもやってみたいです。
4	回したら色がかわった。色は 50 しゅるいぐらいありました。作った感想は、さいしょはテープで色がでてくるのかなーと思ったんだけどでてきた。テープは色が出てきました。
4	全体が回したら色がかわったこととかがいろいろ楽し有った。光のこともよく分った。そして楽しかったです。
4	回して見てみたら、色が変わってきれいだった。セロハンテープをこまかくはったら、色がこまかくでてきて、きれいだったです。もっとこまかく、テープ

	をはっていろんな色を出したいです。はやくかえってみんなにみせたいです。たのしかったです。
4	楽しかった。カラフルな色がみえた。回すと色がかわった。
5	万華鏡を回したら色が変わった。きれいだった。楽しかった！星を入れた方がきれいだった。

3）活動経過



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 図工)
小学校で学んだ鏡の学習を生かした作品づくりをすることによって、より鏡と光について興味をもち、理解を深め、中学校の光の学習につなげてほしいです。	今回は立方体の展開図をかくところから始まり、組み立てやおり紙、セロファンの接着など、いろんな作業をします。先を考えながら正確に作業する力をつけてほしいです。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
最初に貯金箱に実際にお金を入れて消えるところを見せるので、そこでその後自分たちでその貯金箱をつくることがも、と楽しみになるよう、楽しんでもらいたいです。	今回は火や薬品は使わないので安全です。ただはさみを使うので、はさみの取り扱いには注意させます。カッターは別室で学生が使います。

○活動を終えて

①準備過程　準備の過程は戸惑ったことが多かった。予算や材料の支入れ先。また、初めてのリーダーだったので準備は少しも遅れていた。休み明けからあまり時間がなかったのに、リハーサルをほとんどできなかったこと。準備の段階で、パワポや、用紙の作成を上手く班員に分担できなかった。

②企画の流れ・企画内容　当日の流れ自体は思ったよりもスムーズに進んでいたと思う。ただ、作業に対して思ったよりも児童のこだわりが強く、工作をすることが企画の目的となっていたこと。また、企画のテーマとやる事が不一致だったのは、もう一度見直さなければいけない。

③学生の活動　準備の段階では全員で活動を進められていた。ただ、リハーサルを、もう少し本番を想定した雰囲気でやらないといけない。当日は、準備の段階から、それぞれの仕事をまっとうできていた。先生同士でコミュニケーションをとりつつ、当日のやることの変更をまわせてたのは良かった。

④テーマに対する指導の工夫　工夫という面が今回の活動の中で一番の課題だった。作らせて、触ってもらったり触れてもらったりで、どうしたらその原理を少しでも理解できるかという事に対しては工夫が足りなかったと思う。マジカルボックスも「どうして？」を教えてあげたかった。

⑤目標達成度　当初の目標にあげてた光について理解させるということはあまり達成できなかった。クイズも、班で考えるのを楽しんでいて、説明は難しかったように感じた。児童の感想には、下華鏡の色のことがよく書かれていたので、どうしてこうなるか説明が必要だった。

⑥総合評価　全体的に見ると本当に良く一人一人が動いてくれたと思う。後は、一人一人の全体を見る事がもう少しこころがけてほしいです。あとは、こどもにどうしてそうなっているのか？や興味を持ってくれるような説明や指導ができるような企画にしたい。

教員からの意見・評価

・全体的によく考えられた活動で、児童は終始楽しそうに活動できていました。ただ、テーマにした偏光板の説明が、グループへのお任せとなってしまい、教員（＝指導者）1人対児童数十人に、どう工夫して説明するのかぜひ見たかったなと思いました。

・児童とのコミュニケーションについては、1・2年生ともに技術が向上しており、とても良かったと思います。特に2年生については、ON・OFFの切り替え、児童への指示、聴く体勢指導など、うまく誘導できていたと思います。（サイン　味岡）

B. 北城小学校 12 月 9 日

1）取材報告（報告者：梶川・村林）

1. 参加者

小学 4～6 年生１５名、大学１・２年生６名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名、観覧保護者１名、

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・企画の終始、盛り上がりに欠けていて、静かにしていないといけないのかなと感じた。

・身近に使われている偏光板の例を挙げたり、マジカルボックスを使って、児童たちに興味を持たせることができた。

・説明の際、実物を使ったり、身振り手振りをしたりして、児童が理解しやすいように工夫していた。

2－2. 企画の内容

・児童の反応や行動を見ながら、進行や説明をすることができた。

・椅子の座り方や休憩時などの注意掛けが少なく、不安なところがあった。

・時々、言葉遣いが難しくなったり、声が小さかったりして、わかりにくい箇所があった。

・前で説明しているときの笑顔が良かったが、班についている際の笑顔が少なかった。

・使い終わったハサミを素早く回収して、注意喚起をして安全に企画を進められた。

2）児童感想文

学年	感想
4	楽しかった。今までスーパーぼうるいがいは、来たけれど、特に一番楽しかったのは、万げ鏡作るのが一番楽しかった。へん光板は初めて聞いた名前。とても楽しかった。
4	自分で万げ鏡を作ったことがなかったから、万げ鏡を自分で作れてうれしかった。
4	クイズやまんげきょうでやったことは、しらないことがたくさんあって、勉強になった。
4	へん光板でまんげ鏡をつくりました。テープをはったりいろんなことをしただけでとてもかんたんに作れました。先生の説明は分かりやすくってとても楽しかったです。次回の土曜日のやつはまた行ってみたいと思います。へんこうばんのしくみが分かった。
4	へん光板はさいしょは黒なのにテープをはってみると色があざやかになってびっくりた。
4	科学館でやったことが本当だと分かった。
4	テープがこんなんになるとはおもわなかった。こんなかんたんにつくれるとはおもわなかった。
4	今日は、不思議な板で万華鏡を作ろうというきかくをしてくれてありがとうございます。それと、やさしくしてくれたし、おもしろくてちょっとむづかしいクイズで楽しませてくれてありがとうございます。次もおもしろいきかくをしてください。まってます！
4	先生の説明がわかりやすくてよかったです。へんこうばんという物をはじめて知りました。なので家でも作りたいと思います。
4	とってもへんこう板ってすごいなぁと思いました。すごくたくさんのことがしれたし、楽しかったので大大大満ぞく！！
5	今日、つくったまんげきょうはとてもキレイにできました。へんこうばんは、今日、はじめてしりました。クイズもとても楽しかったです。
5	今日は光のきれいな作品がつくれたのでとても楽しかったです。それぞれちがう色があるので、とてもきれいです。友だちの作品などもとてもおしゃれでかわいい作品だったので、今後も土曜チャレンジアップに参加したいと思います。
6	へん光板というものをしり科学館にあったものの正体がわかった。
6	クイズも楽しかった。万華鏡はきれいだった。マスキングテープの種類が豊富でよかった。テープでできるとは思っていませんでした。

3）活動経過

運営指導者からの意見・評価

会場設営から、終了まで、タイムスケジュールにそって、全員で協力してできたと思います。
それぞれの自分の役割をきちんと自覚されていました。
今年度の比城小での講座は今日が最後になられますが、私もとても楽しく参加させて頂けたこと感謝しております。また、来年も子ども達の為に、楽しい企画を考えて下さい。
一年間ありがとうございました。

（サイン　　）

○活動を終えて

①準備過程

全員が役割を真っ当していた。
当日作る物と物との大きさがあっていないことがあり、こまかい所まで詰める必要があると感じました。

②企画の流れ・企画内容

当日は、企画書の予定通りに行っていたと思います。前回の企画よりも、内容は多めにしたが、時間通り進められたのはよかったと思う。しかし、偏光板に関する説明をもう少しわかりやすいものにできたらよかったと思う。

③学生の活動

学生全員で協力して企画を行うことができた。当日は各自割り当てられた仕事をすることができた。児童ともコミュニケーションを多くとっており、児童が退屈しないように工夫されていたと思う。
もう少し、笑顔があればよかったと思う。

④テーマに対する指導の工夫

光についてのクイズや、身の回りで偏光板が使われていて例を紹介することで、生活の中の光について興味がもてるように企画をした。色についても教えることで色と光の関係について教えることができた。

⑤目標達成度

児童の感想から、偏光板を重ねると暗くなることや、セロハンテープと偏光板から魚粉かな色が出ることに興味を持ってもらい、仕組みを理解してもらえたと思う。
一方で、説明が不十分な所があったり、準備不足が伺えた。

⑥総合評価

全員で協力して行うことができた。
しかし、人数の少なさを100%カバーすることができず、視野の狭さを実感させられた。もっと本番を想定して考える必要があったと思われる。

教員からの意見・評価

理科的要素と図工的要素の融合した企画は子供たちに好評であるように感じました。

（サイン　高木　　）

（１０）スノドームのふしぎな世界

A. 勝川小学校 11 月 18 日

1）取材報告（報告者：大塚咲歩）

1．参加者

小学 4～6 年 25 名、大学 1・2 年生 10 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名、観覧保護者 3 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

今回の企画テーマはスノードームであり、これからの季節にもあっていて児童も興味を持っているようだった。今回参加した児童には元気な子が多く、先生役の学生に積極的に話しかけに行く様子などが多くみられた。その分学生は大変そうだったが、安全第一に気を配る姿や静かな子にはこちらから話しかけに行く姿が見られ、全体的にスムーズに作業が進んでいてよかった。

2－2．企画の内容

企画テーマは、これからの季節に合っていてきれいで目を惹くものであり、「作りたい」という気持ちになる内容だった。また、クイズの際油と色水が入ったボトルを見せ、そのふたつがきれいに分かれる様子を実際に確認することで児童の関心を惹いていてよかった。指導の面では、各作業で班ごとに学生が児童を笑顔で指導する様子はよかったが、難しい作業も多く手が回らない一面も見られた。油やラメなど取り扱いが難しい材料が多いことも原因のひとつであると考えられるので、児童が学生の手を借りず作業できる工夫が必要であると感じた。手が回らないと判断した際には取材班にも児童を見ていてほしいと声をかけ安全に気を配っており、大きなけがもなく終われてよかった。

2）児童感想文

学年	感想
4	スノードームは、はじめてつくったけれどじょうずにできてたのしかったです。
4	ドラえもんがきれいに書けた。
4	スノードームを作るのはむずかしかったです。
4	ぼくが工夫したところは、色水を赤と青をまぜて、むらさきにしたり、絵をきれいにしたりキラキラの粉を金しゅるいいれたりとかです。で、たのしかったです。
4	あぶらがうえにいくこともわかったしいろいろおもしろいことがあってたのしかった。
4	作ってみて・・・何の絵を書くのか気めていなかったけれど上手にできました。ラメを入れたりするのが、とっても楽しかったです。
4	初めて作ってみて楽しかったです。ラメやビーズを入れてきれいになったので、うれしかったです！
4	きれいにできたし、たのしかったです！
4	ラメをまぜるのが楽しかった。
4	先生の教え方がとっても上手でスノードームを楽しく作れました。
4	絵をかくのが楽しかった。
4	かんたんだった　たのしかった
5	初めてチャレンジアップ教室に来たから、すごい楽しかった。またチャレンジアップ教室に来たいと思った。
5	たのしかった。油をいれるなんておもわなかった。
5	スノードームを作るのがとても楽しかったです。冬まであと少しなので、家でも家族といっしょにスノードームを作ってみたいと思います。油と水が分かれるのがスノードームの中でとてもきれいで中部大の人たちもやさしかったです。
5	スノードームのつくり方がわかってたのしかった。
5	きれいにできてよかったです。また土曜チャレンジアップ教室に行きたいです。楽しかったです。
5	スノードームのつくり方が分かったし、とても楽しかったです。
5	思ったよりきれいにできて家にかざろうとおもった。
5	ぼくは、くるのがはじめてだけど、白いはくいの人がおしえてくれてとてもやさしかったです。次もあればもう一度いってみたいです。
5	スノードームを作るのは楽しかった。

5	油と水がわかれるのは知っていたけど、これでスノードームが出来るという事は知らなかったからおもしろかったです。
5	こんなにきれいなスノードームができるとは思ってませんでした。家でも作ってみたいと思いました。
5	油と水の量を間ちがえた。
6	スノードームを作って・・・きれいにできてよかったし、おしえてくれた先生にすごいきれいといわれてうれしかったです。

3）活動経過

○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 図工)
水が油より重いということ。 水と油が混ぜても混ざらないということ。	作ることの楽しさや人の作品を鑑賞する喜びを感じさせる。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
スノードームのもとが2層になる仕組みを、クイズによって、しっかり理解してもらう。	児童には使用させないが、グルーガンの使用があるので、必要に応じてもつけるようにする。

運営指導者からの意見・評価

油と水の関係など、勉強をしながら楽しく作業できていたようで児童たちも生き生きとした表情でスノードームを作っていました。一番後ろの席の4年男子のグループは、マイペースであまり人の話をきかない子が集中していたので ばらして座らせた方が良かったのではないかと思いました。

(サイン 川端由香里)

○活動を終えて

①準備過程

自分が前回入った、せきたに班の準備不足などをみていたので、はやめはやめに、ペットボトルの水や油など準備できていたのではないかと思う。ただ、びんのふたのスポンジがきれていなかったり、あさかったりした分があったり、もっと当日の流れをたくさんやっておけるとよかったと思う。

②企画の流れ・企画内容

2層に分かれるスノードームをつくるという企画。まず最初に、もともとスノードームはなにが由来で、今ではたくさんの種類があるという説明。クイズで、2層に分かれる説明をし、水にスポンジはうくけどお金は沈むなどを例として話した。その後中にいれる絵を書かせ、水の色などを調節させながら、スノードームの制作。

③学生の活動

準備の時点から、全員で協力して行動し、活動することができた。リーダーだけにならないよう周りのみんなが配慮してくれたりした。当日も企画の説明、児童のことをよくみることも、全員が大変そうな班にフォローをいれながら、動くことができていたと思う。

④テーマに対する指導の工夫

2層に分かれる仕組みとして、密度の部分が絶対関わってくるので、密度をならわない小学生にも分かりやすく説明するために、②でもかいたが、水そうで水をはり、うくもの、しずむものを例にだして説明した。スノードームの中の絵や、色の調節ができることで、児童それぞれの発想をいかせるようにした。

⑤目標達成度

今回目標としては各自自分の役割に責任をもつこと、安全に配慮することであった。自分の説明する部分が多少分かっていなかったりするところもあったが、ほとんどの人が役割をしっかりはたせていたと思う。やんちゃな子が多く、イスのすわり方がしっかりしていない子もいたが、ケガもなかったので安全面もよくできた。

⑥総合評価

個人個人細かいところまでみていけば、改善点や、よくなかった点はたくさんでてくるとは思うが、このグループとしては大きないプニングもなく、事故やケガもなく、よかったし、よくできていたと思う。企画としては待ち時間が長い点を改善したい。初めての1年生企画のわりにはよくがんばったと思う。

教員からの意見・評価

11/27

途中から見せてもらったが、30名の子どもたちが落ちついて活動していて、指導の工夫のたまものだと感じた。難しい試みである鑑賞の時間も、子どもたちが集中してとり組んでいる様子で、うまくいったようだ。一部、学生先生との距離(きょり)のとれない子どもへの対応で苦戦している学生もいた。課題だと思った。

(サイン 李明)

B. 東野小学校 12 月 9 日

1）取材報告（報告者：土屋　健昂）

1．参加者

小学 4～6 年生 19 名、大学 1・2 年生 8 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

・ 児童とのコミュニケーションが多く、笑顔の多い活動になった

・ 演示や説明の工夫がされており、児童の印象に残りやすい活動になった

・ 自分の役割をよく理解し、スムーズに準備や活動や片付けができていた

2－2．企画の内容

・パワーポイントの漢字が難しく、学年に対応した漢字を使用する必要がある

・スノードームになぜ油を入れるのか、説明が欲しかった

・クイズの解説が一部難しかったので、説明のしやすい問題を作るなどの改善が必要

2）活動経過

運営指導者からの意見・評価

今回はみなさんの御好意に甘えて子供達と製作出来ました。
とても楽しい時間でした。有り難うございました。12月ならではの
ビンゴ大会も良かったです。子供達の表情を見ていても、楽しんで
いるのが伝わってきました。今後も宜しくお願いします。

（サイン 河原 ）

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
ビンを多く用意したり、スポンジを前回の反省をふまえて小さく切ったりした。色水の色の種類を増やして、以以の児童の作品の個性を生かそうとした。プラスチック板をとがらせてスポンジにさせるようにした。	スノードームの2層の仕組みを知ってもらってから、スノードームを作る。スノードームから水がこぼれないようにするためにグルーガンで止める間にビンゴ大会をする。最後に友だちの作品を鑑賞する。
③学生の活動	**④テーマに対する指導の工夫**
パワーポイントを作って企画を進めていく。スノードームの作り方を実際にやり、児童に作り方を理解させる。準備をはやくすることで時間に余裕をつくった。児童に企画を楽しんでもらうために学生がまず楽しく企画を行った。	ただのスノードームではなく2層になる仕組みを「密度」という言葉ではなく「重さ」という言葉を使った。それぞれ違った色や柄のスノードームを鑑賞する。
⑤目標達成度	**⑥総合評価**
クイズを通してスノードームが2層になることを知ってもらえたし、スノードームの色を工夫したり、プラスチック板に自分の好きな絵を書いたりして自分だけのスノードームを作ることに楽しんでもらえたため、目標は達成出来た。	児童だけでなく学生も楽しめる企画だった。児童と多くコミュニケーションをとることが出来たし、ビンゴ大会で盛り上がった。時間を上手に使えていたし、企画も成功した。

教員からの意見・評価

最後までいなかったので、仮放、水と油を入れるのが
十分に理解できず、残念でした。今度教えて下さい。

（サイン 高木 ）

（１１）玉ねぎでオリジナルハンカチを染めてみよう！

A. 北城小学校 10 月 14 日

1）取材報告（報告者：伊藤　峻、山次　智也）

1．参加者

小学 4～6 年生１７名、大学１・２年生１２名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名

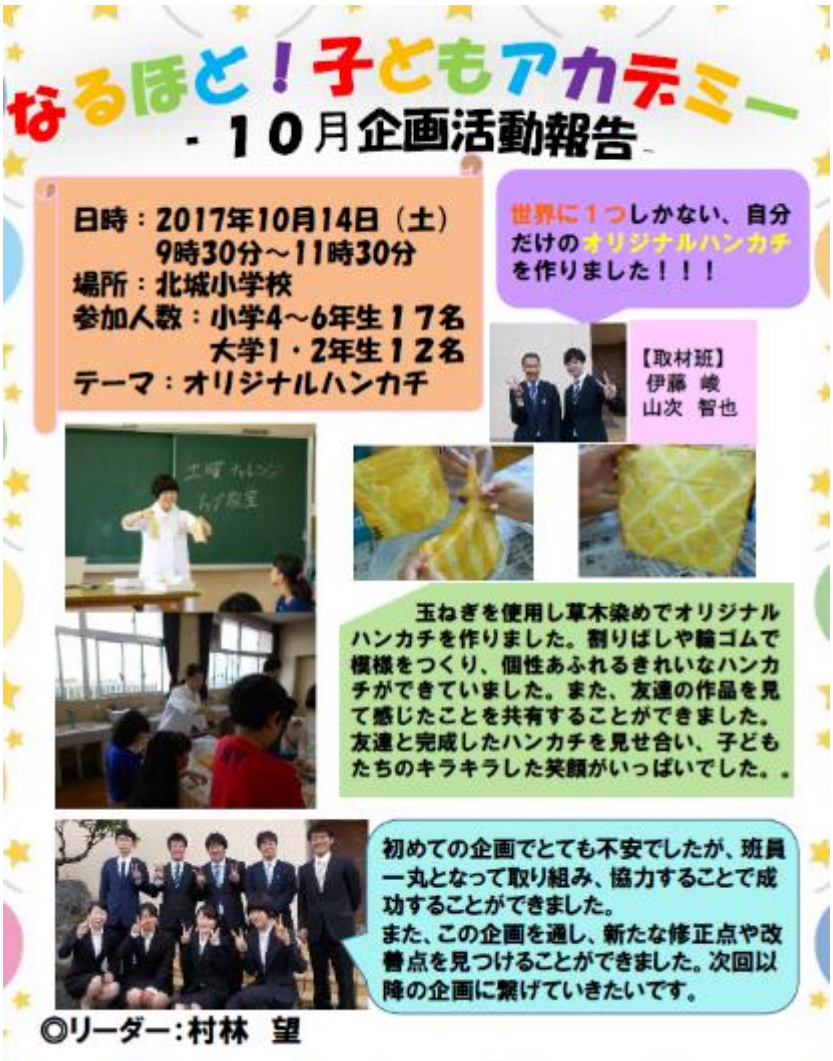
2．活動報告

2－1．活動の様子

準備の段階でバタつきがあったが、企画ではそれを引きずることなくスムーズに進行することができていた。メンバー全員が企画の内容を把握していたからだと思われる。児童もどんな染め物ができるのかワクワクしている様子がうかがえて、できた染め物を嬉しそうに眺めていた。

2－2．企画の内容

活動時間を考えながらタイマーを有効に活用することができていた。学生全員が児童とのコミュニケーションを積極的にとりながら児童をサポートすることもできていた。しかし、忘れ物が多かった点、予想用紙と鑑賞用紙が混同していた点は改善すべきだと思う。忘れ物は持ち物リストの見直しを徹底し、細かくリストを作り直す必要がある。また、予想用紙と鑑賞用紙が混同していて、鑑賞用紙に予想で描いた模様があったので、別々に分けたほうが児童も混乱することなく鑑賞することができるのではないかと思った。



2）児童感想文

学年	感想
4	とても楽しくまたやって見たくなりました。さっそく使いたいと思いました。
4	ハンカチをそめるのが、楽しかったです。
4	さいしょは、どうなるんだろう？どうかな？とおもっていたのでとてもワクワクで見たときは、とてもきれいだったからうれしかった。
4	ハンカチを作って楽しかったです。
4	学校で作いたいです。
4	タマネギでハンカチをそめれるなんてしらなかったです。とても楽しかったです。
4	思った以上にきれいにできたのでびっくりしました。「とても」楽しかったです。またやりたいです
4	とても楽しかった。またやりたいです！！友達に自まんできる。うれしい！！これからも大切にしたいなぁ
4	今日は草木ぞめをやってみて、おなべの中の色は、おみそしるみたいなちょいろだったけど、ナゾのえきたいにつけたりすると、きいろになっていたのでびっくりしました。クイズはむずかしかったけど、勉強になりました。ありがとうございました。
5	絵の具でそめたことはあるけど野菜・タマネギでそめたことはなかったのでまた新しい体験ができたなと思いました。家で自由研究でほかの野菜やフルーツ花でやってみたいと思いました。
5	わりばしやわごむでもようを作るのが楽しかったです。じょうずにできてうれしかったです。
5	とても楽しかったです。
5	今日、草木ぞめをしてみて予想とは少しちがったけどいい作品ができてよかったです。
5	草木ぞめたのしかったです！！具でむらさき色が出るなんて知りませんでした！！とてもおもしろかったです。ありがとうございました！！
5	まきつけるのがちょっとむずかしかったです。色がきれいでした。
6	とてもたのしかったです。
6	楽しかった。もし次があったら輪ゴムだけでやってみたいと思った。きれいにできたからよかった。

3）活動経過

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
（教科 家庭科 ）	（教科 図工 ）
衣食など」に関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、生活をよりよくしようとする実践的な能力と態度を育てる。	進んで表現したり鑑賞したりする能力と育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。

②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
予想したもようと実際にできたもようを見比べて違いを楽しんでほしい。	子どもたちから目に近づけない。

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
忘れものをしてしまったこと以外はスムーズに準備をすることができた。準備の段階でバットに到るごとの準備ができていたことがよかった。	草木染めの説明をした後、制作をして、クイズ大会で草木染めの知識を深める。児童たちで感想を書きあい、予想した模様と実際の模様を見比べて、感想を書き、名前をつける。

③学生の活動	④テーマに対する指導の工夫
一年生を中心に企画を取り組むことができた。二年生のサポートをありながら到達が自分の役割を認識し、的確に動き、発言することができた。	"媒染液"などのむずかしい言葉をどうすれば上手く説明できるかをもう少し工夫すれば良くなる。声かけのレパートリーを増やす。児童が発言しやすい環境作りをする。

⑤目標達成度	⑥総合評価
児童たちが全員上手に染めることができた。児童に草木染めの知識と楽しみながら身に付けさせることができた。	前回よりも一年生が全体的に自発的に取りくむことができた。児童に楽しんでもううことができたのでよかった。最初の準備段階ではおわれたが、企画に入るとスムーズに動くことができたことがよかった。

教員からの意見・評価

10:35～の参観でありました。本題は、スムーズに流れており学生たちも合格の笑顔でおもしろく感じた。ただし、鑑賞タイムは、もう少し工夫が欲しい。「この鑑賞しましょう」では、何をしていいのか伝わっていないようい思う。講師さんも、「ねらい」を共有しているのかなと疑問に感じた。ゆっくりでも良いところのあるか。（サイン 吉田正孝）

B. 春日井小学校 11 月 18 日

1）取材報告（報告者：山次智也　鈴木涼平）

1．参加者

小学 4～6 年生２２名、大学１・２年生８名

大学教員１名、小学校関係者２名、教育委員会２名、観覧保護者３名

2．活動報告

2－1．活動の様子

今回の活動は１０月企画の反省点が生かされた内容でした。児童も大学生も終始笑顔の絶えない活動でした。また、大きなけがもなく大学生は児童に対して細心の注意を払い、活動を行っていました。１年生もはじめの頃と比べると児童の前に立って話すことに対して抵抗がなくなったと思います。２年生が１年生を引っ張る姿も見られましたが１年生を中心としてうまく回っていたと思います。

2－2．企画の内容

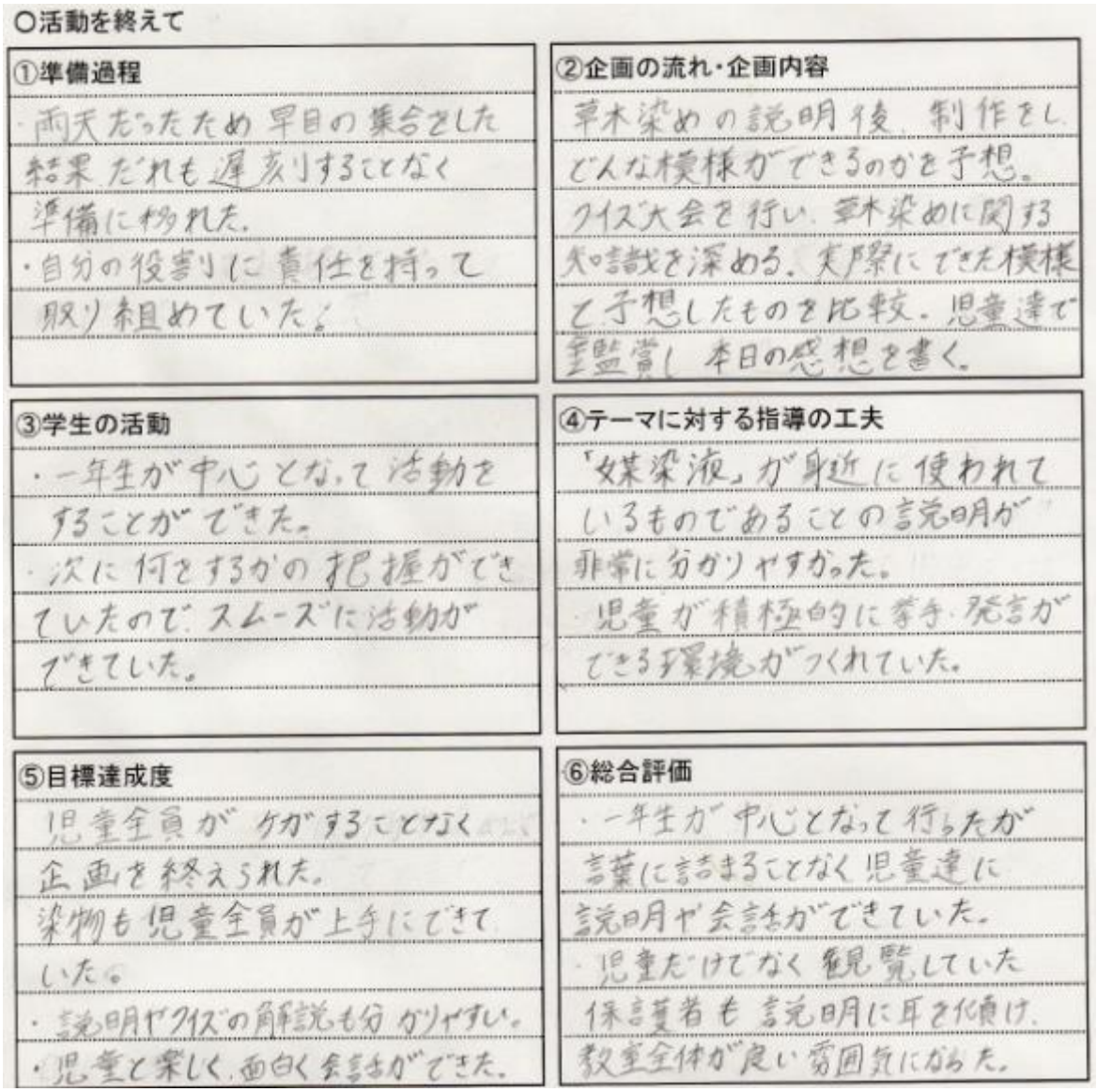
会場設営の際の準備がとても早く受付時間の前に来た児童が到着する前には準備が終わっていました。先生が前に立ったときや話しているときに児童がざわついていましたが、すぐに静かにさせ、前に立つ先生を集中するように促す場面が多く見られました。しかし、伝達ミスがあったのか全班同じことができていない場面がありました。また、時間がオーバーしてしまいリーダーを中心とした対応力が課題だと感じました。今回も児童がいすの上に座って足がついていない場面が多く見られました。何度注意しても繰り返す児童もいて、態度を変えて注意することも大切だと思います。今回も注意していたのは前回の春日井小学校の企画で児童の転落を目の当たりにした人たちだけでした。１２月にあるアカデミーの全体会ではこのことについても全体で確認してほしいと思います。

2）児童感想文

学年	感想
4	とてもたのしく、まさか自分でもこんなにきれいになるとは、思ってなかった。
4	とてもいい作品ができたのでよかった。さいしょは「え！たまねぎ！」というかんじだったけど、ゆでる時にちゃいろだったけどきいろになったびっくりした。
4	初めて知ったことがたくさん分かりました。わゴムやわりばしでもようが作れるなんて思ってもみなかったです。
4	欠席
4	さいしょはたまねぎのかわとつかうと思ったけど、ゴムとわりばしでやるとは思いつきませんでした。みんないろんな形をしていてすごくたのしかったです。
4	ハンカチがきれいに作れた。
4	ハンカチが野さいや玉ねぎでできることをしってびっくりしました。
4	問題があって、全部せいかいできなかったけどいろいろなことがしれてたのしかった。たまねぎでいろをそめるときみそしるみたいないろだったからできあがりもみそしるみたいないろだったとおもったけどきいろでびっくりした。
4	今日、どんなかたちになるかわからなかったけどおわったらいいかたちになってたからよかった。たのしかった。
4	じ分でかたちを作ってどんなのができたかを知る時がおもしろかった。
4	今日は、ハンカチを作って楽しかったことは、ぜんぶです。クイズやできあがったときも楽しかったです。またやりたいとおもいました。
4	家でもできそうなやり方で、家で材料があったらやってみたいです。また次の土曜チャレンジアップ教室に行ってみたいです。
4	今日きてよかったなと思いました。はじめて自分だけのオリジナルハンカチを作れて、たのしかったし、うれしかったです。よそうどおりのハンカチができてよかったです。自分が好きな色だったので、うれしかったです。
4	予想はあたらなかったけど、きれいな形でびっくりしました。たまねぎのあとが絵にあったけど思ったよりもすごかったです。またやりたいです。
4	わたしは、今日の土曜チャレンジにこれてよかったと思います。りゆうは、いえであそんでいるより土曜チャレンジのほうがおもしろかったです。またらいねんもいきたいです。
4	今年は最後だったけどまた来年もやりたいです。
4	「草木ぞめ」をべんきょうできて楽しかった！また土曜チャレンジアップきょうしつ来たいです。
4	すごくたのしかったです。

4	くさきぞめのやり方で、とってもきれいでした。またやってみたいです。
5	たまねぎをにたら､みそしるみたいな色になるとは思わなかったからびっくりでした。先生たちともコミュニケーションがとれてとっても楽しかったです。
5	色が選べるのかなと思ってたけどぜんぜんちがった！自分好みのがらが作れたし、ちょー楽しかった！また来年もおもしろい企画つくってね！
5	玉ねぎでそめるのは初めての体けんだったので、次回は何があるのか楽しみです。またやってみたいです。
6	ハンカチをそめるのは､ものすごくたいへんなことかと思っていたけれど､ものすごくかんたんで楽しかったので家族におしえて家でも作りたいです。

3）活動経過



○活動を終えて

①準備過程
・雨天だったため早目の集合をした
結果だれも遅刻することなく
準備に移れた。
・自分の役割に責任を持って
取り組めていた。

②企画の流れ・企画内容
草木染めの説明後、制作をし
どんな模様ができるのかを予想。
クイズ大会を行い、草木染めに関する
知識を深める。実際にできた模様
と予想したものを比較。児童達で
全鑑賞し本日の感想を書く。

③学生の活動
・一年生が中心となって活動を
することができた。
・次に何をするかの把握ができ
ていたのでスムーズに活動が
できていた。

④テーマに対する指導の工夫
「媒染液」が身近に使われて
いるものであることの説明が
非常に分かりやすかった。
・児童が積極的に挙手・発言が
できる環境がつくれていた。

⑤目標達成度
児童全員がケガすることなく
企画を終えられた。
染物も児童全員が上手にできて
いた。
・説明やクイズの解説も分かりやすい。
・児童と楽しく、面白く会話ができた。

⑥総合評価
・一年生が中心となって行ったが
言葉に詰まることなく児童達に
説明や会話ができていた。
・児童だけでなく観覧していた
保護者も説明に耳を傾け、
教室全体が良い雰囲気になった。

運営指導者からの意見・評価

染めあがったレンガの色が思っていたよりもきれいで驚きました。
進行、子供達の対応、進行、記考え、何度も練習され、しっかり完璧だったと思います。御苦労様、お疲れ様でした。

（サイン　松本　）

○活動を終えて

①準備過程

仕事の準備をてきぱきと動いてみえました。（早く準備ができ子供達と交流、会話する時間もあり子供達がうれしそうでした）

②企画の流れ・企画内容

たまねぎの皮を使って染めるという企画で子供達も知っている身近な物を使うので親しみやすい。
タイマー、休憩タイム…約束を説明していて子供達にめりはりができてよい

③学生の活動

役割分担があり個々に仕事をこなしていると思いました

④テーマに対する指導の工夫

企画中にクイズ大会をとりこんで楽しく染めに感する知識を学んでいた（子供達楽しそうでした）

⑤目標達成度

自分達でデザインを考え、染体験、染色の豆知識を学んで楽しい時間をすごせたと思います

⑥総合評価

天気が悪く染色体験に興味を持った参加者が少いかと思いましたが、1人欠席で、子供達も楽しめ、進行もスムーズに行われ楽しい半日をすごせたと思います

教員からの意見・評価

段取りのうまくいっていない部分もありましたが、児童はとても楽しそうに活動している様子を見ることができました。事前予測する力を身につけるともっとスムーズな活動になると思います。期待しています。

（サイン　味岡　）

（１２）旅するタネを使って作品を作ろう

A. 鳥居松小学校 11 月 4 日

1）取材報告（報告者：倉地真歩）

1．参加者

小学 4～6 年生 10 名、大学 1・2 年生 9 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 1 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

・スムーズに準備、活動、片付けが出来ていた

・児童が企画に積極的に参加できる内容が多く、楽しそうな子が多かった

・学生が一つ班に縛られず、全ての児童と積極的に接することができていた

2－2．企画の内容

・活動する中でグルーガンを使用することがあり、企画中での注意喚起がかなりされていたことが良かったと思う

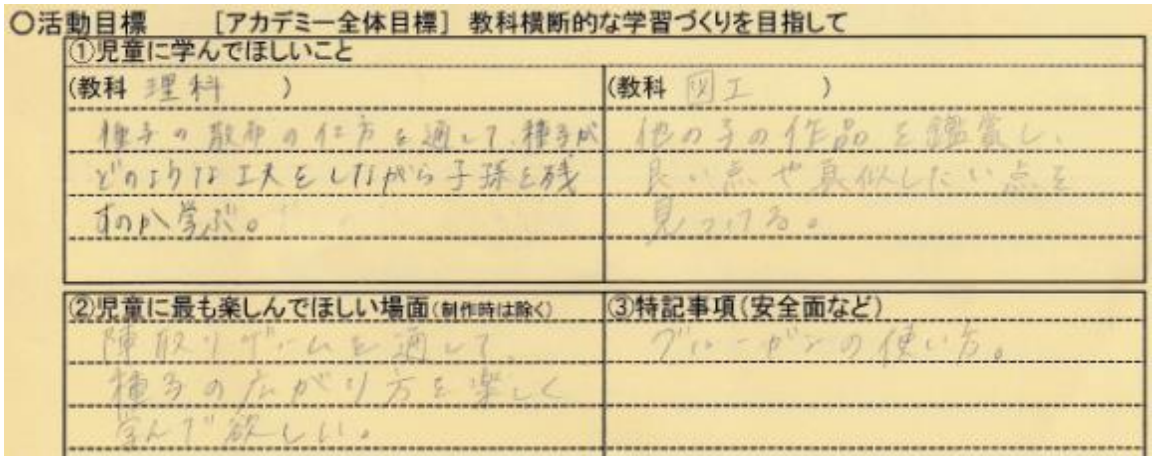
・種の性質を知るためにゲームを用いて性質の理解を深めさせるための工夫がされていると感じた。

・児童たちと積極的に接し親しくなることは良いと思ったが、内容を説明されているときにすぐに静かになることが難しかったように思えた

2）児童感想文

学年	感想
4	おりがみやあつ紙でゲームができたり物かけがつくれて楽しかった。
4	いろいろな種の生きのこるすべがあってとても勉強になりました。またいろいろなことを教えてください。ありがとうございました。
4	くっつき虫やどんぐりがどういうふうにたねをはこべるかしれてよかった。M 先生手伝ってくれた！
5	作品を作るのが楽しかったです。でも時間がもうすこしほしかったです。グルーガンを使うのも楽しかったです。とにかく楽しかった。
5	むずかしかったけどたのしかった。ゲームかった！
5	いろいろしらない事がしれて楽しかったです。
5	きょうのじゅぎょうでひっつきむしやどんぐりなど風やくっついてはこばれるということがしれてよかったです。M 先生がとくにあどばいすしてくれてありがとうございました。
5	時間が少なかったけど、最後、作るのが楽しかったです。かわいくできました。
5	作品を作ったのが楽しかった。もっと材料がほしかった。とにかく楽しかった。
6	かべかけにぎんなんとかアーモンドとかどんぐりをつけるの楽しかった。おりがみでゲームするのも楽しかったです。

3）活動経過


○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　)	(教科 図工　)
種子の散布の仕方を通して、種子がどのような工夫をしながら子孫を残すのか学ぶ。	他の子の作品を鑑賞し、良い点や真似したい点を見つける。
②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
陣取りゲームを通して、種子のなかま分けを楽しく学んで欲しい。	グルーガンの使い方。

活動報告書

申込みの場所に本物の見本があるといいと思う

運営指導者からの意見・評価

普段目にしている木の実や種のことを興味をもって見ることができるよい機会になったと思う。工作をしたり、ゲーム形式にしたりと楽しく構成されていたと思う！みんな楽しそうだった！

（サイン 豊沢）

もっとたくさんの子に知ってもらえるようにしてもらえる

○活動を終えて 低学年の子にもやれるよう（ダルーガン使用せず）にできたらと思う

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
後半にやらなければいけないことがたくさんでてきて焦ってしまった。最終リハでパワポの直さなければいけない部分が発覚したりでメンバーに迷惑がかけるところが多かった	くっつき虫からの風の散布の仕方の説明のところがつながりが悪かったが、それ以外は、いい流れでできたと思う。

③学生の活動	④テーマに対する指導の工夫
一人ひとりが自分の役割に責任をもって活動ができたのではないかと感じた。周りを見ながら、どんな行動をとったらよいのかを考えながら活動ができた。みな積極的な行動が◎	児童が興味をもって学んでもらうため、ゲーム形式にした。そのため楽しみながら、飽きずに学んでいけたと思う。

⑤目標達成度	⑥総合評価
まだまだ改善点は部分が多いが、初めての活動としては良い出来であったと思う。全体構成もあるけがなく楽しんで学ぶことができたのではないかと感じた。達成度としては、10分の9くらい。	改善するところはたくさんだが、児童に楽しんでもらえたのでよかった。全体を通していい活動ができたと思う。今回のだめだったところを通して次回はさらに良い企画となるようにしていきたい。

教員からの意見・評価

初の1年生企画でしたが、とてもスムーズに進行されていて、よかったと思います。
ただ、1つ1つの活動に対する意味が、活動する学生さん自身も理解していない点、活動ごとに対する説明が不十分な点があり、残念でした。
12月企画では、改善を期待したいと思います。

（サイン 味岡）

B. 松原小学校 12 月 9 日

1）取材報告（報告者：竹内・松井）

1. 参加者

小学 4～6 年生 10 名、大学 1・2 年生 7 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・児童も学生も楽しんで活動していた。

・学生は積極的に児童とコミュニケーションを取っていた。

・活動全体を通してとても明るい雰囲気で、進行もとてもスムーズだった。

2－2. 企画の内容

・事前の話し合いが足りず、企画の進行方法などの確認が直前になってしまった。

・全体補助が多めにいたにもかかわらず、同じ行動をしていることが多かった。

・延長コードを養生テープで固定した点は良かったが、児童はコードに躓いてしまっていた。別の固定方法を考えるべき。

・時間配分がとても良く、企画がスムーズに進んだ。

・一人一人がしっかり自分の役割を果たすことが出来ていた。お互い不足していた部分もフォローし合うことが出来ていた。

2）児童感想文

学年	感想
4	かべかけや先生顔のどんぐりの目がひかっておもしろいです。感想で先生が２にんしかいなかったのでざんねんです。
4	くっつくまめの名前が分かった。
4	ミミッキュがきもいけどかわいい。
4	どんぐりのモンスターボールかわいい。
4	工作がとても楽しかった！！
4	ゲームがたのしかった。
4	植物の勉強とか、作ることが楽しかった！
4	かべかけを作るのが楽しかったです。先生のどんぐりもかわいかったです。
5	先生のどんぐりWWきもおもしろかった

3）活動経過

運営指導者からの意見・評価

参加の子どもは（ほとんどが4年生女子で、ぴったりの企画だと思いました。種の飛び方もゲーム形式なので興味を持ったように思いました。説明も分かり易く説明や作品製作などの時間配分も良かったと思いました。

（サイン 縞崎美代子）

○活動を終えて

①準備過程

5週間あるのに関わらず、計画性のないまま企画を提案したため、最終リハーサ名所で迷惑をかけてしまった。見通しの甘さや企画を十分に説明せずに行ってはいけないと思った。最終の準備がちゃんとできず迷惑をかけてしまった。

②企画の流れ・企画内容

全体的にスムーズに進行できたと思う。参加者のほとんどが女子だったので男女両方に受けるような企画にしなければいけないと思った。

③学生の活動

自分のパートを工夫したりして全員が責任をもって活動を行うことができた。全体を見て次にどう動くのか考えて行動する学生が多かった。

④テーマに対する指導の工夫

楽しみながら興味を持ってもらうためにゲームを多く採用して学んでもらった。本物を見せてわかりやすく説明できるようにした。

⑤目標達成度

全体の目標である「けがなく楽しみながら技について知ってもらう」ことができた。しかし児童10人だからうまく迷わずできたがもし30人だったらどこかでなるかでてしまったと思う。達成度は10分の7ぐらい

⑥総合評価

もっとリーダーがしゃんとして指示すればより洗練されたものになったと思う。児童に楽しみながら学ばせることはできたと思う。児童のほとんどが女子だったので男女両方に受けるような工夫が必要があると思った。

教員からの意見・評価

子どもの人数や男女比から落ち着いた運営ができていた。それぞれが役割分担し、自分の役割をしっかり行っていて評価できた。内容的に子どもにどの程度興味関心をもたせられたのは事後の意識調査で評価してほしい。前半の紙で作った種でのゲームは面白い企画であったが種が回りながら落ちるように羽にそりを入れる等工夫が必要である本物の種はそのようになっているから

（サイン 橋本美彦）

（１３）見えない何かを映し出せ！

A. 松原小学校 10 月 14 日

1）取材報告（報告者：鈴木涼平、石黒壮琉）

1．参加者

小学 4～6 年生 31 名、大学 1・2 年生 11 名

大学教員 1 名、運営指導者 1 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

・児童が積極的に企画に参加していて、楽しそうでした。

・大学生は、自分の役割をしっかりと理解し主体的に行動していて、とても有意義な企画になったのではないかと感じました。

・それぞれのグループがよくコミュニケーションがとれていて、児童がとても楽しそうでした。

2－2．企画の内容

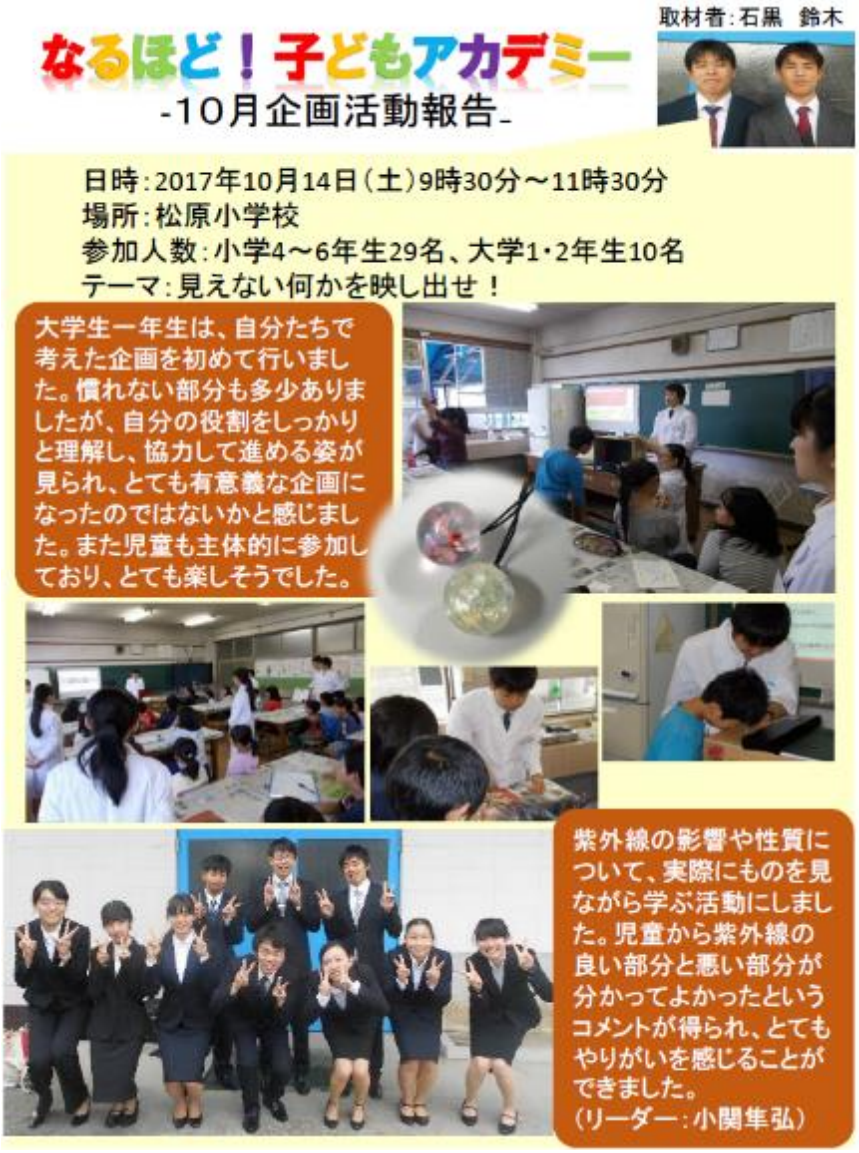
・児童に説明が伝わりやすいように、ものを使い説明していた点がよかった。

・質問をなげかけた際に、児童の発言に耳を傾けられており、机間巡視もきちんと行われていてよかった。

・時間配分があまかったので、もう少し考える必要がある。

・最後のブラックライトでパインアメなどを見せるところは、もう少し良い方法があるのではないかと感じた。

・全体的に見て中身の濃い良い企画だった。

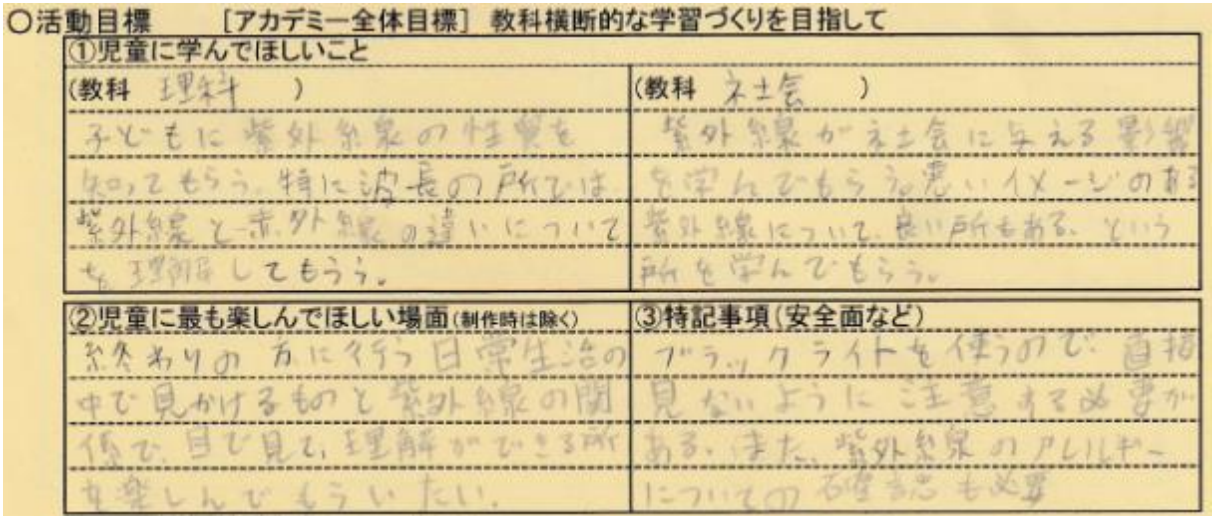


2）児童感想文

学年	感想
4	しがいせんはいいこともしてくれるとわかった。
4	UV レジンがたのしかったです。むずかしいところもあったけどたのしかったです。
4	今日の土曜チャレンジアップたのしかったです。また来たいと思いました。
4	いろいろな実験があってたのしかったです。みんなでやったりクイズがあってたのしかったです。
4	えりんぎがひかるなんてびっくりしました。
4	さんかしてみて、しがいせんはいいこともわるいこともあるんだなと勉きょうになりました。
4	今日のアカデミーはいろいろなことが知れて楽しかったです。キーホルダーは作るのはむずかしかったです。
4	わたしは、ひさしぶりに土曜チャレンジをやったので、とても楽しかったです。またやりたいです！！
4	じっけんがたのしかった
4	C がい線のころをよくしれてよかったです。
4	とても楽しかったです。また参加したいです。
4	今回、いろいろなじっけんをおらなっておもしろかったです！
4	忘れるかもしれないけどいろいろ分かってよかったです。
4	しがいせんのよいところが知れて、うれしかった。UV レジンも作れて、とても楽しかった。
4	チョー楽しかった！！
4	しがい線は悪いと思ったけど、先生がおもしろい教え方でせつめいしてくれたので楽しかったです。
4	たのしかったからまたやってほしいです。
4	しがいせんによい所があるとは、しりませんでした。UV レジンはしがいせんをあてると固まるとはいがいでした。とてもたのしかったです。またやりたいです。(子どもだけでブラックライトをつかったらだめ)
4	自分がしらないことをたくさん知れてよかったです。
5	しがい線のいいろころと悪いところ、りょうほうしれたからよかったし、楽しかった。
5	しがいせんはわるいところしかないと思ったけどやはりいいところもあった。
5	はじめてやってみてすごくたのしかったです。先生たちありがとうございます。
5	千円札のことは知っていたけれど、パインあめが光るとは思っていなかったので、びっくりしました。また来たいです！！
5	工作もっとしたいな～けど楽しかったんでよかったです。

5	いろいろ不しぎを発見できて、たのしかったです♪
6	楽しかった。パイナップルジュースあ光らないのに、パインあめは光ったから、びっくりした。
6	今回、参加してみて、とっても勉強になるようなことをたくさん知れたのでよかったです。パイナップルジュースは光らなかったから、パインあめも光らないと思ったけど、ひかっていておどろきました。
6	UV レジンでストラップを作るのが楽しかった。UV レジンを型に入れるのは難しかったけど、最後はできて良かった。
6	いろいろなことを学べて楽しかったです。
見学	たのしかた。

3）活動経過



○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 天気)
子どもに紫外線の性質を知ってもらう。特に波長の所では紫外線と赤外線の違いについても理解してもらう。	紫外線が天気に与える影響を学んでもらう。悪いイメージのある紫外線について良い所もある、という所を学んでもらう。
②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
冬休みの方に行う日常生活の中で見かけるものと紫外線の関係で、目で見て理解ができるのを楽しんでもらいたい。	ブラックライトを使うので、直接見ないように注意する必要がある。また、紫外線のアレルギーについての確認も必要

運営指導者からの意見・評価

ホワイトボードの使用はよかったと思う。→グループの意見をまとめやすい。
代表が意見を発表している時、他の子どもたちは集中して聞けた。
クイズ形式での質問すると子どもたちも興味がわいてよく理解できている気がした。

（サイン 篠崎）

○活動を終えて

①準備過程

前半の何人かの話すことが決まらずに、最終リハーサルに取り組んでしまったことによって、何をするかが分からないという人が出てしまった。前日に一年生を中心に再確認することができたのが、失敗につながらなかった。

②企画の流れ・企画内容

紫外線の性質や、その影響を実験によって証明した。ハロインアメやエナジードリンクはブラックライトを当てることによって光るので、子どもの興味を引けた。

③学生の活動

ブラックライトを直接見てしまうと目に悪い影響が出てしまうので、そこに気を付けさせた。また、UVレジンを手につけてしまった時の対処をもっと決めておくべきだった。

④テーマに対する指導の工夫

子どもはブラックライトを当てると光る物質を見たことがある子どもが少ないだろう、という予想から、興味を引くような声のかけ方をするように工夫をした。その結果子どもがみんなを呼んで実演してくれた

⑤目標達成度

自分の決まりの生てを行うことができなかったが、やりたいやんのことはできました。私もの感想を見てみると、面白かった等の声を多く聞くことができたから悪くはなかったのかなという感じはした。

⑥総合評価

一年生として企画リーダーをしたのは初めだった。自分たちの話し合いの中で、子どもの要望に応えもれなかったのがあった。次は1日の企画があるので、反省を生かした企画をしていきたい。

教員からの意見・評価

子どもたちはとても興味をもってくれていたと思います。細かい段取りをもう少し予想して準備ができるとさらによくなると感じました。

（サイン 古市）

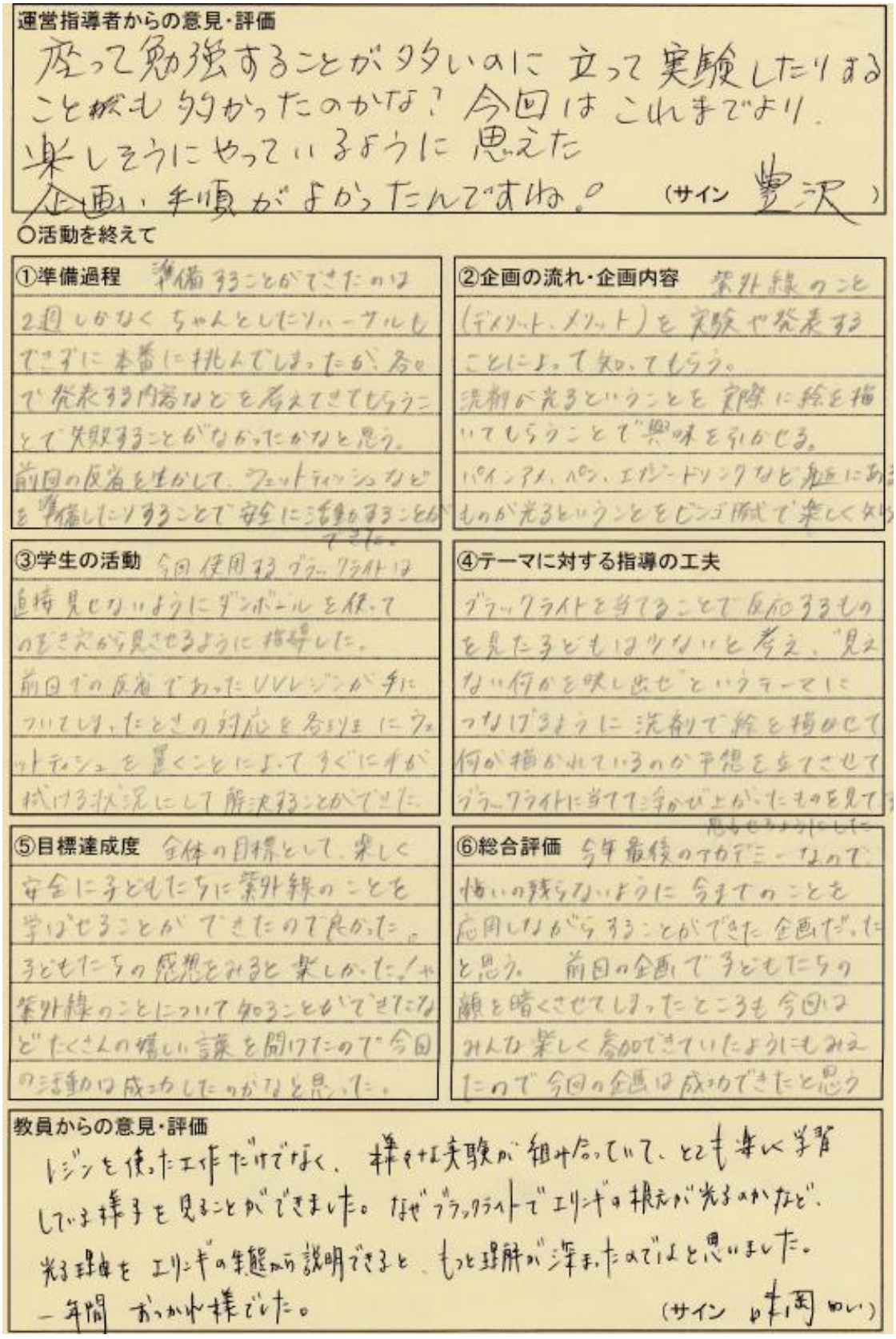
B. 鳥居松小学校 12 月 2 日

1）取材報告

2）児童感想文

学年	感想
4	キーホルダーがつくれて楽しかった。
4	しがいせんのよい所と悪い所があるのはしならなかった。
4	キーホルダーを作るのむずかしかったけど楽しかった
4	キーホルダーを作ったのがたのしかったです。
4	しがいせんにいいところがあるなんてしらなかった
4	ブラックライトはせんざいを水でとかしたものをてらすと絵がでるのがおもしろいです。
5	前からＵレジンをやってみたかったから、楽しかったです。けいこうペンの青が光らないかったのがふしぎです？楽しかったです！
5	しらない事がいっぱいあって楽しかったです。
5	エナジードリンクがものすごくきれいでした。それにキーホルダーつくりでいろんないろをつくれてよかったし、それにブラックライトの実験がおもしろかったです。
5	使るのがたのしかった
5	初めてしったことがたくさんあった。しがいせんの悪いところは、目がわるくなったり、病気になったりすること。とにかく楽しかった！！！
5	しらなかったことがしれたしせんせいもやさしかったのでとにかくおもしろかったです。
5	ＵＶレジンで作ったキーホルダーを作れてたのしかったです。しがいせんのことをいろいろしれてよかったです。
5	ＵＶレジンを作ったのが初めてだったけどとてもかんたんでたのしかったです。し外線についていろいろしれてうれしかったです。
5	たくさん食べ物をだすと食べたいと言う人がたくさんでてうるさくなると思います。
6	エナジードリンクにブラックライトあてた時、スライムみたいになってた。
6	先生の話がおもしろくて楽しかった。紫外線のことをたくさん知れた。ＵＶレジンがウルトラバイオレットの略だとはしらなかったから知らぬ間に雑学が増えた気がする！楽しかった！！
6	ブラックライトの時、ぼくのドーリアンが光ってうれしかったです。ジュースとおかしおいしそうに見えた。

3）活動経過



運営指導者からの意見・評価

座って勉強することが多いのに立って実験したりすることも多かったのかな？今回はこれまでより楽しそうにやっているように思えた企画、手順がよかったんですね。（サイン 豊沢）

○活動を終えて

①準備過程 準備することができたのは2週しかなくちゃんとしたリハーサルもできずに本番に挑んでしまったが、各々で発表する内容などを考えてきてもらうことで失敗することがなかったかなと思う。前回の反省を生かして、ウェットティッシュなどを準備したりすることで安全に活動することができた。

②企画の流れ・企画内容 紫外線のこと（デメリット、メリット）を実験や発表することによって知ってもらう。洗剤が光るということを実際に絵を描いてもらうことで興味を引かせる。パインアメ、ペン、エナジードリンクなど身近にあるものが光るということをビンゴ形式で楽しく知る

③学生の活動 今回使用するブラックライトは直接見せないようにダンボールを使ってのぞき穴から見させるように指導した。前回での反省であったUVレジンが手についてしまったときの対応を各班にウェットティッシュを置くことによってすぐに手が拭ける状況にして解決することができた。

④テーマに対する指導の工夫 ブラックライトを当てることで反応するものを見た子どもは少ないと考え、"見えない何かを映し出せ"というテーマにつなげるように洗剤で絵を描かせて何が描かれているのか予想を立てさせてブラックライトに当てて浮かび上がったものを見て思わせるようにした。

⑤目標達成度 全体の目標として、楽しく安全に子どもたちに紫外線のことを学ばせることができたので良かった。子どもたちの感想をみると楽しかった！や紫外線のことについて知ることができたなどたくさんの嬉しい言葉を聞けたので今回の活動は成功したのかなと思った。

⑥総合評価 今年最後のアカデミーなので悔いの残らないように今までのことを応用しながらすることができた企画だったと思う。前回の企画で子どもたちの顔を暗くさせてしまったところも今回はみんな楽しく参加できていたようにもみえたので今回の企画は成功できたと思う

教員からの意見・評価

レジンを使った工作だけでなく、様々な実験が組み合っていて、とても楽しく学習している様子を見ることができました。なぜブラックライトでエリンギの根元が光るのかなど、光る理由をエリンギの生態から説明できると、もっと理解が深まったのではと思いました。一年間おつかれ様でした。（サイン 味岡 如い）

（１４）消える☆貯金箱！

A. 松山小学校 11 月 18 日

1）取材報告（報告者：志野瑞季）

1．参加者

小学 4～6 年生３１名、大学１・２年生７名

大学教員１名、小学校関係者１名、教育委員会２名、運営指導者１名、観覧保護者１名

2．活動報告

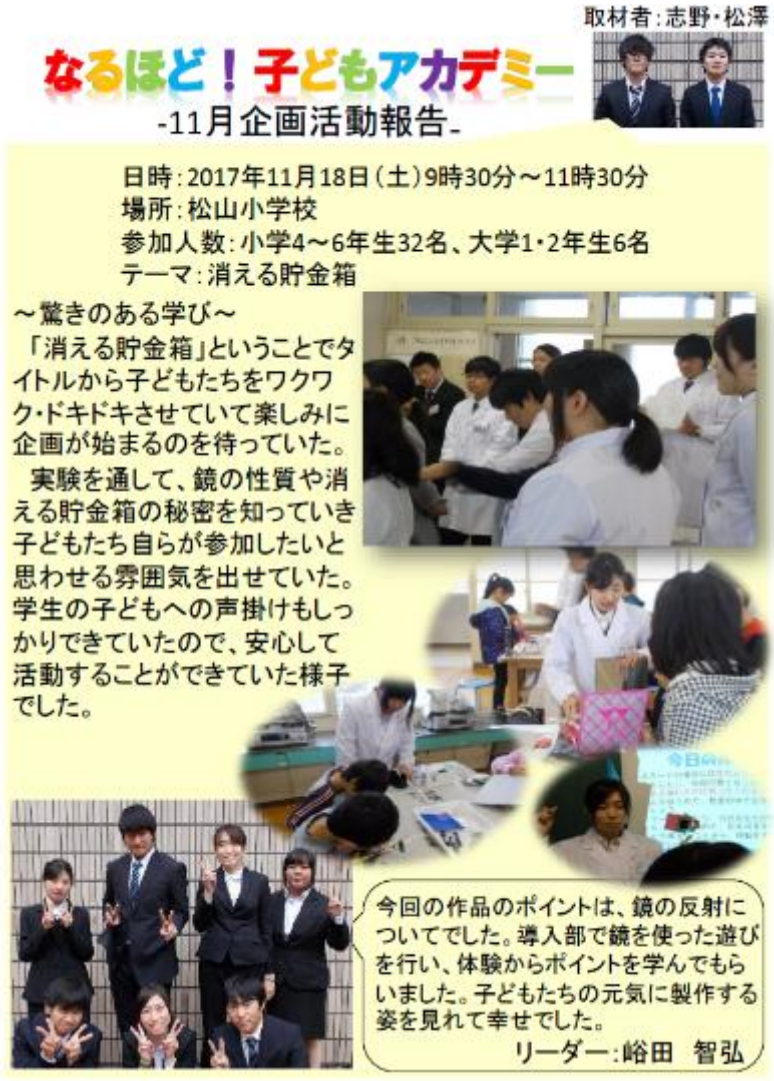
2－1．活動の様子

児童や大学生の活動の様子について取材者の感想を記載してください。3 行以上。

今回、企画を見ていき、小さい失敗や改善すべき点が多くみられた。

内容としては、後述するが、企画リーダーの峪田が最初の挨拶を忘れる、またフリーの仕事ができていない、認定証配布の準備ができていなく取材班が準備に回る、などだ。

これらは次回行う際までに直し、ぜひとも改善して臨みたい。



2－2．企画の内容

企画や指導にどのような工夫が見られたか、

改善した方がいい点などを記載してください。5 行以上。

上記したように、企画リーダーの峪田が最初の挨拶を忘れる、フリーの仕事ができていない、また、認定証配布の準備ができていなく取材班が準備に回るなど、

次回の土曜チャレンジアップ教室までに改善しなければならない点が多く見られた。

しかし、声掛けや、注意喚起を積極的に行っていたり、頑張っていたと思う。

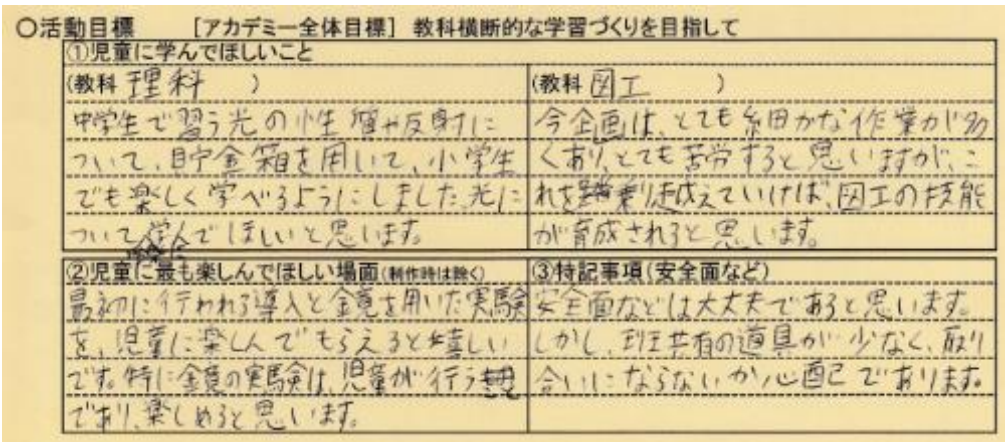
改善すべき点は多いが、指導等に工夫がしてあり、良い点もみられた。

2）児童感想文

学年	感想
4	とっても楽しくて、とってもおもしろかったです。このちょきんばこは大切にします。ありがとうございました。
4	楽しかった
4	今日、初めて参加しました！とても楽しかったです！とくに貯金箱をかざりづけをするのが楽しかったです！またやってみたいです！
4	とても楽しかったので、スノードームもあたったらうれしいです。かんたんだったので、初めてだけど作れました。
4	たのしかったです　もいかやりたいです。　Mせんせいとやりたいです。
4	楽しかったです。大変だったです。またきかいがあったらやりたいです。
4	たのしかったです　またやりたいです　ちょきんばこをでこるのがたのしかったです。
4	さいしょにおしえてもらったことがしんじられなくて、スゴカッタ　ちょきんばこのかがみかんけいないとおもいますなぜなら、かがみのうしろにいってるだけだからです。つぎもいきたいです。ぜんぶ行くぞー
4	サイエンス・ワールドで1回作ったことがあったけれど、ここまでかざりつけをさせてもらえなかったので、うれしかったです。何回も土曜チャレンジアップにきているけれど、毎回内容がぜんぜいちがうので楽しいです。またチャレンジアップにきたいです！
5	今日は、とても楽しかったです。かざりつけもかわいくできて、とてもよかったなと思いました。
5	今日は、とても楽しかったです。次の時もぜったいにさんかしたいです。じかんがなかったけれど、かわいいかざりがたくさんありました。マスキングテープもとてもかわいかったです。
5	とても楽しかったです。まさかこんなしくみとは、思ってもいませんでした。いろいろなしくみがよく分かって、楽しかったです。貯金箱もきれいに、かわいく仕上げられたので、とても満足しました。また、おもしろいことを作る！というプリントを見たら、ぜひ来たいです！！
5	お金が消える財金箱はそういうしくみなのかな？と思っていました。すごく楽しかったし、家で使ってみたいと思いました。また土曜チャレンジアップ教室に参加したいです！！
5	金くれ金くれ
5	今回は、2 回目でとても楽しかったです！お金が消える財金箱のなぞはわからなかったので、おもしろかったです。一番かざりつけに時間をかけてました。また家でもつかいたいです！
5	今日はいろんな白衣の先生に手伝ってもらって可愛く作ることができました！また参加したいです！！
5	消える貯金箱なんて本当につくれるのか、心配だったけど、マステやかざりつけがたのしかったです。先生達の説明はわかりやすく、とても面白かったです。

5	お金たまるかわかんないけど、楽しかったです。時間たりなくて残念だった。でも家でつづきをやります。かわいくできていたらいいです。
5	楽しかったです。ていねいに説明をしてくれたり、わからないことを教えてくれて、ありがとうございました。お家でも作ってみます。また、次の土曜チャレンジアップも楽しみにしています。
5	今回のしかけがおもしろかったです。次回のスノードームも来たいなーと思います。今日つくったちょきんばこに、たくさんお金をためたいと思います。
5	たのしかったまたやりたいですｗｗ
5	今日は、きえるちょきんばこを作ってすごくたのしかったです。かがみのしくみがよくわかったので、べんきょうになりました。また行きたいです。
5	今日、やる前にどうやってお金が消えるのか楽しみでした。実さいにやってみてとてもおもしろかったです。次の土曜チャレンジアップも楽しみです。
5	切るのとか、大変だったけれど、消える貯金箱はとっても楽しくて、またやりたいと思うほどです。デザインも楽しかったです。でももう少し時間がほしかったです。
5	今日は、「消える☆きょ金ばこ」を作りました。かわいいマスキングテープやていねいな先生たちの説明があって、じょうずにつくれたかも？と思います。一つ私が工夫した場所はあけるところがぱかぱかしてしまうので、さきを折ったマスキングテープをはって、はがせるし、とじる所です。
5	ありがとうございました！お金がうしろへ行くのが分かってとてもスッキリしました。家でマジック的なことをやってお母さんをビックリさせたいです。今日は、とても楽しかったです。
5	みんなの先生へ　たのしかったので、申し込みをしたいです。楽しみにしてます。
6	先生、楽しかった
6	今日は、いつもいじょうにたのしかった。１２月？ぐらいにもあたるといいなと思います。今日はありがとうございました。
6	楽しかったーW 先生ありがとうございました。

3）活動経過



○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

(1)児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　)	(教科 図工　)
中学生で習う光の性質や反射について、貯金箱を用いて、小学生でも楽しく学べるようにしました。光について学んでほしいと思います。	今企画は、とても細かな作業が多くあり、とても苦労すると思いますが、これを乗り越えていけば、図工の技能が育成されると思います。
(2)児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	(3)特記事項(安全面など)
最初に行われる導入と金魚を用いた実験を、児童に楽しんでもらえると嬉しいです。特に金魚の実験は、児童が行う機会であり、楽しめると思います。	安全面などは大丈夫であると思います。しかし、担任共有の道具が少なく、取り合いにならないか心配であります。

（サイン 渡部純子）

○活動を終えて

①準備過程

交通事情で少し準備が遅れていた。
受付時の声かけや児童への指示
をもう少しテキパキやる部分があって
も良いと思った。（名前だけではなく、クラス
も言ってもらうと受付がスムーズだと）

②企画の流れ・企画内容

見学に対して、2名増の中、全員を
受け入れて頂き有難うございました。

③学生の活動

学生の先生役（進行）が前で
説明してる時に、児童が説明を
聞かずに話をしている際の注意を
もう少し早く気がつくと良いと思う点が
多々あった

教員からの意見・評価

準備～10:00まで見学しました。チームワークもよく、1年生リーダーとは思えないスムーズさ（他の方の協力大）だったと思います。
ただ（導入）を学生たちは評価していますが、私にはよくも実際できませんでした。説明するとき、わかっていない子どもを把握できるようなればと思いました。

（サイン 吉田直弥）

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
準備には、たくさんの時間を費やしました。方眼紙の七切り方が折り方、ノリがテープか、様々な工夫や試行錯誤の末、今のような貯金箱が完成しました。工夫のほとんどが班員が行っていたので、自分は、作り方がわかっていなかった反省があります。	貯金箱の中に金竟が入っており貯金箱に覗き窓があり、その覗き窓を見ながらお金を入れても、お金が入ったことが見えないといった企画内容です。欠点としては、児童にとって作製が難しいです。
③学生の活動 真体みから活動を始め、とても余裕のある其月間があったため、細かな工夫や、たくさん試行錯誤が出来たと思います。また、企画書をたくさん修正しよりよい企画書になったのではないかと私は思います。	**④テーマに対する指導の工夫** 今回のテーマは、金竟の反射についてでした。指導の工夫としては、初めの導入の部分で、金竟を使用した遊びを児童に行ってもらい、「金竟」がポイントであることを身を持って体験させたことです。
⑤目標達成度 よく出来ていたと思います。児童が、楽しそうに、笑顔で活動を行っており、学生は、児童に対して、的確なアドバイスがされていました。フリーで見回っていましたが、困ったらすぐ相談をしており、学生同士の連携の良さが、よく見られた。	**⑥総合評価** 初めてのリーダーを務めて、大変でしたが、良い経験をしたと私は思います。企画は、他の班より遅くにあり、時間も多分にありました。その結果、良い企画書が、たくさん工夫した貯金箱、導入が出来たと思います。しかし、良いことだけとは限りません。リーダーである私は、班員間の連絡が、あまり出来ていなかった反省点があり、すばらしいと意思疎通
教員からの意見・評価	今回の企画リーダーは変わりましたが、次回私が、再びリーダーとなった時、今回の反省点が改善するようにしたいと思いました。

B. 八幡小学校 12 月 9 日

1）取材報告

1．参加者

参加者

小学 3～6 年生 18 名、大学 1・2 年生 6 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名、運営指導者 1 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

・スムーズに準備、活動、片付けが出来ていた

・児童の製作時間を十分にとっており、児童みんなが楽しそうに自分のペースで作品を作ることができていた

・学生が一人一人が自分の班の児童と積極的に接することができていた

2－2．企画の内容

・話をするときには必ず静かになってから話し始めており、少しざわついていた場合には学生が声掛けをすることができていた

・入れた硬貨がなぜ消えて見えるか模型を用いて説明することで、わかりやすくなっていた

・少し予定時間より遅れて企画が始まったが、企画リーダーが常に時間を意識して調節していたため予定通りに企画が進められていた

・前に生徒が立って説明するときに、作業に夢中で聞いてない人への注意が足りなかった。

2）活動経過

運営指導者からの意見・評価

23名の参加 毎回リピーターで欠席する子ども達も少なくなり先生方とも慣れ親しみなごやかで楽しく活動することができました。今回で終了ということを子ども達は残念がっていました。また来年と言っています！
お世話になりました。ありがとうございます。 （サイン 大野）

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
人数が少なく、準備期間も短かったものの、協力して早く準備を進めることができ、スムーズに進んだのでよかったです。	導入のお金を貯金箱に入れるところがもっとスムーズに行くとよかった。その他は順調だった。

③学生の活動	④テーマに対する指導の工夫
自分の役割をしっかりはたせていたし、児童に気を配れていたからよかった。	難しい言葉を使わないようにリハーサルのときに話し合い、本番はわかりやすく説明できていたと思う。

⑤目標達成度	⑥総合評価
前回の反省を生かし、よりよい活動ができた。1人1人がしっかり教えていたし、目標は達成できたと思う。	今までの反省を生かして、今までで1番スムーズに、うまくいった活動だったと思う。1年のしめくくりとしてよい活動だった。

教員からの意見・評価

参加者が多く工作の内容も興味深いものだった。役割分担して1人ずつ前で指導していたことは教職に就いた時のよい学びになっている。しかし1人の指導者で参加者(23名)を掌握し話を聞かせる技術や引きつける話術(本来なら)の勉強が必要であると感じた。(集中して)また休憩時間が最も子どもがけがや事故を起こす。トイレ休憩のみで十分な企画ではないだろうか。 （サイン 橋本美芳）

（１５）オリジナル水族館を作ろう！

A. 東野小学校 10 月 14 日

1）取材報告（報告者：伊藤　圭佑）

1．参加者

小学 4～6 年生 12 名、大学 1・2 年生 7 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

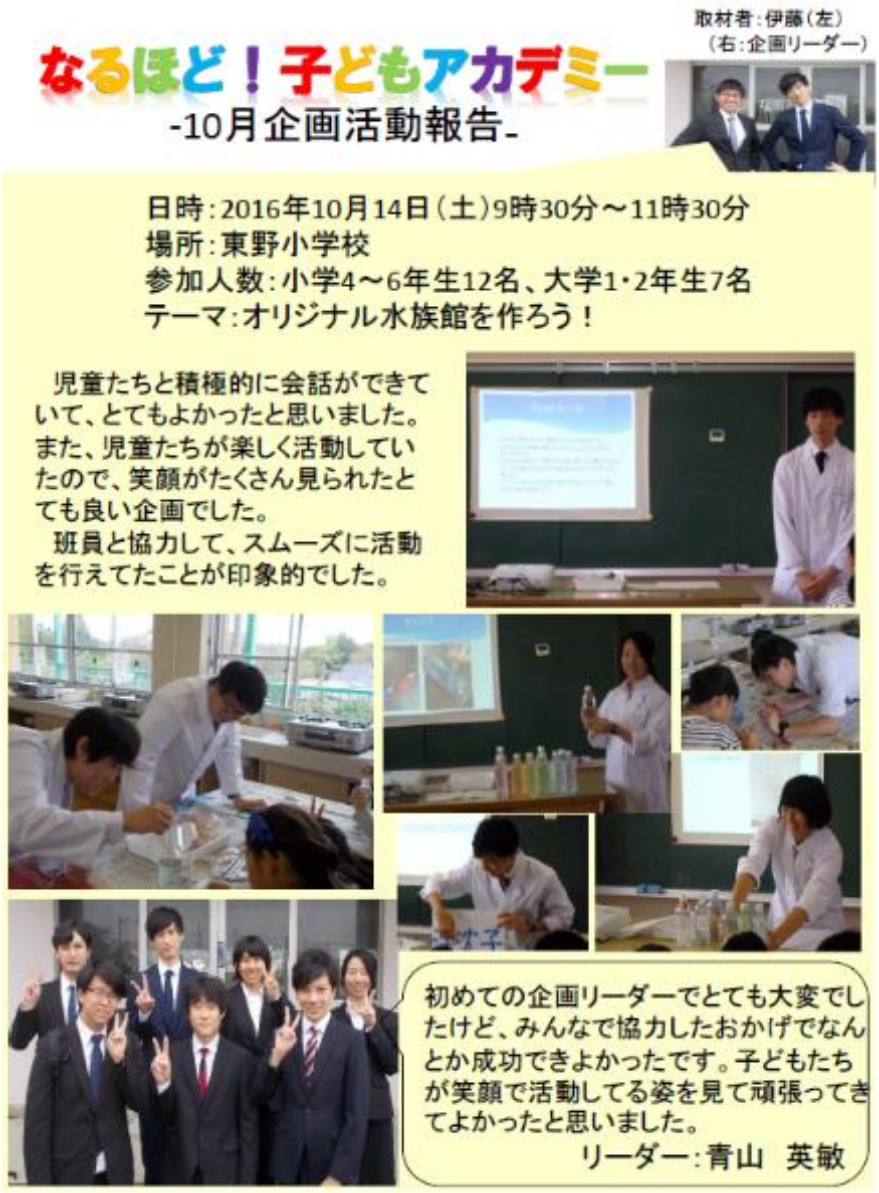
- 児童が主体的に活動をしていたため、楽しく活動できていた
- 児童と積極的に会話ができていたため、笑顔が多い活動になった
- スムーズ準備や活動や片付けができていた

2－2．企画の内容

・活動が切り替わる時に、「前向いてね」や「静かにしてね」などの声掛けがもっとあってもよいと思った

・鑑賞の時に、鑑賞していない児童がいたので、そこでどのような声を掛けるかが大事になると思った

・魚が沈んでしまった時の対応がもっとあってもよかった

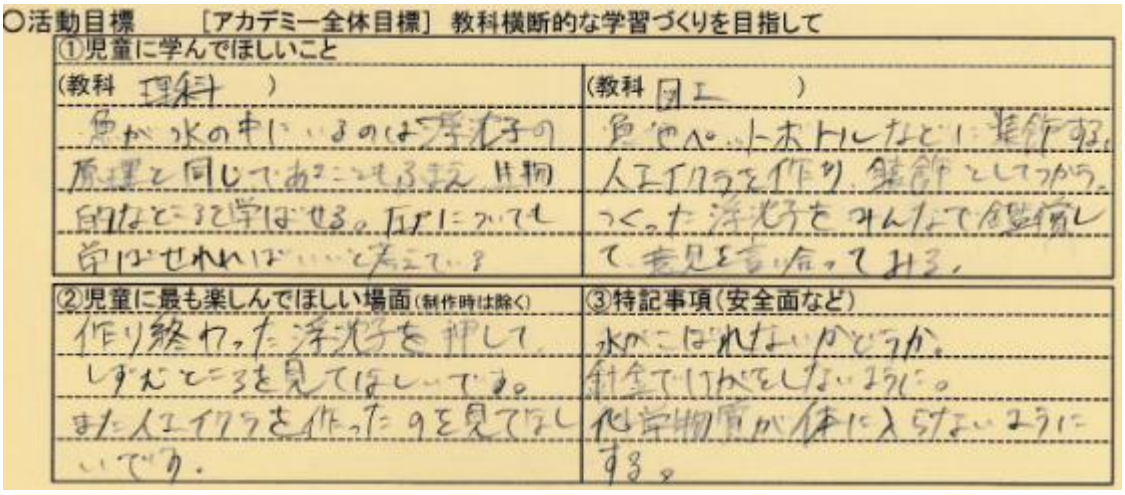


2）児童感想文

学年	感想
4	わたしは、今日始めてオリジナル水族館を作ったら、とても楽しかったです。プラチェーンやぴよぷよぼーるをつかってとても楽しかった。魚もペンでかけてたのしかったです。ラメも、ペットボトルに入れました。
4	今日の実けんはじゅ業や理科でやりたいと思いました。紙しばいの絵がきれいでなんの絵やどんな説明か分かりやすかったです。とても楽しかったです。
4	わたしは、じっけんがしたことがなかったので、とてもうれしいです。むずかしいかなぁと思ったけど、分かりやすくせつめいしてくれたので、分かりやすかったです。家でもつくってみたいくらいたのしかったです。またやりたいです。
4	魚つりがおもしろかったです。水のりょうによってかたさがちがいます。いろいろなことが知れておもしろかったです。家でもやりたいです。たくさんしりたいです。
4	みじかにある物でいろいろな工作ができ、りさいくるなどになるのでいいなーと思いました。それにクレーンゲームだっえできるし、そのままかざってもいいなーと思いました。
4	いくつかのしっぱいをくりかえして、かんせいしたのでとてもすっきりしたし、おもしろいことがいっぱいありました。これからも、あそびまくります。
4	いろいろな物を使ってすごいきれいな水族館が作れました。あまりつれないけれど妹がよろこぶと思いました。やりやすいように調節をしてくれたのであるていどできるようになりました。またいけたらきたいです。
4	魚は何回もしんだけど先生たちがたすけてくれた。色々ざいりょうがそろっていてびっくりした。楽しかった。次が楽しみ。
5	ぺっとぼとるでこんなきれいな水ぞくかんができるなんて思ってもいなかったけど予想よりはるかにきれいでした。家でも作ってみたいです。
6	魚がしずんでやばかったけど、とてもたのしかったです。白衣の先生が優しかったのでうれしかったです。
6	ペットボトルをおすとしずんでおもしろかったです！水をどれくらいいれるかとかいろいろこまかいさ業で大変でした。
5	すいぞくかんであそべてたのしかったです。また作りたいと思いました。
4	わたしは、今日始めてオリジナル水族館を作ったら、とても楽しかったです。プラチェーンやぴよぷよぼーるをつかってとても楽しかった。魚もペンでかけてたのしかったです。ラメも、ペットボトルに入れました。
4	今日の実けんはじゅ業や理科でやりたいと思いました。紙しばいの絵がきれいでなんの絵やどんな説明か分かりやすかったです。とても楽しかったです。
4	わたしは、じっけんがしたことがなかったので、とてもうれしいです。むずかし

	いかなぁと思ったけど、分かりやすくせつめいしてくれたので、分かりやすかったです。家でもつくってみたいくらいたのしかったです。またやりたいです。
4	魚つりがおもしろかったです。水のりょうによってかたさがちがいます。いろいろなことが知れておもしろかったです。家でもやりたいです。たくさんしりたいです。
4	みじかにある物でいろいろな工作ができ、りさいくるなどになるのでいいなーと思いました。それにクレーンゲームだっえできるし、そのままかざってもいいなーと思いました。
4	いくつかのしっぱいをくりかえして、かんせいしたのでとてもすっきりしたし、おもしろいことがいっぱいありました。これからも、あそびまくります。
4	いろいろな物を使ってすごいきれいな水族館が作れました。あまりつれないけれど妹がよろこぶと思いました。やりやすいように調節をしてくれたのであるていどできるようになりました。またいけたらきたいです。
4	魚は何回もしんだけど先生たちがたすけてくれた。色々ざいりょうがそろっていてびっくりした。楽しかった。次が楽しみ。
5	ぺっとぼとるでこんなきれいな水ぞくかんができるなんて思ってもいなかったけど予想よりはるかにきれいでした。家でも作ってみたいです。
6	魚がしずんでやばかったけど、とてもたのしかったです。白衣の先生が優しかったのでうれしかったです。
6	ペットボトルをおすとしずんでおもしろかったです！水をどれくらいいれるかとかいろいろこまかいさ業で大変でした。
5	すいぞくかんであそべてたのしかったです。また作りたいと思いました。

3）活動経過



○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと

(教科 理科)	(教科 図工)
魚が水の中にいるのは浮沈子の原理と同じであることもふまえ、生物的なところを学ばせる。万が一についても学ばせれればいいと考えている	魚をペットボトルなどに集合する。人工イクラを作り、集合としてつかう。つくった浮沈子をみんなで鑑賞して意見を言い合ってみる。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
作り終わった浮沈子を押してしずむところを見てほしいです。また人工イクラを作ったのを見てほしいです。	水がこぼれないかどうか。針金でけがをしないように。化学物質が体に入らないようにする。

運営指導者からの意見・評価

いろいろな材料を工夫して準備していましたね。子ども達も個性あふれる作品が出来て喜んでいたのが印象的でした。参加を募集する際に写真だけでなく、完成品を見せてあげられると、もっと興味を持ってもらえる様な気がしました。

（サイン　河原　）

○活動を終えて

①準備過程

とてもスムーズにできていた。ほとんど無駄なく時間が使えて自分としても良くできていたのではないかと思います。また、みんなで協力をして作業をすることができました。授業の内容もみんなで試行錯誤しながらできて良かった。

②企画の流れ・企画内容

企画の流れに特に問はなかった。時間もぴったり進んだので良かった。企画内容としては、もう少し改善が必要だと感じた。特に鑑賞の部分でもう少しエヲができるといいなと思いました。

③学生の活動

全員が協力をして全活動をすることができました。意見も全員で出し合い、良いところ悪いところを出していき、常にこの企画が良くなるように考え、行動ができていたのではないかと思う。

④テーマに対する指導の工夫

浮沈子のしくみについてもっとわかりやすく指導を次回はしたいです。紙芝居で行うというところはとても工夫されていて良いと思ったが紙芝居の内容が少し複雑であったのかなと思いました。

⑤目標達成度

100点満点で表すなら70点だと思います。子供たちは本当に楽しそうに作ってくれて、たくさんの笑顔が見られたのが本当に良かった。もう少し浮沈子についてわかりやすいとなお良いと思いました。

⑥総合評価

まず大きな事故や問題がなかったのが良かっ

教員からの意見・評価

準備から10:15まで見せてもらったが、チームワークもよく、1年生とは思えない落ちついた進行で、感心した。参加することが10人程度で残念。タイトルのインパクトが弱かった？"水族館"より、何かよいネーミングはなかったか？タイトルは、一番のテーマ、ポイントを伝えるものとして知恵をしぼって!!

（サイン　吉田直子）

B. 勝川小学校 12 月 16 日

1）取材報告

1．参加者

小学 4～6 年生 13 名、大学 1・2 年生 7 名

大学教員 1 名、小学校関係者、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 2 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

児童は比較的おとなしい子が多く、学生の話はしっかり聞いていた。オリジナル水族館が完成したらそれで遊び、魚でうまく飾りをすくった時の児童は嬉しそうだった。学生は児童の目線になってコミュニケーションをとっていた。児童の作品のいいところを見つけてしっかり褒めていた。

2－2．企画の内容

児童が学べるし、楽しめる企画だった。水に色をつけたりキラキラをいれたり、ぷよぷよボールを入れることで作品がきれいに見えた。全体でやり方を教えるのではなく、班の先生がその班の児童に教えている場面があり、そうすることで伝えたいことが伝わりやすい。あいている先生が使わなくなった物を片付けていたため最後の片付けあっという間に終わった。企画全体を全員が理解していたためスムーズに進んだし、児童が企画を楽しんでくれたため改善する点はありません。

2）児童感想文

学年	感想
4	お魚おいしかった。
4	さぎょうがたくさんあって家で作りたいです
4	たのしかった。おいしかった。
4	色を書くのが大変だったけど、楽しかった。
4	つるのが楽しかった。
4	つるのが楽しかった。（５回つった）
4	うらわざをつかったらすぐに魚がつれておもしろかった。
4	今日の勉強でいろいろなことをできるようになって、うらわざもおしえてくれたしひまなじかんがなくなるからよかった。
4	水族館と聞いていたので、見るだけかな～と思っていたけど、くりなどができたり、うりのうらわざがあったりして、おもしろかったです。早づりたいけつで１位になりました！
4	作る時も楽しかったし、他のみんなの作品のも見れてよかった。
5	つるのがむずいや！！おさかなもおいしかったわぃ！

3）活動経過

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
タクシーをどうするのか決まっておらず、荷物班がつくのがおそかったため、準備のスタートが遅れてしまった。しかし、協力して素早く動けていた。もっと余裕をもって準備できたらよかった。	流れはよかったと思う。時間が少しあまっていたため、児童がやりたい活動を延長したり、ゲームを取り入れたりと有効に使えた。前回の課題だった鑑賞に十分時間をとることもできた。
③学生の活動	**④テーマに対する指導の工夫**
全員が活動の流れをちゃんと理解していたためスムーズに活動することができた。準備の段階でも、もっとこうすればよいなど意見を出し合いよりよい企画を目指すことができたと思う。	課題だった浮沈子の説明が小学校で習ったものと関連付けて教えることができた。氷の着色や息とペットボトルの色ぬりを自由にやらせることができた。
⑤目標達成度	**⑥総合評価**
100点満点で考えるなら85点くらい。児童たちの楽しむ姿も見れたし、自分たちも楽しめた。流れもスムーズで良かったと思う。しかし、学ぶ内容があいまいだったかなと思う。	大きな事故や怪我がなかったし、児童たちが楽しめたのでよかった。

教員からの意見・評価

とても練られた内容で、学生の皆さんの意欲を感じる活動でした。材料の準備も万全で、当日は安全面に留意しながらスムーズに進行でき、児童が熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。ただ浮沈子が浮いたり沈んだりする仕組みが分かり難いように思いました。その点を改善すればさらに完成度のある（サイン 長尾貴子）

授業になると思います。

（１６）ふしぎなスノードーム

A. 八幡小学校 10 月 14 日

1）取材報告

1．参加者

小学 4～6 年生３２名　大学生８名

大学教員１名　教育委員会１名　運営指導者１名　観覧保護者６名

2、活動報告書

2－1　活動の様子

・児童がスノードームの不思議な現象に興味を持っていた。

・自分たちから積極的に、児童とコミュニケーションをとっていた。

・その場に応じた適切な注意喚起がなされていた。

2－2　企画の内容

・準備に入る時間が遅かったので、時間を常に気にしてテキパキと行動する。

・私語が多い状態での説明は児童が聞いていない可能性があるので、静かになってから説明を開始するほうが良いと思う。

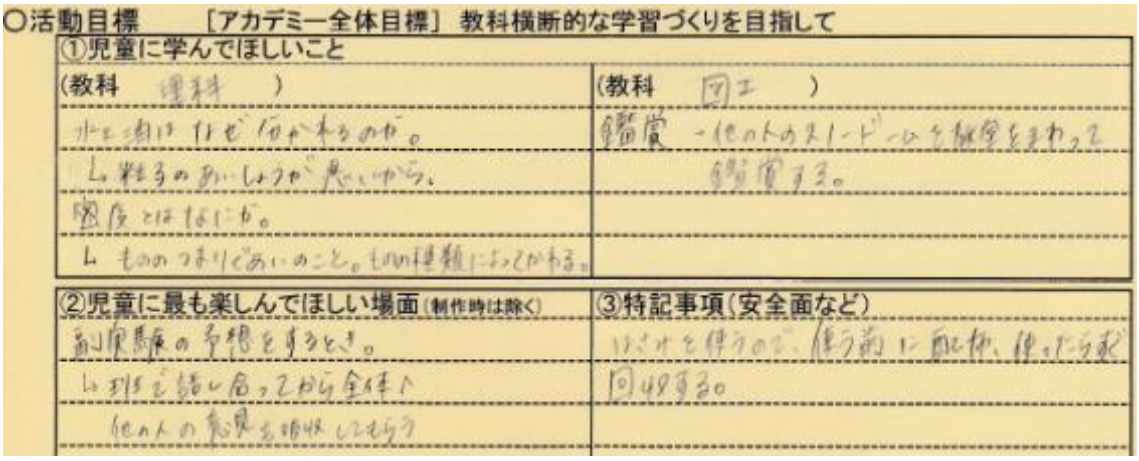
・タイマーが鳴る前に説明の準備ができていた。

2）児童感想文

学年	感想
3	ストローで作るやつが楽しかった。スノードームがとてもきれいだった。油と水のやつは知っていたのが多かった。油のじっけんはけしごむだけあってたけどあとはぜんぶまちがったいた。
3	スノードームが一番楽しいぜんぶたのしかったです先生がやさしい
3	いちばんたのしかったのはみずとあぶらをいれるのがたのしかったおしえてくれたせんせいがやさしかった
3	いちばんはじめのストローでカニや花をつくることがむずかしかったです。つぎにスノードームをつくってわたしはみずいろの色のしました。わたしは土ようちゃれんじあっぷをまいかいきているのでたのしいと思っていました。
3	スノードームのこうさくが楽しかったです。
3	きょうはありがとうございました。また土曜チャレンジアップ教室があったらおうぼしたいです
3	じっけんがたのしかったです。
3	楽しかったことは、スノードームを作ったことです。水とあぶらのじっけんをしたのもよかったです
3	すごくふしぎで楽しかった。
3	先生がいろいろおしえてくれたのでよくわかりました。わたしはシーザードレッシングをサラダにかけるのですが、水と油をまぜずにたべたことがあります。
3	水と油はまざると思っていたけど、まざらなかったからびっくりしました。スノードームのせつめいが分かりやすかったから、楽しかったです。スノードームがきれいでうれしかったです。
3	じっけんがたのしかったです。スーパーボールを作ってとばしてみたいです。
3	先生の説明がとてもじょうずでした。前でせつめいしていて、きんちょうはしてないようにみえて、とてもよかったです。
3	先生がおもしろかったです。スーパーボールを作るのが楽しみです。かにはかわいかったです。
3	未記入
3	スノードームのエビをおしえてくれた先生がやさしかったです。
3	いつもよりキットが多くてよかった。
3	いつもたのしいけど今がいちばんたのしかったし、先生がとてもおもしろかったしやさしかったです。
3	わたしは、水と油をいれたりビーズをいれるところが楽しかったです。わたしはストローで物を作る時花を作ったんだけど少しだけむずかしかったです。でも楽しかったです。
4	スノードームを作るのが、楽しかったです。家でも水と油で作ってみたいと思いました。あとは油は水の上にうくことがわかりました。

4	スノーボールがたのしかった。油がぎとぎとしていておもしろかった
4	未記入
4	楽しかったです。スノードームを作れてよかったです。
4	無料でよかった
4	一番たのしかったのはスノードームを作った時に花だったりカニやエビを作ってすごいと思いました。土曜チャレンジアップにまた来たいと思いました。
4	スノードームをつくるのがたのしかったです。ストローこう作のときにカニや花などをつくるのがよかったです。
4	先生が一番おもしろかった！一番楽しかったことは、スノードームの水と油を入れるところが楽しかった。またできればきてみたいと思いました。
5	スノードームが水と油だけでできてかんたんでたのしかったです。またやりたいです。家でもためしてみたいです。
5	とてもふしぎだった。
5	先生がとてもやさしかったです。あと油と水があれば、すぐにスノードームがつくれるときいて、さっそく家でやってみようと思いました。ビーズがたくさんあってとってもステキなスノードームをつくることができました。
5	スノードームを作るのは初めてだったけど先生が優しくしてくれたのですごく分かりやすかったです。スーパーボールは大好きなので自分で作れるんだったらもっと大好きになりました。今日も楽しかったです。また来たいです。
5	先生やさしくて楽しかったです。スノードームは油と色つきみずとぷよぷよボールなどがあれば、かんたんにできるということが分かりました。
当日追加	ぼくはキットがはじめてなのでとてもうれしかったですまたつぎのきっともやってみたいですぼくはスノードームがもらえてうれしかったスーパーボールがもらえてうれしかったです。スノードームがいろが二しゅるいになったのがおどろきました。

3）活動経過



○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと

(教科　理科　)	(教科　図工　)
水と油はなぜ分かれるのか。	鑑賞 ―他の人のスノードームを教室をまわって
↳ 粒子のあいしょうが悪いから。	鑑賞する。
密度とはなにか。	
↳ もののつまりであいのこと。ものの種類によってかわる。	

②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
副実験の予想をするとき。	はさみを使うので、使う前に配布、使ったらすぐ
↳ 班で話し合ってから全体へ	回収する。
他の人の意見を吸収してもらう	

運営指導者からの意見・評価

休み時間は長く感じましたが、製作の時間はあっという間でした。
人数が多くて大変だったと思うのですが、子ども達も先生たちとの関わりを楽しみにして来てくれていて、とてもうれしそうでした。
またおねがいします。

（サイン 大野 ）

○活動を終えて

①準備過程

最悪でした。最初の活動から見通しを立てることができておらず、後の方にどんどん仕事を残してしまいました。そのため準備はギリギリで企画の細かな所までは決まりきりませんでした。
次回の企画からはまず見通しを立て、職員全員がやるべき事を理解し、進めていきたいです。

②企画の流れ・企画内容

企画の内容、不思議なスーパーは興味をもってもらえるような企画ではあったと思います。
だけど、製作を先に副実験を後にしてしまったために、副実験のやる気がおきないるがいたようだったので企画の順番を考えなおさないといけないと思いました。

③学生の活動

学生に対してやることが多すぎたが、みんなが周りを見ながら行動できていたと思う。そのおかげで企画が成功したと思うし、とても協力できていたと思う。だけど、細かい部分の役割が決まっておらず、児童に目が届ききらなかったり、静かになってくれなかったりした。

④テーマに対する指導の工夫

どうして水と油が2層に分かれるのか、水と油の性質と密度を交えて説明すること。
密度が中学校で学習する内容なのでよりわかりやすく、なじみやすく説明することをいかけること。

⑤目標達成度

目標達成度は42%。企画がけがなく時間内に無事におわれたのでよかった。でも、準備が終わりきらなかったり、時間が押して国工の観点である鑑賞の時間をけずってしまい、企画書通りに進めることができなかったこと。

⑥総合評価

今回は全体的に準備不足だったのと、準備が全て甘かった、雑だったので、当日や前日にバタバタして終わらなくて大変だった。だけど学生の協力が強くて今回は無事におわったと思います。
なので今回は1年生企画としては成功かなと思いますが、課題点はたくさんあるので次も頑張りたいです！

教員からの意見・評価

細かい部分について反省点がいくつかあげられますが
全体的にまとまっておりよかったと思います。
この調子でレベルUPしていって下さい。

（サイン 古市 ）

B. 松山小学校 12 月 16 日

1）取材報告（報告者：倉地真歩）

1. 参加者

小学４～6 年生 30 名、大学１・2 年生 8 名

大学教員１名、小学校関係者１名、教育委員会関係者１名、保護者３名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・活動中はとてもスムーズだった。

・それぞれの活動の時間に誤差がほとんどなく、計画通りに進めることが出来ていた。

・児童が騒がないように注意喚起をきちんと行っていた。

・児童に配布するものや、実験に使うものが多かったため、準備に少し手間取っていた。

2－2. 企画の内容

・全体的にとてもスムーズで、学生同士の連携がとれていた。

・ただスノードームを作るだけでなく、制作の前後に実験を入れることで児童が楽しく学ぶことができるようになっていた。

・実験の予想を立てる場面や、説明をするときに掲示物がたくさんあり、工夫されていた。

・制作の時間があまりなかったので、未完成の児童もいた。

・鑑賞の時間、学生が児童に積極的に声をかけることができた。

2）児童感想文

学年	感想
4	今日はスノードームを作って、楽しかったです。ストローのかざり作りはむずかしかったけどおもしろかったです。
4	今日は、とてもキレイなふしぎなスノードームをつくれました。家でもつくってみたいと思いました。
4	今日はいろんな実験も見れたし、自分の好きなスノードームも作れたのでとてもたのしかったです。つぎもあったらやってみたいと思います。
4	また参加したい。また先生に会いたい。
4	先生がおもしろかったです。スノードームを作った時、またつくりたいです。
4	きょうぼくはスノードームを作りましたとってもたのしくはじめてだったのでドキドキしていて少しふあんだったけど楽しかったです。また来年もやりたいです。
4	おもしろかったので、げんかんにかざっておきたいです。つぎのどようチャレンジアップがたのしみにです。次回も先生がまたいいです。
4	クリスマスっぽい作品ができたのでうれしかったです。ストローを入れすぎてしまったけれど、自分なりにはいいと思いました。
4	今日ふしぎなスノードームをつくってぷよぷよがとてもふしぎでした。水に入れるとゆうれいみたいにあまりみえなくなるからです。
4	スノードームは鮮やかな色になりました。クリスマスよりはちがったけど、ストローの色を水色にしなくてよかったです。ストローの花がおかしくなったけど、とてもたのしかったです。
4	みんながきれいなスノードームを作っていてすごいと思いました。
4	油と水が分かれるなんて、不思議でした。とてもきれいに分かれていたので、他の色で作ってもきれいだと思います。鉄の球がしずんでボーリングの球がうくなんて・・・不思議！
4	きれいにすのうぶんをできたのでたのしかったです。
4	スノードームが油とみずにわかれるりゆうがわかりうれしいです。ナゾもあったけど、いい土ようチャレンジアップでした。
5	きれいなスノードームが作れて楽しかったです。
5	スノードームはキレイニできました。先生がめちゃくちゃおもしろかったです。キレイにストローでお花をつくることができてうれしかったです。また来たいです。
5	今日はスノードームが作れてすごく楽しかったです。実験ができてうれしかったです。またやりたいです。次回も楽しみにしています。
5	今日のスノードームはビーズが固まってしまって残念でした。けど、ふしぎなスノードームが作れてよかったです！しかも､実験までできてよかったです｡またやりたいです！

5	今回のスノードームは、とても楽しかったです。また来たいです。
5	スノードームはどうやってつくるのかどうかなぞだったけど作るとなるほどと思うことがありました。また作りたいです。
5	おみやげがあって、うれしいです。きれいか分からないけど、楽しかったです。ありがとうございました。
5	今回は、実験を２回やっておもしろかったです。きれいなスノードームではないけど、おもしろいスノーどーむができました！ぷよがとても気持ちよかったです！！スライムみたいなものがしずんだビーズについていておもしろかったです！
5	今日やった実験で知っていることもあったけど知らないこともたくさんあったのでとても楽しかったし、とても勉強になりました。
5	今日のチャレンジアップで作ったスノードームはおもったよりもきれいにできたのでよかったです。また水よりも油の方が軽いと知って驚きました。ぷよぷよがすきとおって見えて、おもしろかったです。
5	今日は、スノードームを作ってこんなことがわかりました。「プヨプヨ」は水のところにいってみえなくなってということが分かりました。こんどの土ようちゃれんじあっぷにいきたいです。
5	きょうたのしかったです。また申しこみをしたいです。
6	とてもキレイなスノードームができた。とてもたのしかった。カニの目がむずかしかったので、ペンで書いた。タコの目と口もペンで書いた。
6	てがあぶらになりかけたけど、もうやれないことよりよっぽどいい思いでができてうれしかったです。いままでありがとうございました。
6	今日は楽しかったです。でもネギと言われて残念でした。でも楽しかったです。一生忘れません！ありがとうございました。
6	スノーボールに先生がおもしろかったです。とても楽しかったです。

3）活動経過

運営指導者からの意見・評価

はじめに児童に「どうなるか」を考えさせる グループワークや話し合いの時間があって、その後、実際に実験をして、その結果を発表、最後に作品作りをするという一連の流れがよく考えられていて、よかったです。単なる工作だけで終わらず学習要素も入っていて、よい企画だと思いました。作品の完成度も高く児童たちもとても喜んでいる感じでした。いろいろ修正や改善を加えた結果だと思いますが、1年間の成長を感じさせる内容だと感じます。今回は1年生全体の企画だと思いますが、生年度をグループにしてもらえることを期待しています。

（サイン 加藤恵子）

○活動を終えて

①準備過程

前回を踏まえて計画を早めに行ったものの、その後企画の詳細が二転三転し、それに伴う準備に時間がかかった。それ以外の準備にも時間をかけすぎていた。全体として計画は整っていても、準備を後回しにする傾向にあった。

②企画の流れ・企画内容

児童の興味関心が続くような構成で行えた。学生が十分に企画の流れを把握しており、本番中ほぼ企画書を確認せず、トラブル以外滞りなく進行できたと思う。当日の準備に時間がかかり、児童に手伝ってもらうことがあり、設営をより効率よくできるような準備をすべきだった。

③学生の活動

一部、学生が担当の仕事を行えなかったが、他の者が周りをよく見ていたので、結果として上手く回すことができた。また、細かい作業の担当の決め忘れもあったが、こちらも同様だった。学生側としては、至らぬ点も多くあったが、互いにフォローしあうことができていた。

④テーマに対する指導の工夫

どうして水と油が二層に分かれるのか、水と油の性質と密度を交えて説明すること。ボウリング演示によって、より分かりやすく説明できた。副実験では、沈める素材の種類を増やしたことで、より児童の興味を引くことができた。

⑤目標達成度

約80%。怪我のないこと、時間内に企画が終了できたこと、加えて前回の反省を生かして児童に興味を持たせて、密度や水と油の性質をより分かりやすく説明できたことはよかった。

⑥総合評価

全体的に準備に時間をかけすぎたことが大きな課題である。水面下の細かい所で注意がいくつかあったが、学生間のフォローにより、表には大きな問題にならなかったのが幸い。前回の反省からも多くを改善できていたので、概ね成功と言えると思う。

教員からの意見・評価

9:00～12:10
指導内容と作品づくり（おもの）は、これまでと比較してとてもよく活動ができたと思う。説明や見本の完成度も高かった。唯一気になった点は、流れの理解不足か、教材研究のますさか、流れが止まるという場面があったこと。
~~千分は振り返り~~ 次回に生かしてほしい。

（サイン 吉岡 ）

３．活動を振り返って

（１）学生からの意見

土曜チャレンジ・アップ教室に参加する学生を対象に 12 月下旬に、アンケートを実施した。アンケート回答者は 42 名。アンケートの結果は以下の通りである。

ア．回答者の学年と性別

	1年生	2年生	総計
男性	10	11	21
女性	12	9	21
総計	22	20	42

イ．回答者の学年と活動回数

	1年生	2年生	総計
2回	0	1	1
3回	3	4	7
4回	10	14	24
5回	9	1	10
総計	22	20	42

ウ．回答者の学年と取材回数

	1年生	2年生	総計
0回	2	3	5
1回	12	16	28
2回	8	0	8
5回	0	1	1
総計	22	20	42

エ．活動全般を通してのあなた自身の変化

（1 年生からの意見）

No.	学生意見
1	・子どもたちと自然に話せるようになった。 ・子どもたちの行動や反応を考えて企画の流れを考えるようになった。 ・子どもの発言などを拾って、肯定的に返せるようになった。
2	・自身がついた！ ・言葉や姿勢、表情などに気をつけるようになった。 ・子どもと接することへの苦手意識が薄れた。 ・前を向いて話す大切さに気付いた。 ・様々な工夫点に気づき、自分に取り入れることができるようになった。 ・人の様子をみて、「ほめる」「気づき」などの意見をはっきり伝えられるようになった。
3	・2 年生の指示に従うだけだったのが、自ら動き、指示をすることができるようになった。 ・子どもたちとの関わり方が上手になった（会話、接し方など）。 ・授業の進め方が良くなった。

	・子どもたちの答えに上手に返すことができるようになった。 ・失敗してもアドリブを使ってカバーすることがうまくなった。
4	・児童の前で堂々と話すことができるようになった。 ・気が付かなかった安全面に気が付けるようになった。 ・周りを見て自ら積極的に動けるようになった。
5	・友達ができた ・先輩とのつながりができた。 ・人の前で話すことに少し慣れることができた。 ・企画の流れなど考えることができた。 ・グループの人に指示して動かすことができた。
6	・人前に立つことが少し慣れた。 ・児童とのコミュニケーションをとることができるようになった。 ・友達ができた。 ・先輩と関わることができた。 ・児童の反応を知ることができた。
7	・児童への対応の仕方がうまくなった。 ・話をするスピードなど児童を意識した受け答えができるようになった。 ・全体を見て、行動できるようになった。
8	・前で話をするときの緊張に対する慣れ ・子どもとの会話（何を話したらのってくれるのか） ・自信を持って話をすること ・子どもの反応を見て話をすること
9	・説明の仕方がうまくなった。 ・企画リーダーをして、全体をみることができた。 ・友達・先輩と仲良くなることができた。 ・子どもだからこそ気を付けないといけないことが分かるようになった。 ・子どもが何に興味を持つのか知ることができた。
10	・子ども前での話し方を学び、身につけることができた。 ・笑顔で子どもたちと接する大切さを実感することができた。 ・自分が与えらえた仕事をこなすことができた。 ・子どもたちがどうしたら理解してくれるのかを工夫することができた。 ・人前で話す自信が少しついた。
11	・教え方の見直し ・準備と計画の大切さを学習した。 ・子どもの動きについて、自分の甘さを知った。 ・子どもとの接し方を学んだ。

12	・話をするのが少しだけうまくなった。 ・児童を少しだけ見て話せるようになった。 ・あまり緊張することなく話をできるようになった。 ・視野を広く持つことができるようになった。
13	・子どもとの関わり方、接し方などを学んだ。 ・演じることを学んだ。 ・子どもの思考方法を少しだが理解できた。 ・子どもを守るための危機管理能力が向上した。 ・学生同士の関わり方を学んだ。 ・児童とのコミュニケーション能力が向上した。 ・楽しく学ばせるためにはどのようにすればよいかを学んだ。
14	・人前での緊張が減った。 ・適切な言葉を選べるようになった。 ・児童との接し方がうまくなった。 ・周りを見て行動する力が寄り付いた。 ・一歩引いて見れるようになった。
15	・子どもとうまく接することができるようになった。 ・人の前で堂々と話すことができるようになった。 ・棒読みにならず、前で話すことができるようになった。 ・周りを見て行動することができるようになった。
16	・児童への会話が始めて活動した時よりも、たくさんできるようになった。 ・児童が、何を楽しみ、何に興味を持つかがわかってきた。 ・たった 2 時間の企画だけで、たくさんの準備を行う大変さがわかった。 ・学生同士の情報共有の大切さが理解できた。 ・講義で行われる模擬授業がスムーズにできるようになった気がする。
17	・児童への注意や言葉使いに注意できるようになった。 ・児童にとって何が危険なのかを考えれるようになった。 ・企画や活動を指揮するリーダーの難しさを実感した。 ・授業で作成する指導案の児童の反応欄が書きやすくなった。より具体的に書けるようになった。 ・直接、児童と関わるので、自分が先生だと時間がわく。
18	・舞台度胸がついた。 ・リーダーとして必要な資質を学んだ。 ・児童との関わり方を学んだ。
19	・子どもとのコミュニケーションを学んだ。 ・前に立って話すことを学んだ。

	・緊張を和らげる。 ・グルーガンを使えるようになった。 ・子どもへの安全面への配慮ができるようになった。 ・もっとゆっくり話せるようになりたいと感じるようになった。
20	・説明の仕方を学んだ。 ・前に出て話すときの声の大きさを学んだ。 ・企画の流れのつながりを考えることができた。 ・友達が増えた。
21	・周りを見て、必要なこと、やるべきことがなんとなく分かるようになった。 ・子どもたちの気分を盛り上げる話し方ができるようになった。 ・人前で笑顔で話せるようになった。
22	・周りを見て行動すること ・自分のことを先生って呼べるようになった。 ・児童に注意すること ・仕組みを説明する。

（2 年生からの意見）

No.	学生意見
1 （活動 1 年目）	・周りを見ること。 ・児童との関わり方。 ・児童への指導。
2	・子どもとのコミュニケーションを去年よりとることができた。 ・説明力がついたと思う。 ・声の大小、強弱の付け方が去年より高めることができた。
3	・子どもとの接し方。 ・前での演示方法 ・コミュニケーション ・活動を成功させる外から見る目 ・子どもへの注意
4	・リーダーシップ ・対応力 ・計画性
5	・話し方 ・ミスをした時のフォロー ・子どもと接するときの余裕
6	・コミュニケーション能力 ・周囲を観察する力

	・協調性
7	・児童への接し方 ・時間の使い方 ・人との協力
8 （活動 1年目）	・班付きの時の児童への指示の出し方 ・児童に対しての話し方 ・児童の注目の集め方 ・次を予測して動く能力
9	・全体を見渡す視野 ・指示を出す力 ・活動の流れを考える力 ・注目を集めるための技術
10	・上級生としての立ち方 ・子どもとの関わり方 ・企画のつくり方 ・教材研究する力 ・判断力 ・前に立った時の話し方 ・保護者さんとの関わり方
11	・児童との会話する力 ・物を作る（図面を作る）力 ・前に立って話す力
12 （活動 1年目）	・児童への積極的な声掛け ・気の配り方 ・注意の仕方
13	・大勢の前に立って話すことに慣れてきた ・子どもに伝わるような言葉選びを意識できるようになった。 ・子どもが安全に活動できるように考えるようになった。
14	・子どもに対する対応の仕方、接し方が去年よりさらに身についた。 ・内容を意識した企画を考えるようになった。 ・企画に対する批評を考えられるようになった。
15	・子どもとの接し方が昨年より友人から先生の立場に近くなった。 ・自分のことだけでなく、周りにも気を配ることができるようになった。 ・前で自信をもって話すことができた。
16	・みんなの前で話す力 ・笑顔で児童と接すること

	・周りを見て行動する ・積極性
17	・前で節女字するときに、一旦静かにしてから説明を始められるようになった。 ・児童に接するときに困惑することがなくなった。 ・児童に対する注意力を高めることができた。 ・人前で話すときに緊張しなくなった。 ・児童に対する注意の仕方がわかった。
18	・子どもへの接し方。 ・企画を考える力 ・ミスをカバーする力 ・ミスをしても動じなくなった。 ・先を見通して行動できるようになった。
19	・多くの人をまとめる力 ・話をきちんと聞かせる力 ・子どもとのコミュニケーション力
20	・判断力が少し強くなった。 ・子どもへの配慮が良くできるようになった。 ・1 人で複数人の児童を見ることができた。 ・子どもの興味の引き方を学んだ。

（2）土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って（教員から）

春日井市教育委員会から中部大学あてに、土曜チャレンジ・アップ教室に関する依頼連絡をいただいた。4 月に入り、春日井市教育委員会のご支援のもと、年間スケジュールと土曜チャレンジ・アップ教室を実施する春日井市立小学校 8 校が決定し、今年度の活動が始まった。事前準備として、春日井市教育委員会のご支援のもと、土曜チャレンジ・アップ教室を実施する各小学校の家庭科室の下見を各小学校の校長先生、教頭先生、教務主任の先生方によるご協力を得て、5 月下旬に行った。下見では各小学校へ代表学生 3～4 名が参加し、土曜チャレンジ・アップ教室を開催する教室の場所や室内の配置、備品の個数、さらには大学生や児童の動線を確認した。また学内では、教科指導教員による企画内容や小学生への指導方法についての研修会のほか、小学校における活動への心構えや身だしなみなどの助言を行った。

6 月に入り、土曜チャレンジ・アップ教室が始動した。2017 年 12 月までに、のべ 606 名の児童が参加してくれ、複数回にわたり継続して参加する児童もいた。土曜チャレンジ・アップ教室の最後には児童らの感想を簡単にまとめて提出してもらった。児童らの素直な反応は、企画内容の構成や学生の説明方法に加え、土曜チャレンジ・アップ教室を見直すきっかけとなり、次の企画を考える際の学生らの励みになった。また、土曜チャレンジ・アップ

教室を終えた学生からは上記のような感想が得られ、小学校現場での体験が学生自身の成長とともに、個人の課題を得たことが伺える。

最後に、春日井市教育委員会と学校長に貴重な機会をいただいたこと、そして、指導運営委員の方々には、土曜チャレンジ・アップ教室における安全面の配慮や児童への接し方についてご指導ことに深く感謝したい。

活動情報の公開

なるほど!子どもアカデミーホームページ

中部大学＞現代教育学部＞なるほど！子どもアカデミー＞今年度の活動

随時、活動の様子を公開している。https://www3.chubu.ac.jp/kodomo_academy/（2018 年 2 月 16 日確認）

春日井市ホームページ

春日井市＞広報で知る春日井＞広報春日井特集＞みんなで育み、みんなが輝く＞地域の皆さんと共に楽しく学ぶ

土曜日を楽しく有効活用する活動として、土曜チャレンジ・アップ教室が紹介されている。http://www.city.kasugai.lg.jp/koho/special/1010862/1010866.html（2018 年 2 月 16 日確認）

付記

本活動は、**中部大学現代教育学研究所**「教育的人間力育成プロジェクトなるほど！子どもアカデミー]、春日井市教育委員会より研究及び活動に対する経費支援を受けた。

あとがきにかえて

「子どもアカデミー」には春日井市内外から子どもたちが多数参加され、熱心に講座に取り組んでいただきました。知的な活気にあふれる講座となったことをこの場を借りてお礼申し上げます。

本活動全体は、9 名の教員がそれぞれの専門性を生かしながら協同して推進しており、今後も継続していく予定です。主な役割分担として、全体統括、渉外を高木、概念、理論研究を吉田、学生への教科指導を高木・小笠原・橋本・小池・長尾・味岡、成果に関する調査研究を吉田・三島・古市、運営事務を吉田・古市・味岡が担当していますが、適宜全員で協議しながら進めました。本報告書もほぼ全員が何らかの形で執筆に関わっており、編集作業は主に味岡が行いました。

私たち教員の願いは、「子どもアカデミー」という地域に根ざした課外活動において、教師を目指す学生たちが教職に関する実践力をさらに高め、人間的な成長を遂げていくことです。そのような仕組みとして「子どもアカデミー」そのものも成長していければと願っています。

これからも地域や関係のみなさまのご支援をお願い致します。

2017 年度　「子どもアカデミー」活動報告書

発行日　2017 年 3 月 31 日
編集・発行　中部大学現代教育学部現代教育学科
「子どもアカデミー」
〒487-8501　愛知県春日井市松本町 1200
中部大学現代教育学部現代教育学科
TEL　0568-51-1111（代表）
代表　高木　徹